性別による無意識の思い込み
（アンコンシャス･バイアス）に関する市民意識調査
調査報告書

令和８年３月

鹿児島市

＜目次＞

第１部（市全体）
１　調査の概要
１－１　実施方法等の概要
１－１－１　調査の目的 …… １
１－１－２　調査の対象 …… １
１－１－３　実施方法 …… １
１－１－４　調査期間 …… １
１－１－５　有効回答数・回収率 …… １
１－１－６　回収率を上げるための方策 …… １
１－１－７　本報告書を読む際の注意点 …… １
１－２　設問設計の概要
１－２－１　設問の構成 …… ３
１－２－２　測定項目 …… ４
２　調査結果の概要
２－１　回答者属性
２－１－１　性別 …… ５
２－１－２　年齢 …… ５
２－１－３　雇用形態 …… ５
２－１－４　婚姻歴 …… ６
２－１－５　夫婦の職業 …… ６
２－１－６　子どもの有無 …… ６
２－２　性別役割意識
２－２－１　全体 …… ７
２－２－２　男女別 …… ８
２－２－３　若年層（10～30 代）の男女比較 …… 11
２－２－４　男女・年代別 …… 12
２－３　性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
２－３－１　全体 …… 16
２－３－２　男女別 …… 18
２－３－３　男女・年代別 …… 24
２－４　性別役割意識と経験の男女差比較 …… 42
２－５　性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード・アクション
２－５－１　エピソード …… 43
２－５－２　アクション …… 49
２－６　アンコンシャス･バイアスという言葉について
２－６－１「アンコンシャス･バイアス」という言葉の認知度 …… 55

２-６-２「アンコンシャス･バイアス」という言葉をどこで聞いたか …… 56
３設問一覧 …… 57

第２部（学生）
１ 調査の概要
１-１ 実施方法等の概要
１-１-１ 調査の目的 …… 62
１-１-２ 調査の対象 …… 62
１-１-３ 実施方法 …… 62
１-１-４ 調査期間 …… 62
１-１-５ 有効回答数 …… 62
１-１-６ 回収率を上げるための方策 …… 62
１-１-７ 本報告書を読む際の注意点 …… 62
１-２ 設問設計の概要
１-２-１ 設問の構成 …… 64
１-２-２ 測定項目 …… 65
２ 調査結果の概要
２-１ 回答者属性
２-１-１ 性別 …… 66
２-１-２ 年齢 …… 66
２-１-３ 学校 …… 66
２-１-４ 出身地 …… 66
２-１-５ 専攻 …… 66
２-２ 性別役割意識 …… 67
２-３ 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
２-３-１ 全体 …… 71
２-３-２ 男女別 …… 73
２-４ 性別役割意識と経験の男女差比較 …… 78
２-５ 性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード・アクション
２-５-１ エピソード …… 79
２-５-２ アクション …… 85
２-６男女平等意識
２-６-１ 全体 …… 90
２-６-２ 男女別 …… 91
２-７ 本市への定住意向
２-７-１ 全体・男女別 …… 92
２-７-２ 本市の男女平等意識別 …… 93

２－７－３ 本市における性別による偏った思い込みによる影響 …… 94
２－８ 本市に定住すると仮定した場合の不安・懸念点
２－８－１ 全体・男女別 …… 95
２－８－２ 本市への定住意向別 …… 97
２－９ 本市の男女共同参画に関する自由意見（抜粋） …… 98
３ 設問一覧 ……100
４ 参考資料：有識者による学術的分析
－探索的因子分析・非階層クラスター分析－ ……105

第1部（市全体）

1 調査の概要

1-1 実施方法等の概要

1-1-1 調査の目的

本市の職場や家庭、地域など、社会全体における固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス･バイアスについて、その解消に向けた行動につなげることを目的として、基礎的なデータを収集し、分析する。

1-1-2 調査の対象

本市に住む 18 歳以上の市民 2,000 人（無作為抽出）

1-1-3 実施方法

郵送による配布・回収およびインターネット上での回収

1-1-4 調査期間

令和 7 年 6 月 26 日～同年 8 月 5 日

1-1-5 有効回答数･回収率

配布枚数	有効回答数
2,000件	661件（33.1%）

1-1-6 回収率を上げるための方策

回収率向上のため、回答しやすい調査票設計を行うとともに、回答者が途中で離脱しないよう心理的負担の軽減を図った。また、インセンティブとして、Web 回答者全員に PayPay ポイント 250 円相当と抽選で 5 人にお米ギフト券 3,000 円、郵送回答者には抽選で 5 人にギフトカード 3,000 円を付与した。

1-1-7 本報告書を読む際の注意点

- 図表中の「N」（Number of cases の略）は、無回答を除いた設問に対する有効回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出する際の基数となる。
- 回答の比率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入しているため、単一回答の設問でも各選択肢の回答に関する数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率（%）は、質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

- 回答の比率（%）の差分等は、小数点第２位以下を含む元データに基づいて計算し、その結果を小数点第２位で四捨五入して小数点第１位まで表示しており、図表上で示す比率を単純に減算した値と、計算値が一部異なる場合がある。
- 性別の質問で「答えない」を選択した回答者は、７人（全体の 1.1%）であり、全体の集計結果には「答えない」の回答者を含む。図表等では、「答えない」の回答者の表示は省略している。
- 比較対象として、全国のデータを引用した。データは、内閣府男女共同参画局が実施した「令和４年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス･バイアス）に関する調査研究 調査結果」に基づいている。また、本市は郵送で調査を実施したが、全国はインターネット調査であり、調査手法が異なる。
- 「アンコンシャス･バイアス」は、心理学の学術上は潜在的バイアスとも呼ばれる。これらは潜在的なものであることから、学術上、専門的な手法によって測定することは可能だが、意識的に回答を行うアンケート調査の手法で把握することは非常に困難であるとされている。したがって本調査は、心理学の学術上用いられるアンコンシャス･バイアスを調査するものではないことを申し添える。

1-2 設問設計の概要

1-2-1 設問の構成

本調査では、回答者自身の性別役割意識に関する 20 項目を 4 段階のリッカート尺度で測定した。その後、自己認識に関する 3 項目を除く 17 項目について、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験の有無をたずねた。

また、性別による無意識の思い込みにまつわるエピソードと解消に向けたアクションを募集したほか、アンコンシャス・バイアスという言葉の認知度や認知手段をたずねた。

表 1-2-1 設問の構成

項目	内容
性別役割意識	・測定項目は「家庭・コミュニティでの場面」「職場での場面」「その他」の性別役割に関する17項目、自己認識に関する3項目 ・尺度は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	・20の測定項目のうち、自己認識に関する3項目を除く17項目について、直接または間接的に性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験の有無 【直接】直接言われたり、聞いたりしたことがある 【間接】直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある 【メディアによる影響】テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある
性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード・解消に向けたアクション	・性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード（本市で概ね5年以内に経験したもの）とその際の自身の気持ちや感じたこと ・性別による無意識の思い込みを解消していくために取り組んでいるアクション
アンコンシャス・バイアスという言葉について	・「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っているか ・「アンコンシャス・バイアス」という言葉をどこで知ったか
属性設問	・基本属性（性別、年代、職業など）

※性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験とは、性別を理由に特定の役割を求められた・期待された経験

1-2-2 測定項目

表 1-2-2 測定項目

家庭・コミュニティでの場面	
1	男性は結婚して家庭をもって一人前だ
2	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ
3	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
4	家を継ぐのは男性であるべきだ
5	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ
6	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ
7	家事・育児は女性がするべきだ
8	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
職場での場面	
1	組織のリーダーは男性の方が向いている
2	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ
3	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
4	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
5	女性の上司には抵抗がある
6	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
その他	
1	女性は感情的になりやすい
2	男性は人前で泣くべきではない
3	女性には女性らしい感性があるものだ
ご自身について（自己認識）	
1	自分は性別による偏った思い込みはない
2	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある
3	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた

2 調査結果の概要

2-1 回答者属性

2-1-1 性別

※左段：件数、右段：%

表 2-1-1 回答者の性別

N	661	100.0
男性	258	39.0
女性	396	59.9
答えない	7	1.1

2-1-2 年齢

表 2-1-2 回答者の年齢

N	661	100.0
18～19歳	14	2.1
20～24歳	32	4.8
25～29歳	33	5.0
30～34歳	32	4.8
35～39歳	56	8.5
40～44歳	49	7.4
45～49歳	71	10.7
50～54歳	70	10.6
55～59歳	73	11.0
60～64歳	67	10.1
65～69歳	58	8.8
70歳以上	106	16.0

2-1-3 雇用形態

表 2-1-3 回答者の雇用形態

N	660	100.0
正社員・正職員	263	39.8
派遣・契約社員	28	4.2
パート・アルバイト	133	20.2
自営業・自由業	40	6.1
会社役員・経営者	25	3.8
専業主婦（夫）	52	7.9
学生	19	2.9
無職	100	15.2

2-1-4 婚姻歴

※左段：件数、右段：%

表 2-1-4 回答者の婚姻歴

N	659	100.0
結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む）	440	66.8
離別	46	7.0
死別	23	3.5
結婚していない	150	22.8

2-1-5 夫婦の職業

表 2-1-5 回答者の夫婦の職業

N	435	100.0
どちらにも職業がある	285	65.5
自分にのみ職業がある	52	12.0
配偶者にのみ職業がある	54	12.4
どちらも職業がない	44	10.1

2-1-6 子どもの有無

表 2-1-6 回答者の子どもの有無

N	659	100.0
いる	472	71.6
いない	187	28.4

2-2 性別役割意識

2-2-1 全体

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を示し、全国の調査結果と比較した。

自己認識に関する３項目を除いた 17 項目では、「女性には女性らしい感性があるものだ」（67.6%）が最も高く、次いで「女性は感情的になりやすい」（59.8%）、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」（39.9%）の順となった。上位３項目はいずれも女性に関する内容となっている。

全国と比較すると、「女性は感情的になりやすい」（本市 59.8%、全国 36.1%）は、本市の方が 23.7 ポイント高い。「女性には女性らしい感性があるものだ」（本市 67.6%、全国 44.3%）も、本市が全国を 23.3 ポイント上回っている。

表 2-2-1 性別役割意識
（全体）

全国と比較し20pt以上高い項目

	性別役割意識（全体）		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市-全国（%）
家庭・コミュニティでの場面	1（N＝658）	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	32.1	24.2	7.9
	2（N＝659）	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	27.1	25.0	2.1
	3（N＝656）	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	26.8	19.4	7.4
	4（N＝657）	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	22.5	20.4	2.1
	5（N＝657）	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	21.9	22.6	-0.7
	6（N＝658）	家を継ぐのは男性であるべきだ	20.9	19.8	1.1
	7（N＝658）	家事・育児は女性がするべきだ	18.5	24.0	-5.5
	8（N＝658）	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	8.9	12.8	-3.9
職場での場面	1（N＝657）	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	39.9	33.5	6.4
	2（N＝657）	組織のリーダーは男性の方が向いている	28.4	23.5	4.9
	3（N＝656）	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	27.2	21.2	6.0
	4（N＝655）	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	11.6	14.1	-2.5
	5（N＝656）	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	11.3	13.4	-2.1
	6（N＝655）	女性の上司には抵抗がある	10.9	13.9	-3.0
その他	1（N＝656）	女性には女性らしい感性があるものだ	67.6	44.3	23.3
	2（N＝657）	女性は感情的になりやすい	59.8	36.1	23.7
	3（N＝658）	男性は人前で泣くべきではない	26.5	23.3	3.2
自己認識	1（N＝659）	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた	74.9	なし	なし
	2（N＝657）	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある	59.8	なし	なし
	3（N＝655）	自分は性別による偏った思い込みはない	57.8	なし	なし

回答者数：鹿児島市(N)　全国10906

2-2-2 男女別

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を男女別に示した。

(1) 男女比較

自己認識に関する３項目を除いた 17 項目すべてにおいて、男性の割合が女性を上回った。

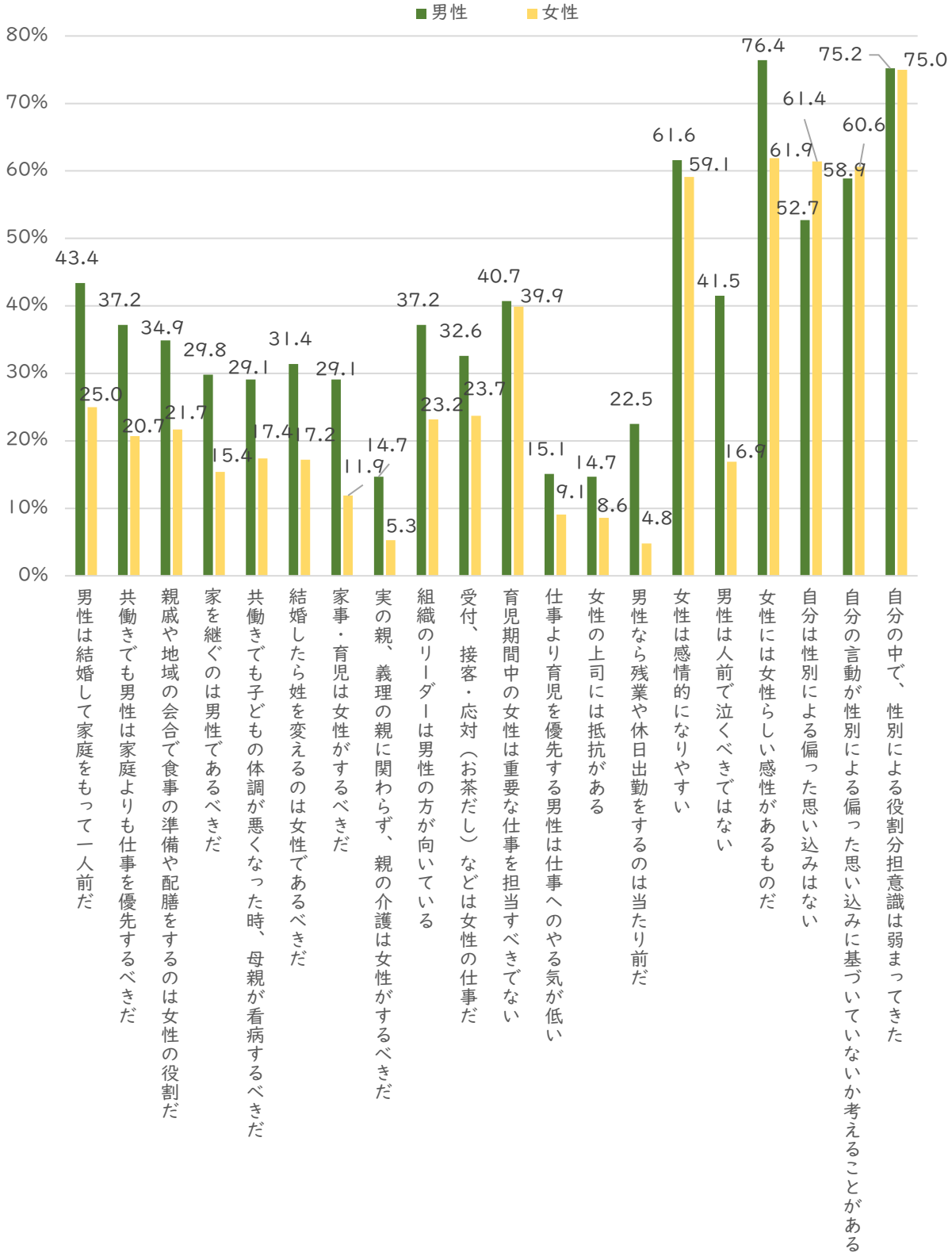
男女間で最も大きな差が出たのは、「男性は人前で泣くべきではない」（男性 41.5%、女性 16.9%）で、男性の方が 24.6 ポイント高い。「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」「家事・育児は女性がするべきだ」「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」も 15 ポイント以上の差があり、「男性は～するべきだ（すべきではない）」とする内容で開きがみられた。

表 2-2-2-(1) 性別役割意識
（男女別、男女比較）

男性の方が15pt以上高い項目

	性別役割意識	N (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性-女性 (%)
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ (N＝658、男性＝257、女性＝394)	32.1	43.4	25.0	18.4
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ (N＝659、男性＝257、女性＝395)	27.1	37.2	20.7	16.5
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ (N＝656、男性＝255、女性＝394)	26.8	34.9	21.7	13.2
	家を継ぐのは男性であるべきだ (N＝658、男性＝256、女性＝395)	20.9	29.8	15.4	14.4
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ (N＝657、男性＝256、女性＝394)	21.9	29.1	17.4	11.7
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ (N＝657、男性＝256、女性＝394)	22.5	31.4	17.2	14.2
	家事・育児は女性がするべきだ (N＝658、男性＝257、女性＝394)	18.5	29.1	11.9	17.2
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ (N=658、男性＝257、女性＝394)	8.9	14.7	5.3	9.4
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている (N＝657、男性＝256、女性＝394)	28.4	37.2	23.2	14.0
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ (N＝656、男性＝255、女性＝394)	27.2	32.6	23.7	8.9
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない (N＝657、男性＝256、女性＝394)	39.9	40.7	39.9	0.8
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い (N＝656、男性＝255、女性＝394)	11.3	15.1	9.1	6.0
	女性の上司には抵抗がある (N＝655、男性＝255、女性＝393)	10.9	14.7	8.6	6.1
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ (N＝655、男性＝254、女性＝394)	11.6	22.5	4.8	17.7
その他	女性は感情的になりやすい (N＝657、男性＝257、女性＝393)	59.8	61.6	59.1	2.5
	男性は人前で泣くべきではない (N＝658、男性＝257、女性＝394)	26.5	41.5	16.9	24.6
	女性には女性らしい感性があるものだ (N＝656、男性＝256、女性＝393)	67.6	76.4	61.9	14.5
自己認識	自分は性別による偏った思い込みはない (N＝655、男性＝254、女性＝394)	57.8	52.7	61.4	-8.7
	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある (N＝657、男性＝257、女性＝393)	59.8	58.9	60.6	-1.7
	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた (N＝659、男性＝257、女性＝395)	74.9	75.2	75.0	0.2

図 2-2-2-(1) 性別役割意識
（男女別、男女比較）



(2) 全国との比較

性別役割意識（自己認識に関する３項目を除く 17 項目）について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を男女とも高い順に 10 位まで選出し、全国の調査結果と比較した。

15 ポイント以上差が出たのは、男女とも「女性には女性らしい感性があるものだ」「女性は感情的になりやすい」という同じ２項目となっている。

多くの項目で本市の数値が高くなり、全体的には男性の方が全国との差が大きい。

表 2-2-2-(2) 性別役割意識
（男女別、全国との比較）

全国と比較し15pt以上高い項目

男性　上位10位		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市-全国（%）
1（N=256）	女性には女性らしい感性があるものだ	76.4	45.7	30.7
2（N=257）	女性は感情的になりやすい	61.6	35.3	26.3
3（N=257）	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	43.4	30.4	13.0
4（N=257）	男性は人前で泣くべきではない	41.5	28.9	12.6
5（N=256）	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	40.7	33.8	6.9
6（N=257）	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	37.2	28.4	8.8
6（N=256）	組織のリーダーは男性の方が向いている	37.2	26.1	11.1
8（N=255）	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	34.9	22.7	12.2
9（N=255）	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	32.6	24.1	8.5
10（N=256）	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	31.4	24.2	7.2

回答者数：鹿児島市（N）　全国5452

女性　上位10位		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市-全国（%）
1（N=393）	女性には女性らしい感性があるものだ	61.9	43.1	18.8
2（N=393）	女性は感情的になりやすい	59.1	37.0	22.1
3（N=394）	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	39.9	33.2	6.7
4（N=394）	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	25.0	17.9	7.1
5（N=394）	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	23.7	18.3	5.4
6（N=394）	組織のリーダーは男性の方が向いている	23.2	20.9	2.3
7（N=394）	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	21.7	16.2	5.5
8（N=395）	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	20.7	21.6	-0.9
9（N=394）	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	17.4	20.3	-2.9
10（N=394）	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	17.2	16.7	0.5

回答者数：鹿児島市（N）　全国5384

2-2-3 若年層(10～30 代)の男女比較

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合に関して、10～30 代の男女の結果を比較した。

若年層全体（167 名）のうち、男性 55 名、女性 109 名の回答を分析した結果、全体の傾向と同様に、自己認識に関する 3 項目を除いた 17 項目すべてで、男性の割合が女性よりも高くなっている。

「自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた」は、全体（74.9%）と同様に、若年層全体（75.4%）でも高い割合を示しているが、個別の項目では性別役割意識が残存している。特に「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」は若年層全体で 34.7%（男性 45.5%、女性 30.3%）と、若年層においても職場での性別役割意識が一定程度存在すると考えられる。

表 2-2-3 性別役割意識
（若年層の男女比較）

男性の方が10pt以上高い項目
女性の方が10pt以上高い項目

	性別役割意識	10～30代全体（%）	10～30代男性（%）	10～30代女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	21.0	36.4	13.8	22.6
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	16.8	34.5	8.3	26.2
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ（10～30代の全体＝165、男性＝53、女性＝109）	22.8	34.5	17.4	17.1
	家を継ぐのは男性であるべきだ（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	21.0	32.7	15.6	17.1
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	19.2	32.7	12.8	19.9
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	18.0	29.1	12.8	16.3
	家事・育児は女性がするべきだ（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	15.6	27.3	10.1	17.2
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	4.2	9.1	1.8	7.3
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	26.3	38.2	21.1	17.1
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	20.4	21.8	20.2	1.6
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	34.7	45.5	30.3	15.2
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	9.0	10.9	8.3	2.6
	女性の上司には抵抗がある（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	7.8	14.5	4.6	9.9
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ（10～30代の全体＝166、男性＝54、女性＝109）	7.8	16.4	3.7	12.7
その他	女性は感情的になりやすい（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	53.9	56.4	54.1	2.3
	男性は人前で泣くべきではない（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	18.6	34.5	11.0	23.5
	女性には女性らしい感性があるものだ（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	61.1	70.9	56.0	14.9
自己認識	自分は性別による偏った思い込みはない（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	52.7	47.3	55.0	-7.7
	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある（10～30代の全体＝166、男性＝55、女性＝109）	58.1	50.9	62.4	-11.5
	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた（10～30代の全体＝167、男性＝55、女性＝109）	75.4	70.9	78.0	-7.1

2-2-4 男女･年代別

男女・年代別の性別役割意識（自己認識に関する３項目を除く 17 項目）について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が最も高い属性と、最も低い属性を選出し、その差を分析した。10 代は回答者数が少ないため参考値として扱った。

「男性は人前で泣くべきではない」で、59.2 ポイントという最大の差が生じている。全体的な傾向として、多くの項目で男性の高年齢層（50 代以上）が最も高く、女性の若年層（特に 20 代）が最も低い割合となっており、世代間のギャップが顕著であることが示唆される。

表 2-2-4 性別役割意識
（男女・年代別）

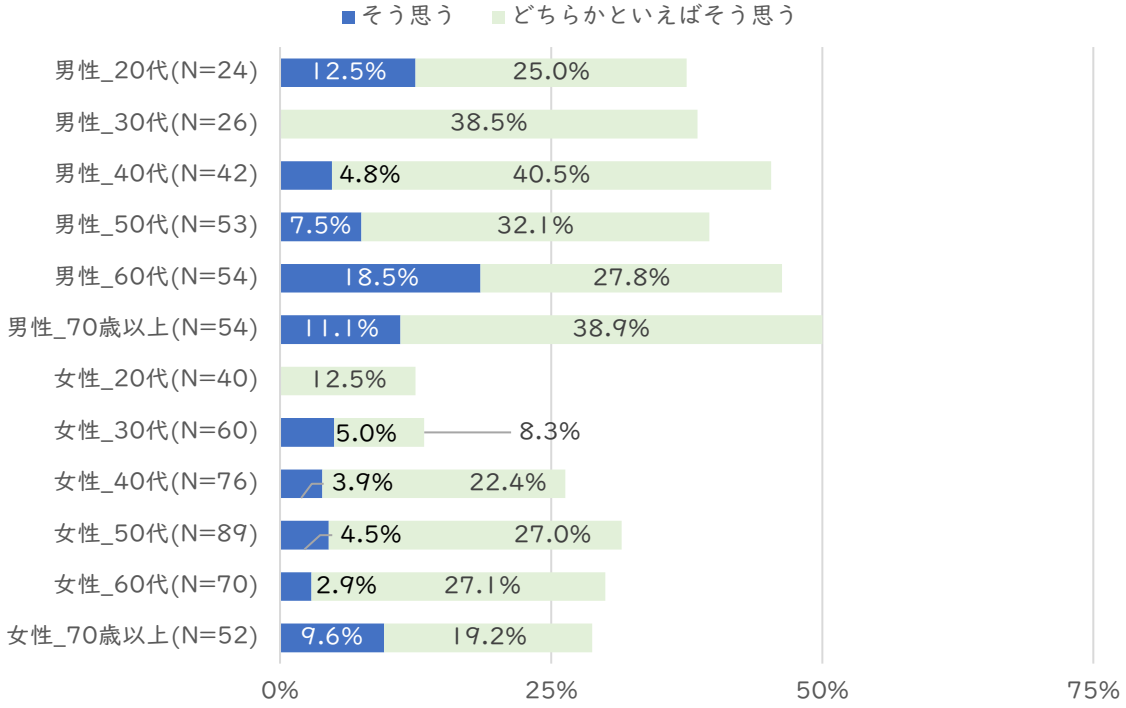
差が30pt以上の項目

	性別役割意識	最も高い（%）		最も低い（%）		最も高い-最も低い（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	男性,70歳以上（N＝54）	50.0	女性,20代（N＝40）	12.5	37.5
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	男性,70歳以上（N＝54）	44.4	女性,20代（N＝40）	7.5	36.9
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	男性,50代（N＝53）	37.7	女性,20代（N＝40）	7.5	30.2
	家を継ぐのは男性であるべきだ	男性,50代（N＝53）	37.7	女性,60代（N＝70）	8.6	29.1
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	男性,30代（N＝26）	38.5	女性,20代（N＝40）	10.0	28.5
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	男性,70歳以上（N＝54）	35.2	女性,20代（N＝40）	7.5	27.7
	家事・育児は女性がするべきだ	男性,50代（N＝53）	34.0	女性,60代（N＝70）	5.7	28.3
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	男性,70歳以上（N＝54）	20.4	女性,30代（N＝60）	1.7	18.7
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	男性,40代（N＝42）	52.4	女性,20代（N＝40）	12.5	39.9
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	女性,70歳以上（N＝52）	46.2	男性,20代（N＝24）	16.7	29.5
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	男性,20代（N＝24）	50.0	女性,30代（N＝60）	30.0	20.0
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	男性,30代（N＝26）	23.1	男性,20代（N＝24）	0.0	23.1
	女性の上司には抵抗がある	男性,30代（N＝26）	23.1	女性,30代（N＝60）	3.3	19.8
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	男性,70歳以上（N＝54）	27.8	女性,40代（N＝76）	1.3	26.5
その他	女性は感情的になりやすい	男性,40代（N＝42）	71.4	女性,20代（N＝40）	42.5	28.9
	男性は人前で泣くべきではない	男性,60代（N＝54）	59.2	女性,20代（N＝40）	0.0	59.2
	女性には女性らしい感性があるものだ	男性,60代（N＝54）	83.3	女性,20代（N＝40）	52.5	30.8

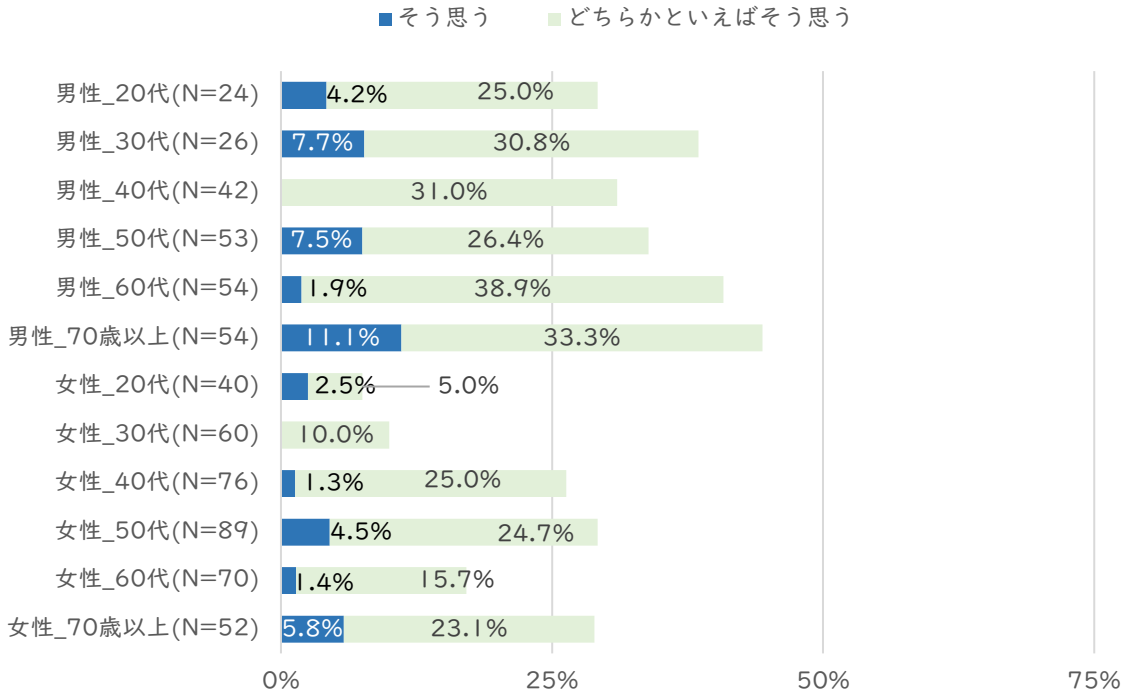
本頁以降では、性別・年代間で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合に30 ポイント以上の差がある項目を取り上げた。

図 2-2-4 性別役割意識
（男女・年代別）

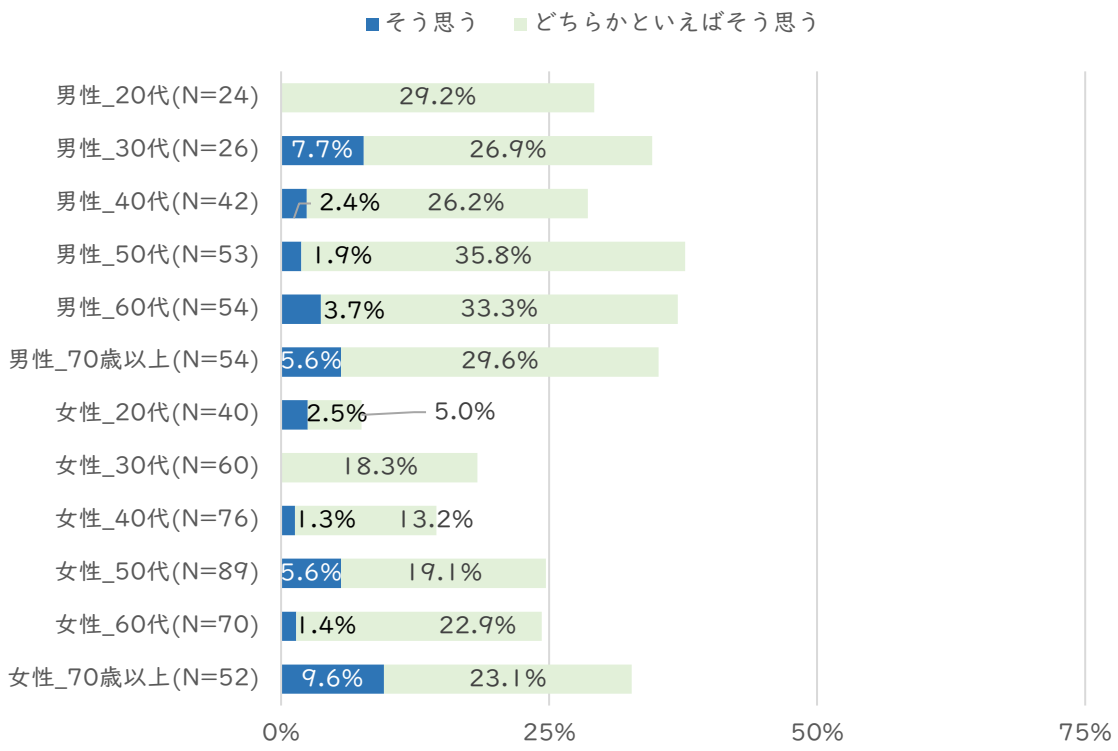
（1）男性は結婚して家庭をもって一人前だ



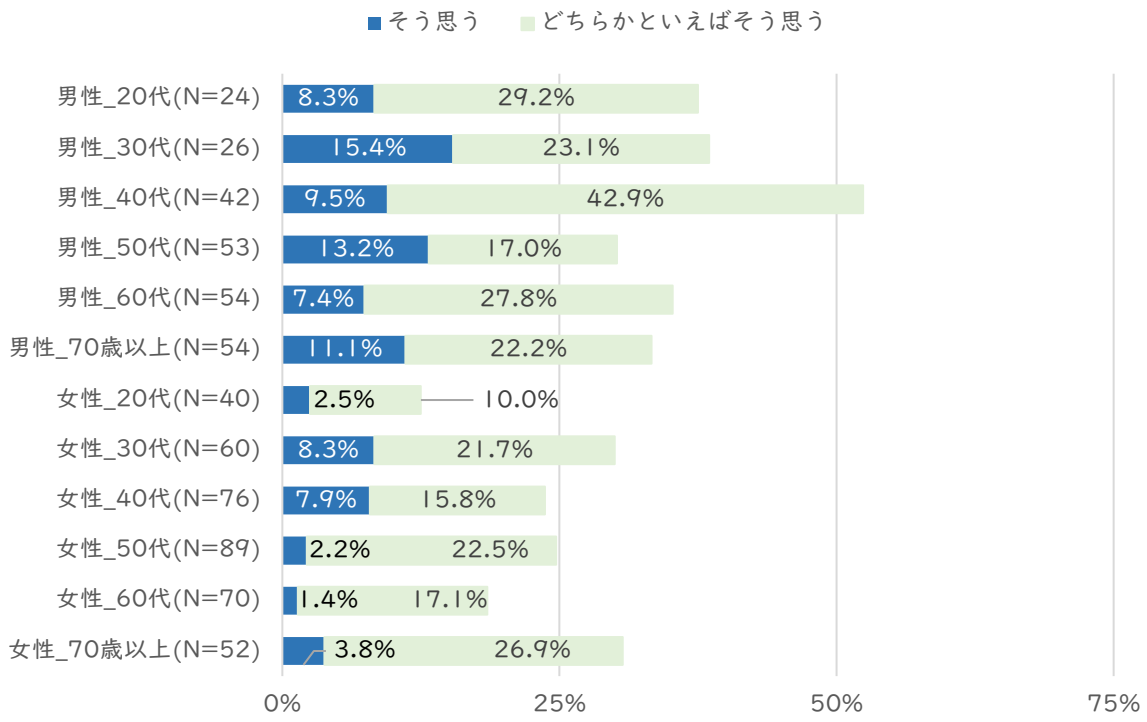
（2）共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ



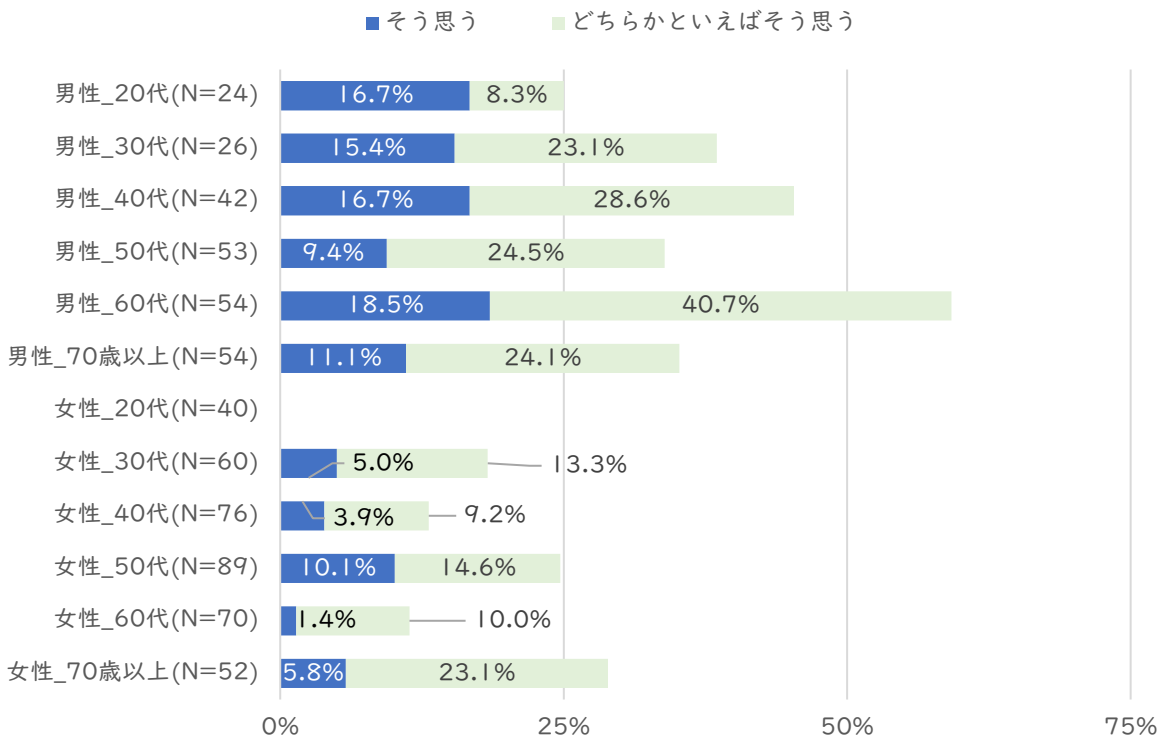
（3）親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ



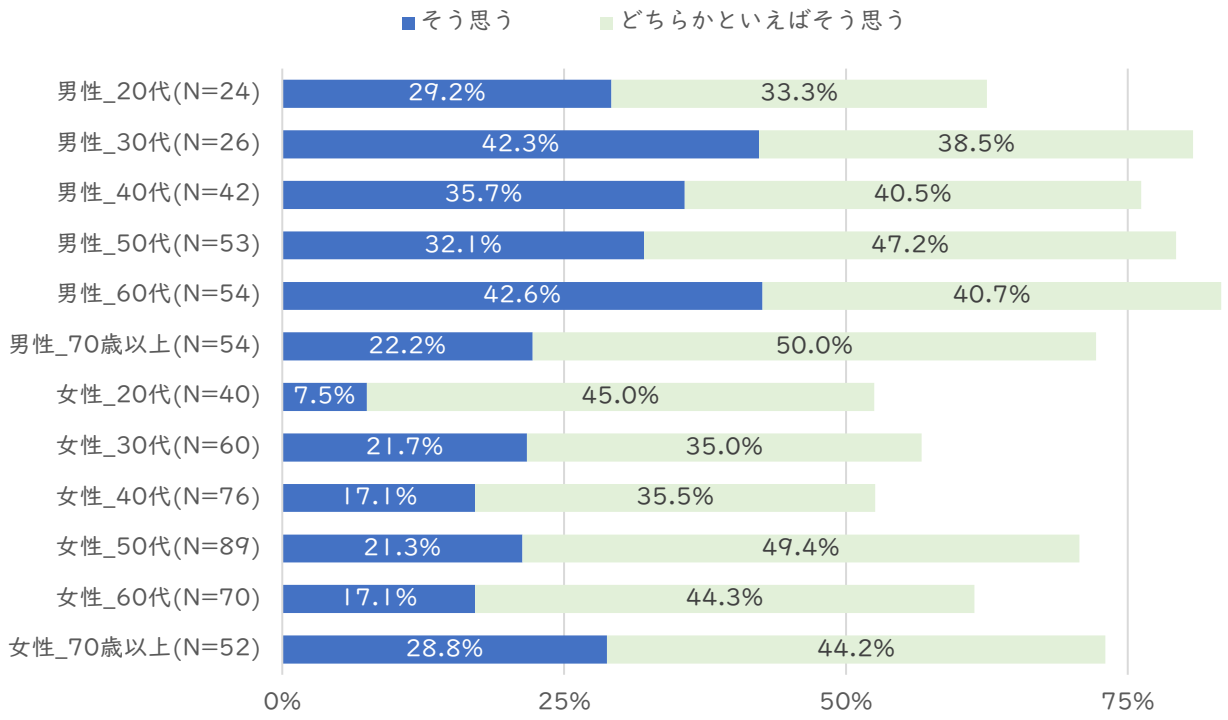
（4）組織のリーダーは男性の方が向いている



（5）男性は人前で泣くべきではない



（6）女性には女性らしい感性があるものだ



2-3 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

2-3-1 全体

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある（直接経験）」、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある（間接経験）」、「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある（メディア経験）」の割合を示した。

上位５項目は次の通りで、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」が最も高く、次いで「直接言われたり、聞いたりしたことがある」が高くなっている傾向がみられる。「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」は、相対的に低い傾向にある。

【「直接言われたり、聞いたりしたことがある」上位５項目】

日常的・個人的な場面での項目が多くあげられており、家族・親戚・地域など、近しい関係性で経験することが多い可能性が示唆される。

「女性は感情的になりやすい」	36.0%
「女性には女性らしい感性があるものだ」	31.3%
「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」	30.0%
「家を継ぐのは男性であるべきだ」	28.6%
「男性は人前で泣くべきではない」	25.9%

【「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」上位５項目】

職場や家庭での役割分担に関する項目が多く、明言はせずとも“暗黙の了解”を背景として言動や態度から感じる可能性があると考えられる。

「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」	46.3%
「共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ」	43.9%
「受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ」	43.6%
「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」	42.4%
「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」	41.9%

【「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」上位５項目】

慣習などに根差した価値観に関わる項目があげられ、結婚・介護・育児などの当事者でなくても、情報に触れることで、広く再生産されている可能性が示唆される。

「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」	20.4%
「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」	19.8%
「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」	18.5%
「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」	18.3%
「女性は感情的になりやすい」	18.2%

場面ごとにみると、家庭・コミュニティでの場面では、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」（30.0%）、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」（46.3%）ともに最も高くなっている。

「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」は４割を超える項目が複数あり、言動や態度から性別役割を感じる機会が多いことがわかる。

「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」では「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」（20.4%）が最も高く、次いで「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」（19.8%）となり、結婚に関する価値観がメディアで扱われる機会が相対的に多いことがうかがえる。

職場での場面では、「受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ」が、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」（24.5%）、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」（43.6%）で最も高い割合となっている。また、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」や「組織のリーダーは男性の方が向いている」は、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」で約４割となっており、女性のキャリア形成を阻害する要因の一つと考えられる。

その他の場面は、全経験で同じ順位となった。家庭・コミュニティや職場での場面と比べると、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」の割合が高くなっている。

表 2-3-1
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（全体）

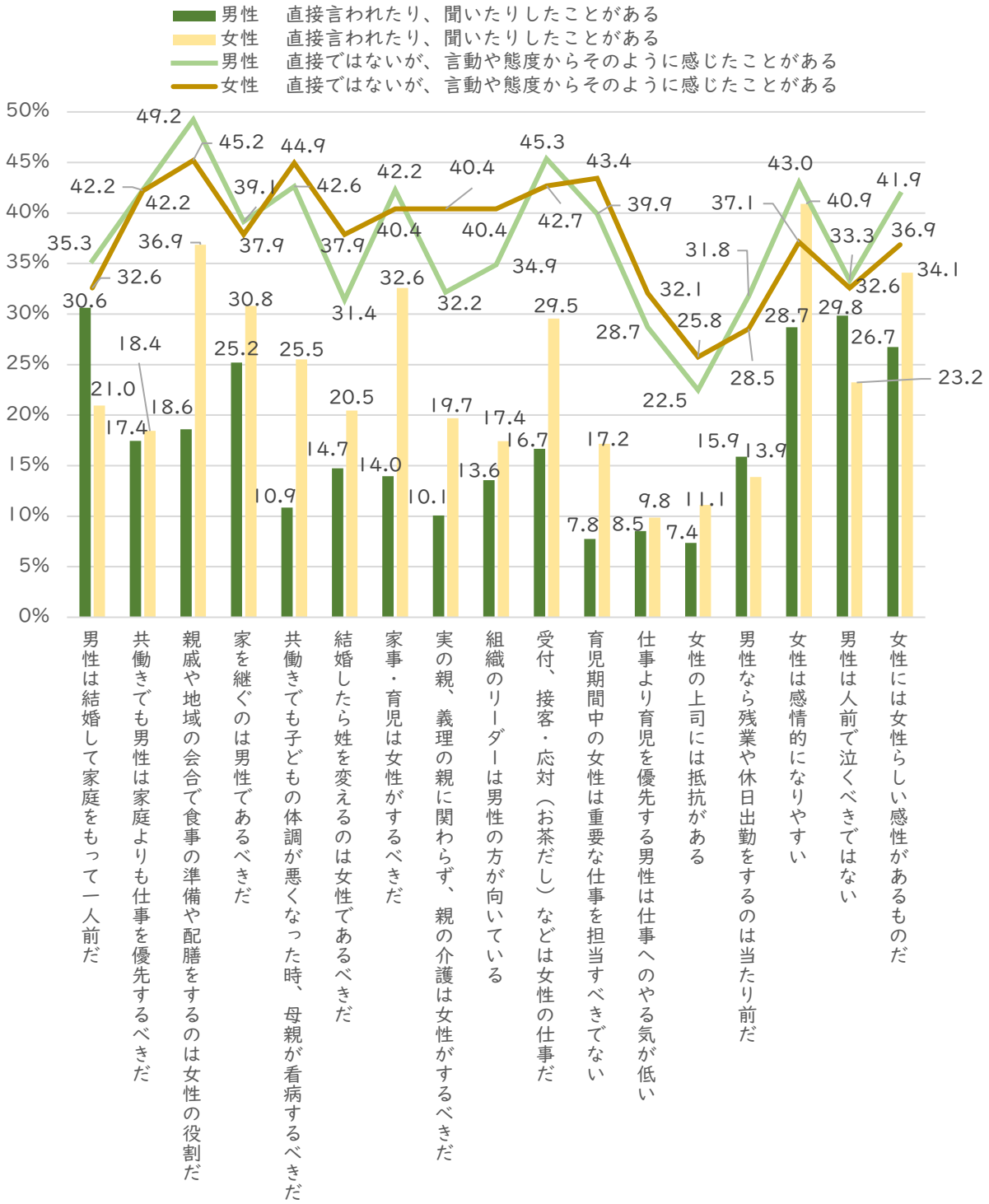
	性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験		直接経験（%）	間接経験（%）	メディア経験（%）	直接-間接（%）
家庭・コミュニティでの場面	(N=643)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	24.7	33.7	20.4	-9.1
	(N=642)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	18.0	42.4	18.3	-24.4
	(N=642)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	30.0	46.3	13.2	-16.3
	(N=642)	家を継ぐのは男性であるべきだ	28.6	38.1	15.3	-9.5
	(N=642)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	19.8	43.9	16.5	-24.1
	(N=641)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	18.2	35.2	19.8	-17.1
	(N=642)	家事・育児は女性がするべきだ	25.4	40.8	16.6	-15.4
	(N=642)	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	16.0	37.1	18.5	-21.0
職場での場面	(N=640)	組織のリーダーは男性の方が向いている	16.0	38.0	15.9	-21.9
	(N=641)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	24.5	43.6	16.5	-19.1
	(N=639)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	13.5	41.9	17.1	-28.4
	(N=640)	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	9.2	30.6	15.1	-21.3
	(N=639)	女性の上司には抵抗がある	9.7	24.4	15.0	-14.7
	(N=640)	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	14.5	29.7	13.8	-15.1
その他	(N=641)	女性は感情的になりやすい	36.0	39.2	18.2	-3.2
	(N=641)	男性は人前で泣くべきではない	25.9	32.7	16.2	-6.8
	(N=642)	女性には女性らしい感性があるものだ	31.3	38.7	17.1	-7.4

2-3-2 男女別

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の割合を男女別に示した。

(1) 男女比較

図 2-3-2-(1)
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、男女比較）



① 直接言われたり、聞いたりした経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」と回答した割合を男女別に示した。

男女間で最も大きな差が開いたのは、「家事・育児は女性がするべきだ」（男性 14.0%、女性 32.6%）で、女性の方が 18.6 ポイント高くなっている。次いで、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（男性 18.6%、女性 36.9%）で、女性の方が 18.3 ポイント高くなっている。

全 17 項目中、14 項目で女性の割合が男性よりも高くなり、全体的には、女性の方が直接言われたり、聞いたりする経験が多いことが明らかになった。

表 2-3-2-(1)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、男女比較、直接言われたり、聞いたりした経験）

女性の方が10pt以上高い項目

	直接言われたり、聞いたりした経験	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ（N＝643、男性＝248、女性＝388）	24.7	30.6	21.0	9.7
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	18.0	17.4	18.4	-1.0
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	30.0	18.6	36.9	-18.3
	家を継ぐのは男性であるべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	28.6	25.2	30.8	-5.6
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	19.8	10.9	25.5	-14.7
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（N＝641、男性＝247、女性＝387）	18.2	14.7	20.5	-5.7
	家事・育児は女性がするべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	25.4	14.0	32.6	-18.6
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	16.0	10.1	19.7	-9.6
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている（N＝640、男性＝248、女性＝385）	16.0	13.6	17.4	-3.9
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ（N＝641、男性＝248、女性＝386）	24.5	16.7	29.5	-12.9
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない（N＝639、男性＝248、女性＝384）	13.5	7.8	17.2	-9.4
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い（N＝640、男性＝248、女性＝385）	9.2	8.5	9.8	-1.3
	女性の上司には抵抗がある（N＝639、男性＝248、女性＝384）	9.7	7.4	11.1	-3.7
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ（N＝640、男性＝248、女性＝385）	14.5	15.9	13.9	2.0
その他	女性は感情的になりやすい（N＝641、男性＝248、女性＝386）	36.0	28.7	40.9	-12.2
	男性は人前で泣くべきではない（N＝641、男性＝248、女性＝386）	25.9	29.8	23.2	6.6
	女性には女性らしい感性があるものだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	31.3	26.7	34.1	-7.3

② 言動や態度から感じた経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合を男女別に示した。

男女間で最も大きな差が開いたのは、「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」（男性 32.2%、女性 40.4%）で、女性の方が 8.2 ポイント高くなっている。次いで、「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」（男性 31.4%、女性 37.9%）で、女性の方が 6.5 ポイント高くなっている。

直接言われたり、聞いたりした経験と比較すると、男女差は全体的に小さい傾向にある。

表 2-3-2-(1)-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、男女比較、言動や態度から感じた経験）

男性の方が5pt以上高い項目
女性の方が5pt以上高い項目

	言動や態度から感じた経験	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ（N＝643、男性＝248、女性＝388）	33.7	35.3	32.6	2.7
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	42.4	42.2	42.2	0.1
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	46.3	49.2	45.2	4.0
	家を継ぐのは男性であるべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	38.1	39.1	37.9	1.3
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	43.9	42.6	44.9	-2.3
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（N＝641、男性＝247、女性＝387）	35.2	31.4	37.9	-6.5
	家事・育児は女性がするべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	40.8	42.2	40.4	1.8
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	37.1	32.2	40.4	-8.2
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている（N＝640、男性＝248、女性＝385）	38.0	34.9	40.4	-5.5
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ（N＝641、男性＝248、女性＝386）	43.6	45.3	42.7	2.7
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない（N＝639、男性＝248、女性＝384）	41.9	39.9	43.4	-3.5
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い（N＝640、男性＝248、女性＝385）	30.6	28.7	32.1	-3.4
	女性の上司には抵抗がある（N＝639、男性＝248、女性＝384）	24.4	22.5	25.8	-3.3
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ（N＝640、男性＝248、女性＝385）	29.7	31.8	28.5	3.2
その他	女性は感情的になりやすい（N＝641、男性＝248、女性＝386）	39.2	43.0	37.1	5.9
	男性は人前で泣くべきではない（N＝641、男性＝248、女性＝386）	32.7	33.3	32.6	0.8
	女性には女性らしい感性があるものだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	38.7	41.9	36.9	5.0

③ メディアで見た経験

性別に基づく役割や思い込みを「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」と回答した割合を男女別に示した。

男女間で最も大きな差が出たのは、「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」（男性 12.4%、女性 25.3%）で、女性の方が 12.8 ポイント高くなっている。次いで、「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」（男性 12.4%、女性 22.7%）で、女性の方が 10.3 ポイント高く、すべての項目で女性の割合が男性よりも高くなっている。

表 2-3-2-(1)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、男女比較、メディアで見た経験）

女性の方が10pt以上高い項目

	メディアで見た経験	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ（N＝643、男性＝248、女性＝388）	20.4	12.4	25.3	-12.8
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	18.3	13.6	21.5	-7.9
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	13.2	11.2	14.6	-3.4
	家を継ぐのは男性であるべきだ（N=642、男性＝248、女性＝387）	15.3	9.7	18.9	-9.2
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	16.5	13.6	18.7	-5.1
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ（N＝641、男性＝247、女性＝387）	19.8	17.4	21.5	-4.0
	家事・育児は女性がするべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	16.6	14.3	18.4	-4.1
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	18.5	12.4	22.7	-10.3
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている（N＝640、男性＝248、女性＝385）	15.9	13.6	17.4	-3.9
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ（N＝641、男性＝248、女性＝386）	16.5	13.6	18.7	-5.1
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない（N＝639、男性＝248、女性＝384）	17.1	13.6	19.4	-5.9
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い（N＝640、男性＝248、女性＝385）	15.1	12.8	16.7	-3.9
	女性の上司には抵抗がある（N＝639、男性＝248、女性＝384）	15.0	12.4	16.9	-4.5
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ（N＝640、男性＝248、女性＝385）	13.8	10.5	16.2	-5.7
その他	女性は感情的になりやすい（N＝641、男性＝248、女性＝386）	18.2	14.3	20.7	-6.4
	男性は人前で泣くべきではない（N＝641、男性＝248、女性＝386）	16.2	13.6	18.2	-4.6
	女性には女性らしい感性があるものだ（N＝642、男性＝248、女性＝387）	17.1	15.1	18.4	-3.3

(2) 全国との比較

① 直接言われたり、聞いたりした経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」と回答した割合が高い順に男女とも 10 位まで選出し、全国の調査結果と比較した。

男性は「男性は人前で泣くべきではない」（本市 29.8%、全国 11.1%）と「女性は感情的になりやすい」（本市 28.7%、全国 10.0%）で、いずれも本市が全国よりも 18.7 ポイント高い。

女性は「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（本市 36.9%、全国 13.0%）で、本市が全国を 23.9 ポイント上回り、「女性は感情的になりやすい」（本市 40.9%、全国 17.8%）でも 23.1 ポイント上回っている。

男女ともに全ての項目で、本市の方が高い割合となり、全体的には女性の方が全国との差が大きくなっている。

表 2-3-2-(2)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、全国との比較、直接言われたり、聞いたりした経験）

全国と比較し15pt以上高い項目

男性　上位10位		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市－全国（%）
1(N=248)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	30.6	12.5	18.1
2(N=248)	男性は人前で泣くべきではない	29.8	11.1	18.7
3(N=248)	女性は感情的になりやすい	28.7	10.0	18.7
4(N=248)	女性には女性らしい感性があるものだ	26.7	9.0	17.7
5(N=248)	家を継ぐのは男性であるべきだ	25.2	10.2	15.0
6(N=248)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	18.6	6.0	12.6
7(N=248)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	17.4	7.7	9.7
8(N=248)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	16.7	7.2	9.5
9(N=248)	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	15.9	6.3	9.6
10(N=247)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	14.7	6.1	8.6

回答者数：鹿児島市（N）　全国5452

女性　上位10位		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市－全国（%）
1(N=386)	女性は感情的になりやすい	40.9	17.8	23.1
2(N=387)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	36.9	13.0	23.9
3(N=387)	女性には女性らしい感性があるものだ	34.1	14.1	20.0
4(N=387)	家事・育児は女性がするべきだ	32.6	15.2	17.4
5(N=387)	家を継ぐのは男性であるべきだ	30.8	13.5	17.3
6(N=386)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	29.5	14.1	15.4
7(N=387)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	25.5	11.7	13.8
8(N=386)	男性は人前で泣くべきではない	23.2	12.2	11.0
9(N=388)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	21.0	13.5	7.5
10(N=387)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	20.5	10.3	10.2

回答者数：鹿児島市（N）　全国5384

② 言動や態度から感じた経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合が高い順に男女とも 10 位まで選出し、全国の調査結果と比較した。

男性は「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（本市 49.2%、全国 17.6%）で 31.6 ポイントの最も大きな差が出ており、この項目は女性（本市 45.2%、全国 25.0%）でも 20.2 ポイントの差が開いている。

女性で最も大きな差が出たのは、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」（本市 43.4%、全国 19.7%）で 23.7 ポイント差となり、この項目は男性（本市 39.9%、全国 16.0%）でも 23.9 ポイントの差が開いている。

直接言われたり、聞いたりした経験同様、男女ともに全項目で全国よりも高い割合となり、全体的には、男性の方が全国との差が大きい。

表 2-3-2-⑵-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、全国との比較、言動や態度から感じた経験）

全国と比較し15pt以上高い項目

男性　上位10位		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市－全国（%）
1(N=248)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	49.2	17.6	31.6
2(N=248)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	45.3	17.7	27.6
3(N=248)	女性は感情的になりやすい	43.0	18.8	24.2
4(N=248)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	42.6	16.3	26.3
5(N=248)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	42.2	16.7	25.5
5(N=248)	家事・育児は女性がするべきだ	42.2	20.2	22.0
7(N=248)	女性には女性らしい感性があるものだ	41.9	17.7	24.2
8(N=248)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	39.9	16.0	23.9
9(N=248)	家を継ぐのは男性であるべきだ	39.1	18.0	21.1
10(N=248)	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	35.3	18.5	16.8

回答者数：鹿児島市（N）　全国5452

女性　上位10位		鹿児島市（%）	全国（%）	鹿児島市－全国（%）
1(N=387)	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	45.2	25.0	20.2
2(N=387)	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	44.9	23.2	21.7
3(N=384)	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	43.4	19.7	23.7
4(N=386)	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	42.7	24.3	18.4
5(N=387)	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	42.2	20.1	22.1
6(N=385)	組織のリーダーは男性の方が向いている	40.4	19.2	21.2
6(N=387)	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	40.4	22.3	18.1
6(N=387)	家事・育児は女性がするべきだ	40.4	28.9	11.5
9(N=387)	家を継ぐのは男性であるべきだ	37.9	21.7	16.2
9(N=387)	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	37.9	20.1	17.8

回答者数：鹿児島市（N）　全国5384

2-3-3 男女･年代別

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」ごとの割合を男女・年代別に示す。

(1) 家庭･コミュニティでの場面

① 直接言われたり､聞いたりした経験

「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は、30 代女性が最も高くなり、すべての男女・年代別の中で唯一 5 割を超えている。

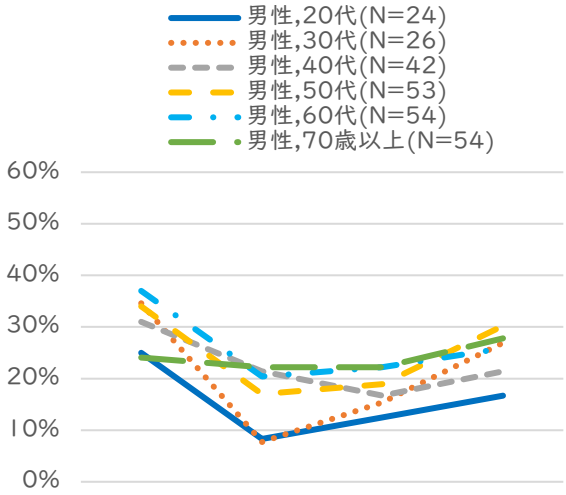
また、「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」は、すべての年代で男性の割合が女性よりも高く、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」「共働きで子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ」「家事・育児は女性がするべきだ」「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」は、すべての年代で女性の割合が男性よりも高い。

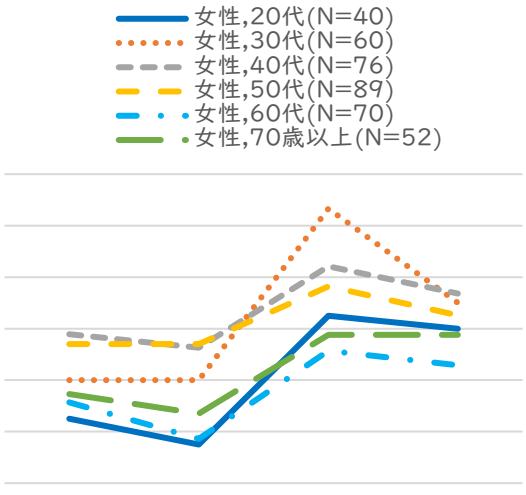
表 2-3-3-(1)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、家庭・コミュニティ、直接言われたり、聞いたりした経験）

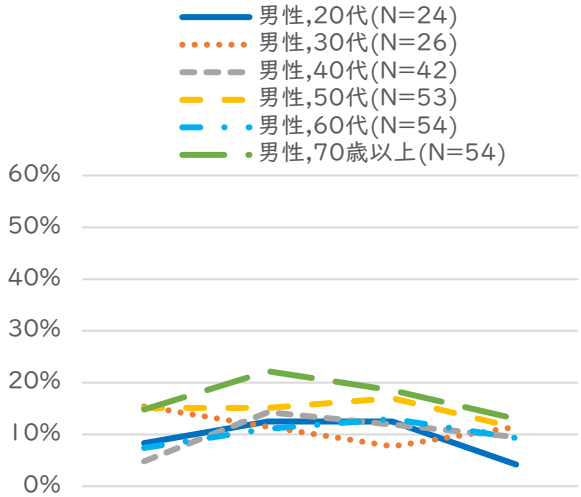
（%）

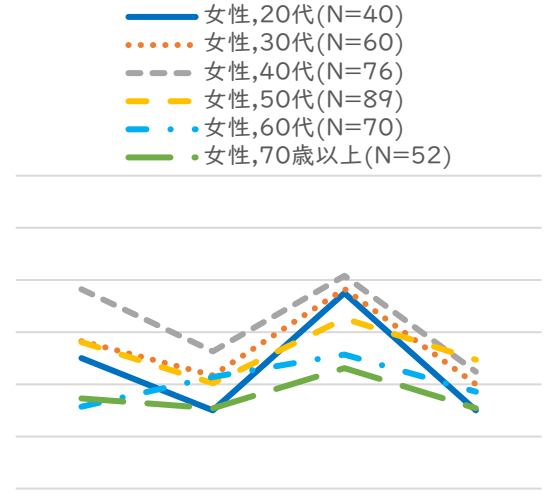
	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	家を継ぐのは男性であるべきだ	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	家事・育児は女性がするべきだ	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
男性：20代(N=24)	25.0	8.3	12.5	16.7	8.3	12.5	12.5	4.2
30代(N=26)	34.6	7.7	15.4	26.9	15.4	11.5	7.7	11.5
40代(N=42)	31.0	21.4	16.7	21.4	4.8	14.3	11.9	9.5
50代(N=53)	34.0	17.0	18.9	30.2	15.1	15.1	17.0	11.3
60代(N=54)	37.0	20.4	22.2	25.9	7.4	11.1	13.0	9.3
70歳以上(N=54)	24.1	22.2	22.2	27.8	14.8	22.2	18.5	13.0
女性：20代(N=40)	12.5	7.5	32.5	30.0	25.0	15.0	37.5	15.0
30代(N=60)	20.0	20.0	53.3	35.0	28.3	21.7	38.3	20.0
40代(N=76)	28.9	26.3	42.1	36.8	38.2	26.3	40.8	22.4
50代(N=89)	27.0	27.0	38.2	32.6	28.1	20.2	32.6	24.7
60代(N=70)	15.7	8.6	25.7	22.9	15.7	21.4	25.7	18.6
70歳以上(N=52)	17.3	13.5	28.8	28.8	17.3	15.4	23.1	15.4

図 2-3-3-(1)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、家庭・コミュニティ、直接言われたり、聞いたりした経験）









② 言動や態度から感じた経験

「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」は、男女ともに40代が最も高く、30代が最も低くなっている。

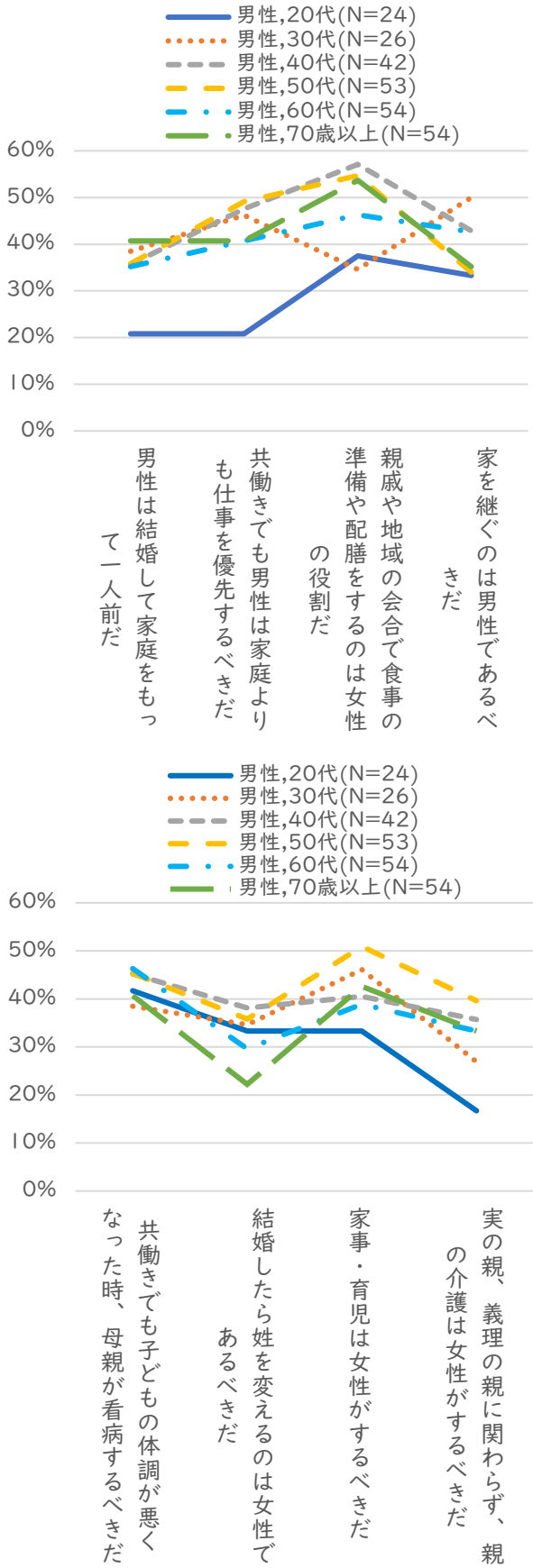
「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」は、20代女性で4割となった一方、20代男性は2割に満たず、同じ年代でも男女で差がみられた。

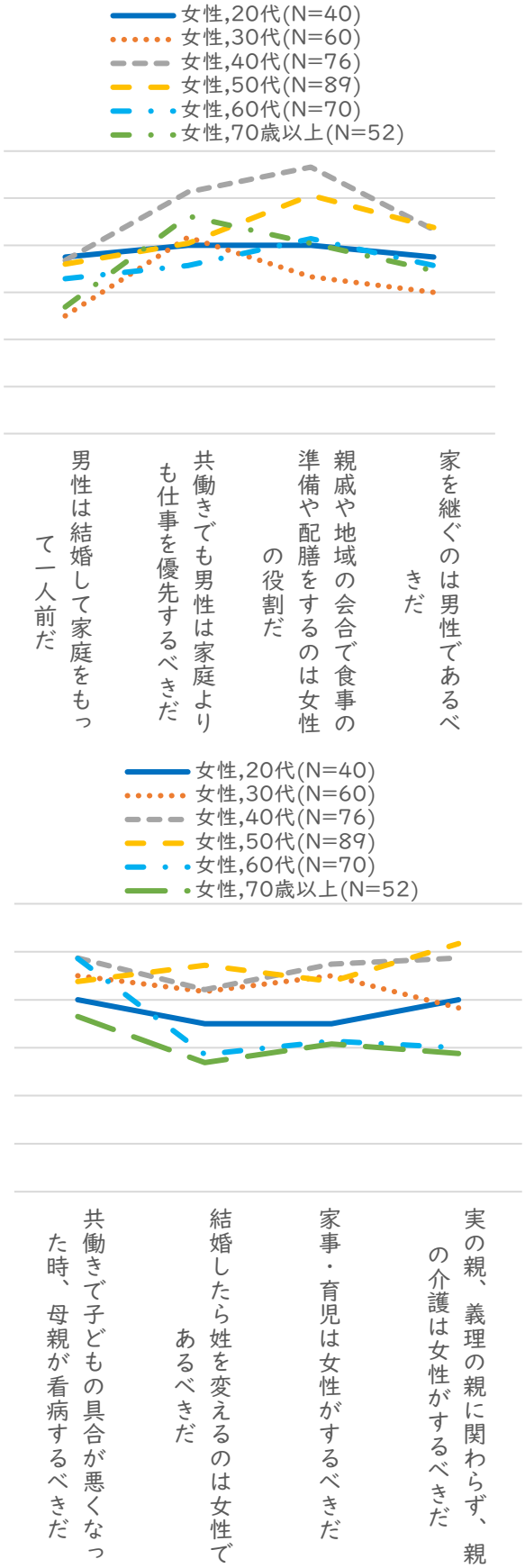
表 2-3-3-(1)-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、家庭・コミュニティ、言動や態度から感じた経験）

（%）

	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	家を継ぐのは男性であるべきだ	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	家事・育児は女性がするべきだ	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
男性：20代(N=24)	20.8	20.8	37.5	33.3	41.7	33.3	33.3	16.7
30代(N=26)	38.5	46.2	34.6	50.0	38.5	34.6	46.2	26.9
40代(N=42)	35.7	47.6	57.1	42.9	45.2	38.1	40.5	35.7
50代(N=53)	35.8	49.1	54.7	34.0	45.3	35.8	50.9	39.6
60代(N=54)	35.2	40.7	46.3	42.6	46.3	29.6	38.9	33.3
70歳以上(N=54)	40.7	40.7	53.7	35.2	40.7	22.2	42.6	33.3
女性：20代(N=40)	37.5	40.0	40.0	37.5	40.0	35.0	35.0	40.0
30代(N=60)	25.0	41.7	33.3	30.0	45.0	41.7	45.0	38.3
40代(N=76)	36.8	51.3	56.6	43.4	48.7	42.1	47.4	48.7
50代(N=89)	36.0	40.4	50.6	43.8	43.8	47.2	43.8	51.7
60代(N=70)	32.9	35.7	41.4	35.7	48.6	28.6	31.4	30.0
70歳以上(N=52)	26.9	46.2	40.4	34.6	36.5	26.9	30.8	28.8

図 2-3-3-(1)-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、家庭・コミュニティ、言動や態度から感じた経験）





③ メディアで見た経験

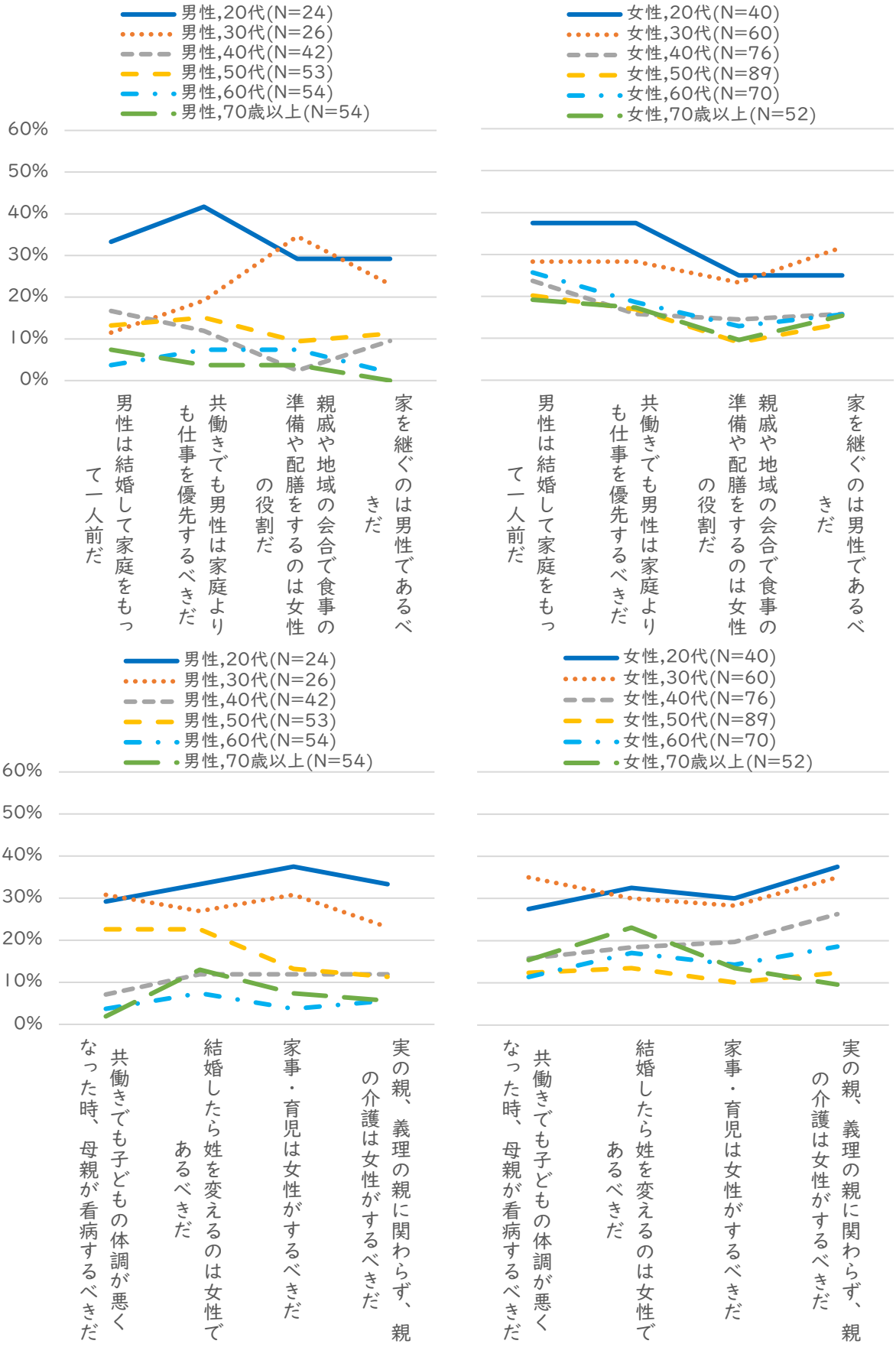
「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ」「結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ」「家事・育児は女性がするべきだ」は、すべての男女・年代別の中で 20 代男性が最も高く、比較的低い割合の 60 代・70 歳以上の男性と比べると差が出ている。

表 2-3-3-(1)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、家庭・コミュニティ、メディアで見た経験）

（%）

	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	家を継ぐのは男性であるべきだ	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	家事・育児は女性がするべきだ	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
男性：20代(N=24)	33.3	41.7	29.2	29.2	29.2	33.3	37.5	33.3
30代(N=26)	11.5	19.2	34.6	23.1	30.8	26.9	30.8	23.1
40代(N=42)	16.7	11.9	2.4	9.5	7.1	11.9	11.9	11.9
50代(N=53)	13.2	15.1	9.4	11.3	22.6	22.6	13.2	11.3
60代(N=54)	3.7	7.4	7.4	1.9	3.7	7.4	3.7	5.6
70歳以上(N=54)	7.4	3.7	3.7	0.0	1.9	13.0	7.4	5.6
女性：20代(N=40)	37.5	37.5	25.0	25.0	27.5	32.5	30.0	37.5
30代(N=60)	28.3	28.3	23.3	31.7	35.0	30.0	28.3	35.0
40代(N=76)	23.7	15.8	14.5	15.8	15.8	18.4	19.7	26.3
50代(N=89)	20.2	16.9	9.0	13.5	12.4	13.5	10.1	12.4
60代(N=70)	25.7	18.6	12.9	15.7	11.4	17.1	14.3	18.6
70歳以上(N=52)	19.2	17.3	9.6	15.4	15.4	23.1	13.5	9.6

図 2-3-3-(1)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、家庭・コミュニティ、メディアで見た経験）



(2) 職場での場面

① 直接言われたり、聞いたりした経験

「受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ」は、40 代女性で 4 割を超えた一方、40 代男性では 1 割弱となり、同じ年代でも男女で差が出ている。

「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」は、男性はすべての年代で 1 割前後となっている一方、30～50 代の女性は 2 割を超え、当事者として直接言われたり、聞いたりした経験の可能性が示唆される。

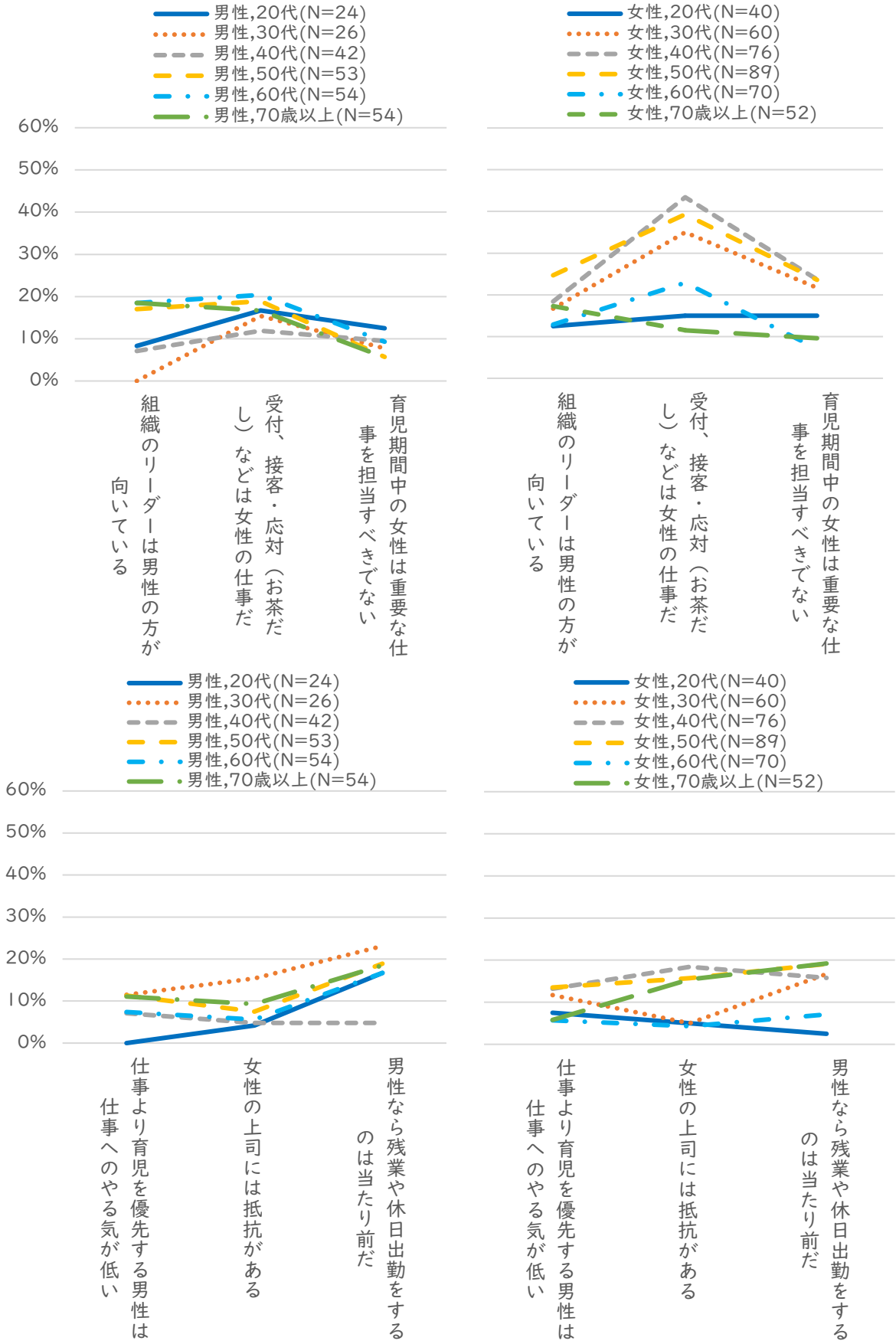
さらに、「女性の上司には抵抗がある」も特に 40～50 代の女性の割合が高く、こちらも当事者として経験した可能性があると考えられる。

表 2-3-3-(2)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、職場、直接言われたり、聞いたりした経験）

（%）

	組織のリーダーは男性の方が向いている	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	女性の上司には抵抗がある	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
男性：20代(N=24)	8.3	16.7	12.5	0.0	4.2	16.7
30代(N=26)	0.0	15.4	7.7	11.5	15.4	23.1
40代(N=42)	7.1	11.9	9.5	7.1	4.8	4.8
50代(N=53)	17.0	18.9	5.7	11.3	7.5	18.9
60代(N=54)	18.5	20.4	9.3	7.4	5.6	16.7
70歳以上(N=54)	18.5	16.7	5.6	11.1	9.3	18.5
女性：20代(N=40)	12.5	15.0	15.0	7.5	5.0	2.5
30代(N=60)	16.7	35.0	21.7	11.7	5.0	16.7
40代(N=76)	18.4	43.4	23.7	13.2	18.4	15.8
50代(N=89)	24.7	39.3	23.6	13.5	15.7	19.1
60代(N=70)	12.9	22.9	7.1	5.7	4.3	7.1
70歳以上(N=52)	17.3	11.5	9.6	5.8	15.4	19.2

図 2-3-3-(2)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、職場、直接言われたり、聞いたりした経験）



② 言動や態度から感じた経験

「組織のリーダーは男性の方が向いている」「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」「女性の上司には抵抗がある」は、すべての男女・年代別の中で 20 代男性が最も低い割合となっている。

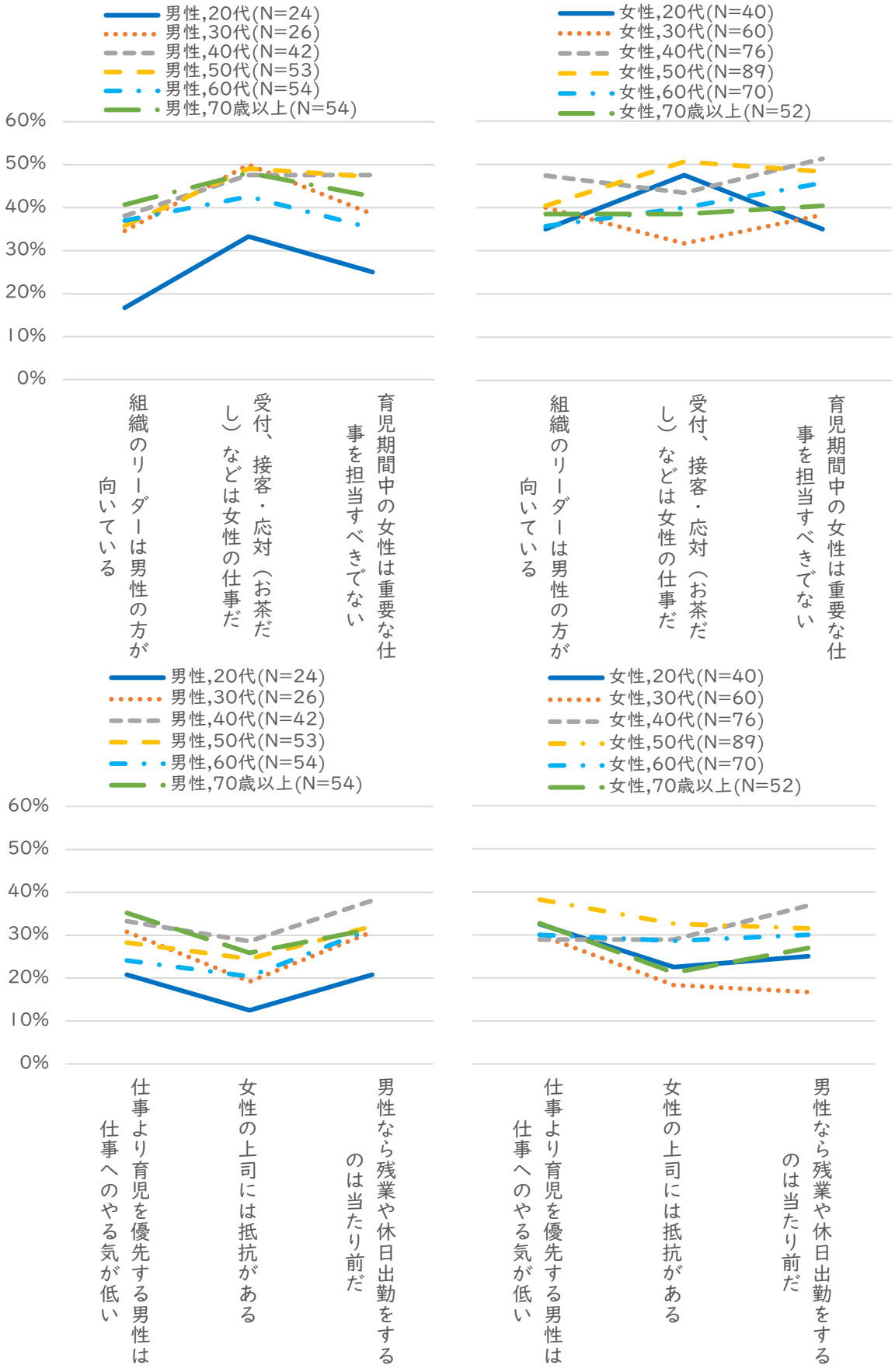
「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」は、30～50 代の男性で 3 割前後と比較的高い。これらの結果から、性別役割への期待や断りづらさを、態度や職場の雰囲気から感じている可能性があると考えられる。

表 2-3-3-⑵-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、職場、言動や態度から感じた経験）

（%）

	組織のリーダーは男性の方が向いている	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	女性の上司には抵抗がある	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
男性：20代(N=24)	16.7	33.3	25.0	20.8	12.5	20.8
30代(N=26)	34.6	50.0	38.5	30.8	19.2	30.8
40代(N=42)	38.1	47.6	47.6	33.3	28.6	38.1
50代(N=53)	35.8	49.1	47.2	28.3	24.5	32.1
60代(N=54)	37.0	42.6	35.2	24.1	20.4	31.5
70歳以上(N=54)	40.7	48.1	42.6	35.2	25.9	31.5
女性：20代(N=40)	35.0	47.5	35.0	32.5	22.5	25.0
30代(N=60)	40.0	31.7	38.3	30.0	18.3	16.7
40代(N=76)	47.4	43.4	51.3	28.9	28.9	36.8
50代(N=89)	40.4	50.6	48.3	38.2	32.6	31.5
60代(N=70)	35.7	40.0	45.7	30.0	28.6	30.0
70歳以上(N=52)	38.5	38.5	40.4	32.7	21.2	26.9

図 2-3-3-(2)-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、職場、言動や態度から感じた経験）



③ メディアで見た経験

全男女・年代別の中で 20 代男性が、6 つの測定項目すべてで最も高い割合となり、比較的低い割合の 60 代・70 歳以上の男性との間で差が開いている。

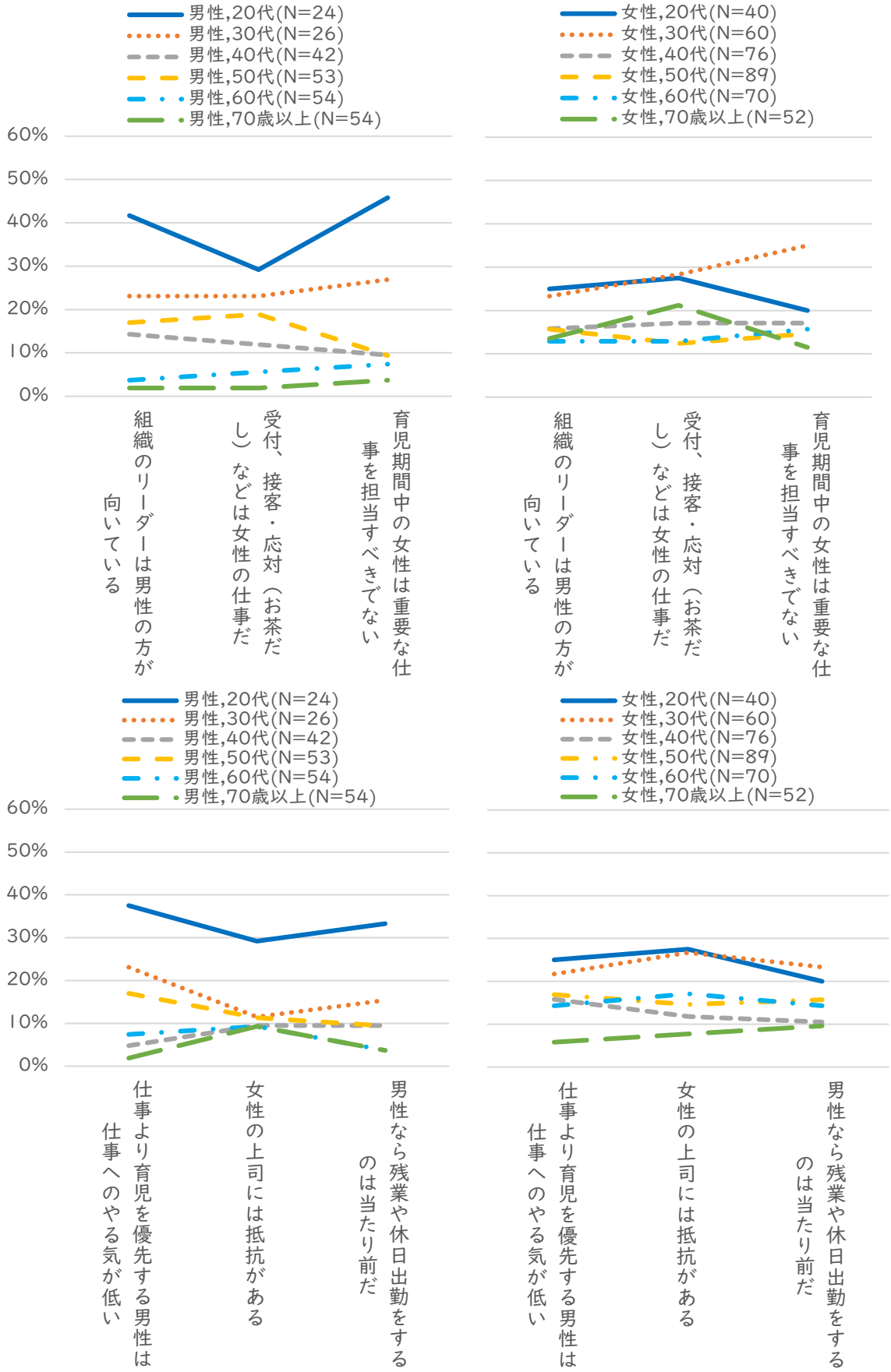
また、男女ともに 20～30 代の割合が比較的高いことから、若い世代ほどメディアへの接触機会が多い傾向にあると考えられる。

表 2-3-3-(2)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、職場、メディアで見た経験）

（%）

	組織のリーダーは男性の方が向いている	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	女性の上司には抵抗がある	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
男性：20代(N=24)	41.7	29.2	45.8	37.5	29.2	33.3
30代(N=26)	23.1	23.1	26.9	23.1	11.5	15.4
40代(N=42)	14.3	11.9	9.5	4.8	9.5	9.5
50代(N=53)	17.0	18.9	9.4	17.0	11.3	9.4
60代(N=54)	3.7	5.6	7.4	7.4	9.3	3.7
70歳以上(N=54)	1.9	1.9	3.7	1.9	9.3	3.7
女性：20代(N=40)	25.0	27.5	20.0	25.0	27.5	20.0
30代(N=60)	23.3	28.3	35.0	21.7	26.7	23.3
40代(N=76)	15.8	17.1	17.1	15.8	11.8	10.5
50代(N=89)	15.7	12.4	14.6	16.9	14.6	15.7
60代(N=70)	12.9	12.9	15.7	14.3	17.1	14.3
70歳以上(N=52)	13.5	21.2	11.5	5.8	7.7	9.6

図 2-3-3-(2)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、職場、メディアで見た経験）



(3) その他の場面

① 直接言われたり、聞いたりした経験

「女性は感情的になりやすい」「女性には女性らしい感性があるものだ」という女性に関する項目は、特に 30～50 代の女性の割合が男性よりも高い傾向にある。

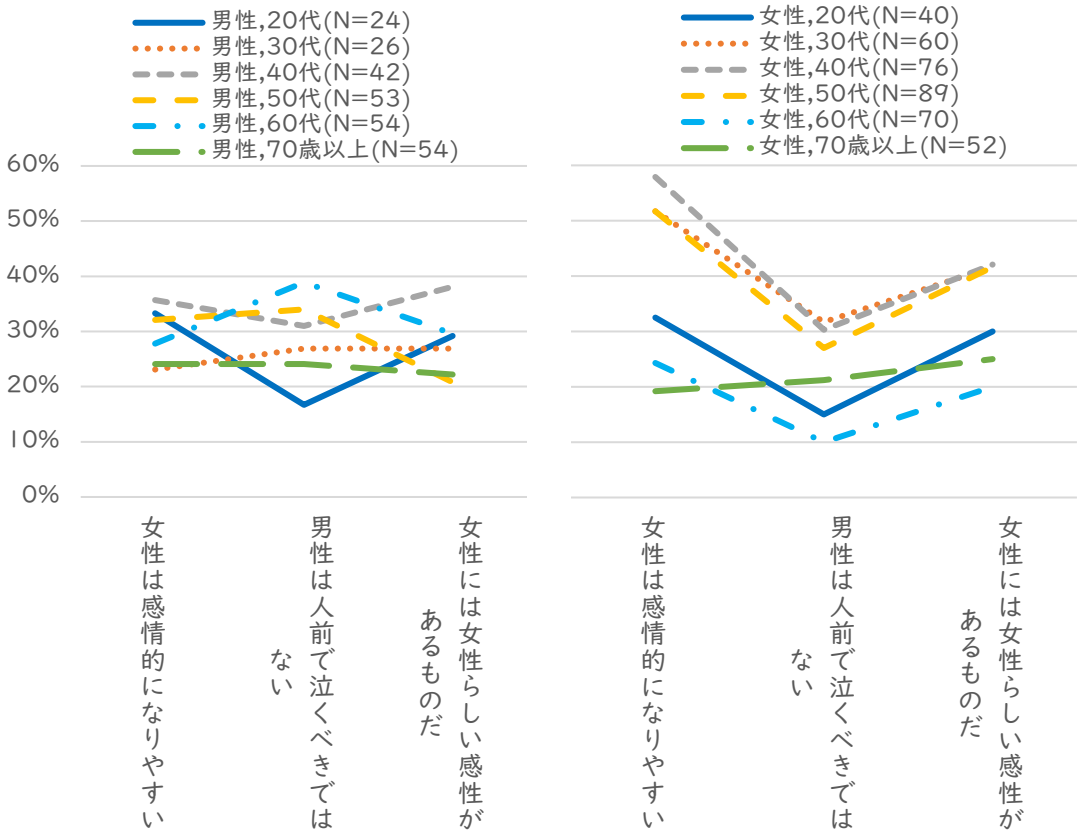
また、「男性は人前で泣くべきではない」という男性に関する項目は、40 代以上の男性の割合が女性よりも高い傾向にあり、男女とも自身の性別に関する思い込みを直接言われたり、聞いたりする経験が多いことがうかがえる。

表 2-3-3-(3)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、その他、直接言われたり、聞いたりした経験）

（%）

	女性は感情的になりやすい	男性は人前で泣くべきではない	女性には女性らしい感性があるものだ
男性：20代(N=24)	33.3	16.7	29.2
30代(N=26)	23.1	26.9	26.9
40代(N=42)	35.7	31.0	38.1
50代(N=53)	32.1	34.0	20.8
60代(N=54)	27.8	38.9	29.6
70歳以上(N=54)	24.1	24.1	22.2
女性：20代(N=40)	32.5	15.0	30.0
30代(N=60)	51.7	31.7	41.7
40代(N=76)	57.9	30.3	42.1
50代(N=89)	51.7	27.0	41.6
60代(N=70)	24.3	10.0	20.0
70歳以上(N=52)	19.2	21.2	25.0

図 2-3-3-(3)-①
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、その他、直接言われたり、聞いたりした経験）



② 言動や態度から感じた経験

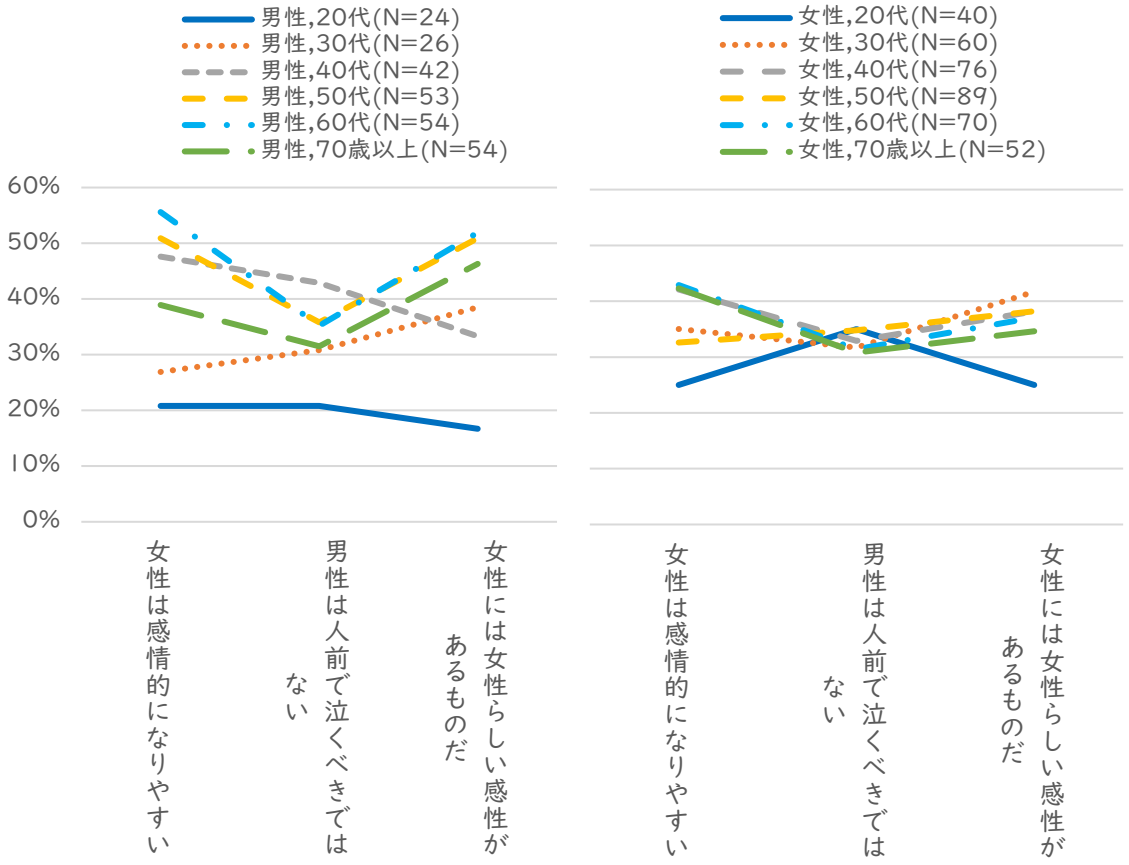
男女とも、40～60 代で比較的高い割合を示す傾向にある。「女性は感情的になりやすい」「女性には女性らしい感性があるものだ」という項目は、特に 50～60 代の男性で 5 割を超える高い割合となっている。

表 2-3-3-⑶-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、その他、言動や態度から感じた経験）

（%）

	女性は感情的になりやすい	男性は人前で泣くべきではない	女性には女性らしい感性があるものだ
男性：20代(N=24)	20.8	20.8	16.7
30代(N=26)	26.9	30.8	38.5
40代(N=42)	47.6	42.9	33.3
50代(N=53)	50.9	35.8	50.9
60代(N=54)	55.6	35.2	51.9
70歳以上(N=54)	38.9	31.5	46.3
女性：20代(N=40)	25.0	35.0	25.0
30代(N=60)	35.0	31.7	41.7
40代(N=76)	42.1	32.9	38.2
50代(N=89)	32.6	34.8	38.2
60代(N=70)	42.9	31.4	37.1
70歳以上(N=52)	42.3	30.8	34.6

図 2-3-3-(3)-②
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、その他、言動や態度から感じた経験）



③ メディアで見た経験

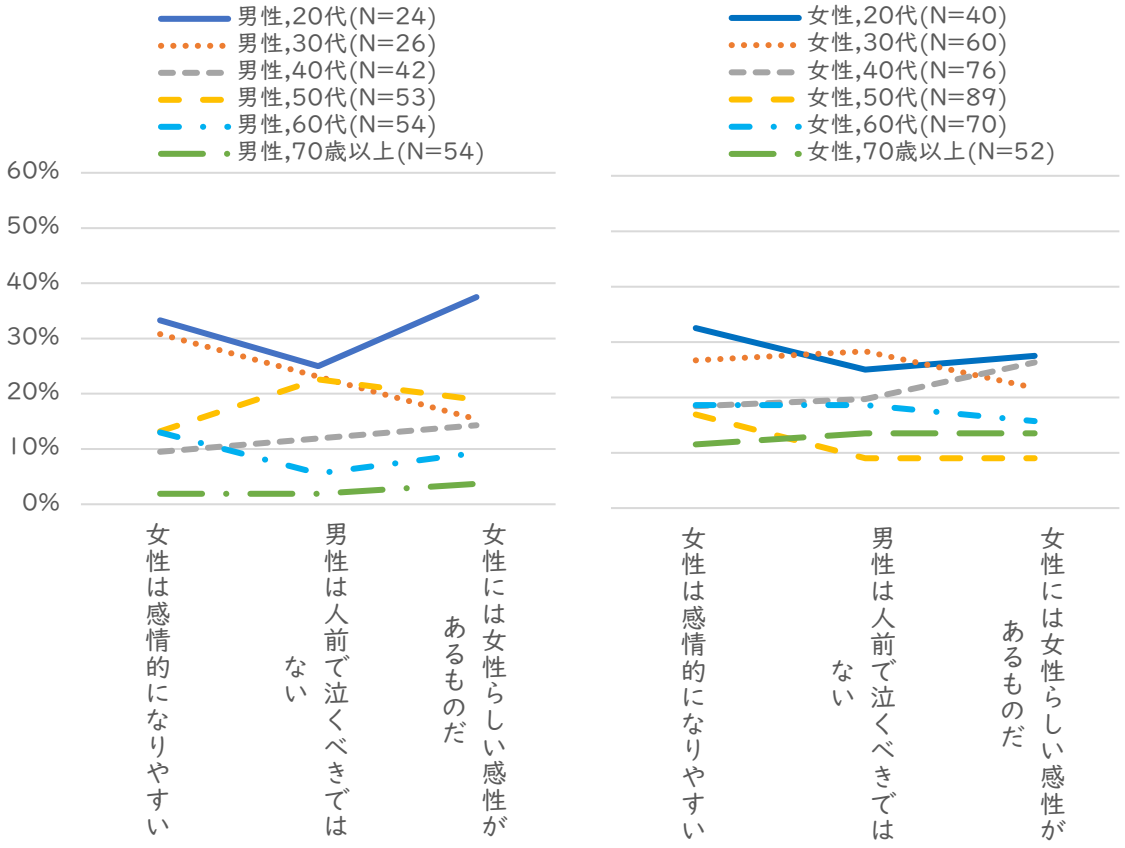
家庭・コミュニティでの場面や職場での場面と同様、男女ともに 20～30 代の割合が比較的高くなり、若い世代ほどメディアへの接触機会が多い傾向にあると考えられる。

表 2-3-3-(3)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、その他、メディアで見た経験）

（%）

	女性は感情的になりやすい	男性は人前で泣くべきではない	女性には女性らしい感性があるものだ
男性：20代(N=24)	33.3	25.0	37.5
30代(N=26)	30.8	23.1	15.4
40代(N=42)	9.5	11.9	14.3
50代(N=53)	13.2	22.6	18.9
60代(N=54)	13.0	5.6	9.3
70歳以上(N=54)	1.9	1.9	3.7
女性：20代(N=40)	32.5	25.0	27.5
30代(N=60)	26.7	28.3	21.7
40代(N=76)	18.4	19.7	26.3
50代(N=89)	16.9	9.0	9.0
60代(N=70)	18.6	18.6	15.7
70歳以上(N=52)	11.5	13.5	13.5

図 2-3-3-(3)-③
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女・年代別、その他、メディアで見た経験）

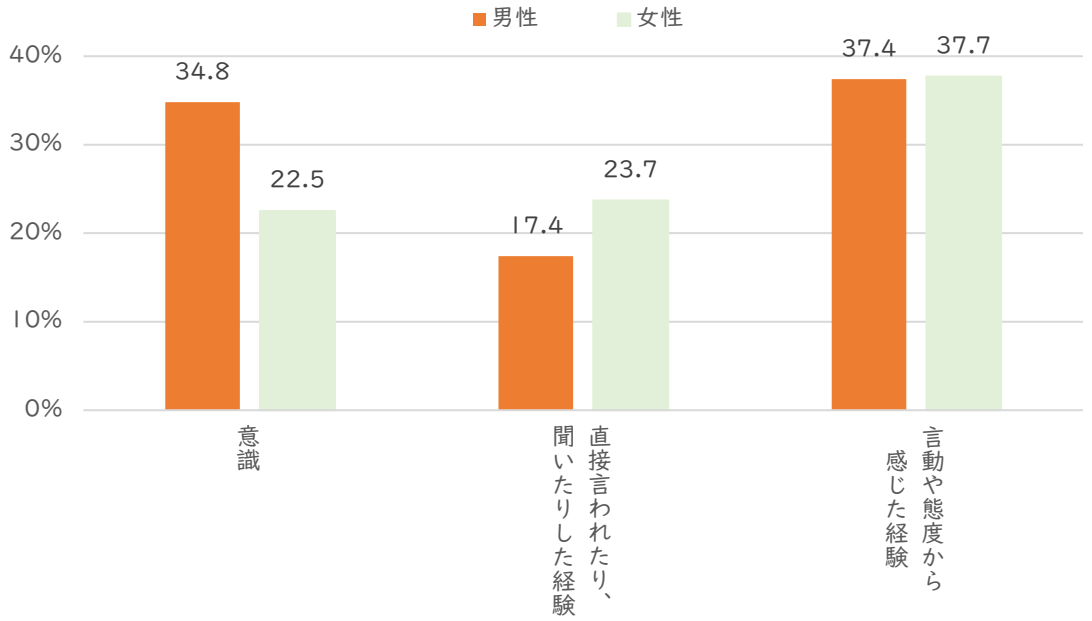


2-4 性別役割意識と経験の男女差比較

性別役割意識と、性別に基づく役割や思い込みを「直接言われたり、聞いたりした経験」、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」の回答率について、平均値を男女別に算出し比較した。

性別役割「意識」は男性が女性を 12.3 ポイント上回った一方、「直接言われたり、聞いたりした経験」は女性が男性よりも 6.3 ポイント高い。「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」はほぼ同じ結果になっている。

図 2-4
性別役割意識と経験の男女差比較



※意識
性別役割に関する 17 項目（自己認識の 3 項目を除く）について、各項目「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の平均（%）を男女別に算出した。

※直接言われたり、聞いたりした経験
性別に基づく役割や思い込みについて「直接言われたり、聞いたりしたことがある」の回答率の 17 項目平均（%）を男女別に算出した。

※言動や態度から感じた経験
性別に基づく役割や思い込みについて「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の回答率の 17 項目平均（%）を男女別に算出した。

2-5 性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード ・アクション

2-5-1 エピソード

「性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード（本市で概ね５年以内に経験したもの）（エピソード）」を募集した。

（1）回収結果

N	149 件
男性	35 件
女性	110 件
答えない	４件

本項目については、本調査のほか、市政広報紙やホームページ等で呼びかけ、令和７年６～７月にインターネット上で回収したものも含む。

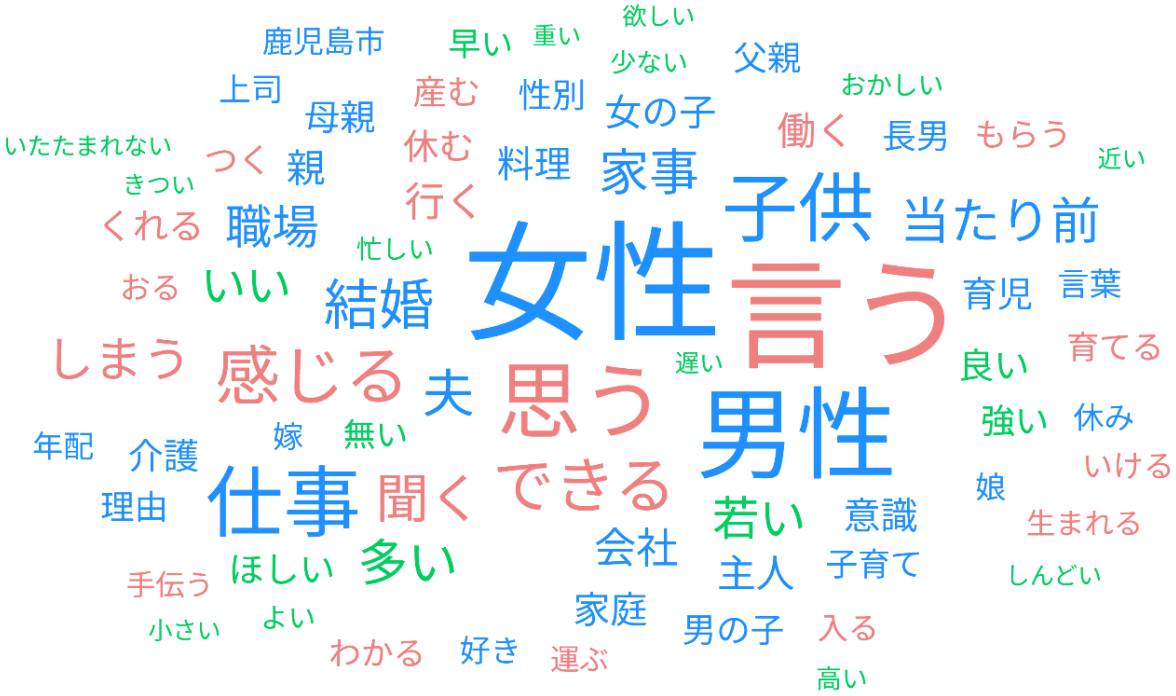
(2) 全体像・出現回数

集まったエピソードについて、全体的な傾向を把握するため、ユーザーローカルテキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）のワードクラウド機能を用い、単語の出現頻度を文字の大きさにより可視化した。

「女性」「男性」といった性別を示す語に加え、「子供」「家事」「育児」「仕事」「職場」など、家庭生活や就労の場面に関わる語が多く確認された。

これらは、性別による無意識の思い込みが、家庭や職場といった日常生活の場面で経験・認識されているケースが多いことを示唆している。

図（画像）2-5-1-(2)
エピソードにおけるワードクラウド



出現頻度を文字の大きさにより可視化した図。
単語の色は品詞種類で異なり、青が名詞、赤が動詞、緑が形容詞。

表 2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数
（名詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
女性	143	親	15	男の子	11	役職	8
男性	100	家庭	14	理由	11	役員	8
仕事	66	料理	14	子育て	10	男女	8
子供	65	意識	14	上司	10	夫婦	8
結婚	33	女の子	14	言葉	10	社会	8
夫	29	育児	13	嫁	9	友人	8
家事	25	介護	13	娘	9	母	8
当たり前	25	母親	12	休み	9	周り	8
職場	22	性別	11	好き	9	一人	8
会社	18	長男	11	鹿児島市	8		
主人	15	父親	11	年配	8		

表 2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数
（動詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
言う	105	休む	10	おる	7	作る	6
思う	61	くれる	10	入る	7	いく	6
感じる	39	産む	9	運ぶ	6	思い込む	5
できる	34	つく	9	手伝う	6	分かる	5
聞く	25	育てる	8	生まれる	6	考える	5
しまう	18	もらう	8	座る	6	帰る	5
行く	13	わかる	8	しれる	6		
働く	12	いける	7	かける	6		

表 2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数
（形容詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
多い	20	忙しい	4	しんどい	3	大きい	2
若い	17	少ない	4	欲しい	3	優しい	2
いい	16	おかしい	4	いたたまれない	2	凄い	2
ほしい	10	高い	4	幼い	2	悪い	2
良い	10	重い	3	薄い	2	嬉しい	2
強い	9	小さい	3	偉い	2	可愛い	2
無い	8	きつい	3	低い	2		
早い	8	近い	3	うれしい	2		
よい	5	遅い	3	寂しい	2		

（3）主な内容(抜粋)

30～34 歳	女性	女は子どもを産んで一人前
私は癌の治療中で子どもは産めない状態なのですが「”女は”子どもを産まないと一人前でない」と中高年、老人たちによく言われます。近くの温泉で話しかけられる時も「お子さんは？」とあいさつのように言われます。不妊治療中の友人はうつになりました。職場でも私生活でも「女性は子供がいて当たり前」に囲まれると、後輩たちも結婚出産を迫られて押し付けられて、息が詰まる、やっぱり鹿児島市は意識が田舎だ。強制されるのが嫌。都会に転職して出ていくつもりと言っていました。東京はそんなこと言われることもないと鹿児島市を出ていった友人も言っていました。		
45～49 歳	男性	父親が参加しにくい PTA
学校の PTA に父親である自分が出席したが、周りは全員お母さんだけだった。男は私一人で周りのお母さんたちとの会話に中々入れず、いたたまれない気持ちになったことがある。PTA に出席するのはお母さんの役割という意識が、多くの家庭であると思う。		
30～34 歳	女性	世代間での考え方の違い
初めての子供が産まれ、夫と協力して育児を行っています。それを見た母には、私達の時はそんなこと無かったのに余裕があっていいわねと言われ、祖母にはあなたは家で何をしているの？と言われました。今の状況を 1 番応援して欲しい家族に、育児や家事を夫婦で協力することを理解してもらえないのがしんどいです。そのため、なんとなく夫以外の家族に頼りたくても頼りにくい現状となっています。		
40～44 歳	女性	時代錯誤
夫の家は、田舎の農家で、お盆や正月は親戚一同集まります。お酒やお料理の準備など、義母は全て嫁たちに求めてきます。座る暇もなく、ずっと台所仕事です。夫も一緒にさせようとすると、男性だからしなくて良いと怒り出します。次第にその集まりが苦痛になり、不参加になりました。		
25～29 歳	男性	できるときにできる方が
妻が仕事が忙しいときに、「家事ができずにごめんなさい」と謝ってくるのに違和感を感じた。できるときにできる方がやればいいと思う。		
40～44 歳	女性	妊娠出産への関わり方の差
初めての妊娠の際、 主人が妊婦健診に付き添ったのは 1、2 回でした。 自分自身産むのは私だからと思っていましたし、主人は仕事があるし&男性だし産婦人科は居心地悪いだろうからという思い込みがありましたが、今になって思えば 共に子育てをする上で妊娠中から夫婦で親となる自覚と覚悟をもつために健診に同行してもらえばと思いました。		

50～54 歳	女性	組織的アンコンシャス・バイアス
我が社は女性の登用が比較的進んでいると見えているが、実は、営業部門では性別を問わない同等の実績を残しても、トップの指揮を直接仰げる経営企画や、組織運営の中核である人事や秘書などの部署では、女性が統括的な管理職として配置されることはない。社内で「あそこは男性ポスト」というフレーズが定着し、表立った違和感が醸されていない現状は、我が社の組織的なアンコンシャス･バイアスだと思う。或いは、意識的にアンコンシャスを装ったパフォーマンスなのかもしれない。		
50～54 歳	男性	上司の考え古くない！？
会社の受付業務の女子社員が開発に移動してバリバリ働きたいと言っていたので、上司にヤル気があるし、頑張らせてあげて欲しいと進言したが、「可愛い女子は受付が一番」と却下された。それでイイのかウチの会社…と残念な気持ちになった。		
35～39 歳	女性	平等な評価してくれない
夫婦同じ会社に勤めております。 そろそろ昇格があるかと思っていたところ、夫婦同時に昇格だとご主人のメンツがという会社側の訳のわからない理由で私の昇格はなくなった。		
35～39 歳	女性	社会の現実
子供が生まれたばかりなのに育休（男性）が３日しかなかった。社内規定に明確な記載はなく、同調圧力で復帰せざるを得ない様であった。時短も給料が下がるのでせず、フルタイム＋残業をしていた。		
55～59 歳	男性	それ、私の仕事なの
デイサービスに勤務、これまで男性が運転、女性が料理の分野を担当し、男性女性の性別で業務分担をしているのに、違和感を覚えています。男性は、運転が上手い、女性は料理が得意という先入観や価値観にとらわれ業務内容に性差別を感じています。お互いに性別や年齢差の違いを認め、その人の歴史や人生観の相違に気づき認める勇気が必要だと痛感しています。		
45～49 歳	女性	産後の仕事復帰の時期について
産後半年や１年で仕事復帰すると『子どもが可哀想』と言われる。女性の社会復帰は望まれていないのかと悲しくなる。		
55～59 歳	女性	女も車を買う
私は通勤のために車が必要で、先日車を買い換えました。車の名義もお金の支払いも私なのですが、夫と２人で販売店に話を聞きに行くと、担当者は私ではなく夫に説明をします。私の車なのに、とモヤモヤしました。		
40～44 歳	女性	男の子だから女の子だから
私の母が５歳の息子に「男の子なんだから泣かない」と言ったことがあり、息子はそれをずっと覚えており「なんで男の子だからって泣いちゃいけないん		

だ」といまだに言います。男の子はこうあるべき、女の子はこうあるべきという考え方は苦しめてしまう言葉なのだと思います。		
65～69 歳	女性	偏見のない社会をめざそう
高校生の孫（男の子）がオタク気質なのか女の子のマンガのフィギュアやキャラクターを集めていて男のくせにと違和感を持ったことがあるけど、自分なりに考え直してこれもこの子の個性なのだから否定することはやめようと思いました。今では一緒に楽しんでいます。		
40～44 歳	男性	女性だからと決めつけている人に対してそれを否定できない自分の歯がゆさ
友人が運転する車に同乗していた際に、駐車場で前の車がなかなか駐車ができないのを見ていた友人がふと「運転手は女の人だね。だからあんなに下手くそなんだ」という発言を聞いて、心の中では「男女で運転技術が決まる事は無いのに」と思っていながらも言い出せない自分がいた。		
40～44 歳	答えない	時代背景の言葉の選び方
男性の知り合いが「車で迎えに今から彼女が来る」と言って、来た相手が女性ではなく男性だった。彼女が当たり前の様に女性だと自分は思い込んでしまった。それからは人との会話で「パートナー」と言う様に気をつけています。		
65～69 歳	男性	儀式等における席順について
いろいろな儀式、特に葬儀等の場合に、年齢や親族としての近さに関係なく、男性が前列で女性が後列に着席することがあった。自らそれについて意見を述べるということはなかったが、今後、そのような男女による並びにとらわれるべきではないと思った。		
35～39 歳	女性	男子の性も尊重されないといけない
年配の先生が女子は更衣室で着がえて、男子は適当にその辺で着がえなさい！という風に言っているという話を聞いて、着替えが嫌という男子もいるのに無意識で女子はダメだけど男子は大丈夫！という考えがあるのだなと思いました。		

2-5-2 アクション

「性別による無意識の思い込みを解消していくために取り組んでいるアクション（アクション）」を募集した。

(1)回収結果

N	121 件
男性	26 件
女性	92 件
答えない	3 件

本項目については、本調査のほか、市政広報紙やホームページ等で呼びかけ、令和７年６～７月にインターネット上で回収したものも含む。

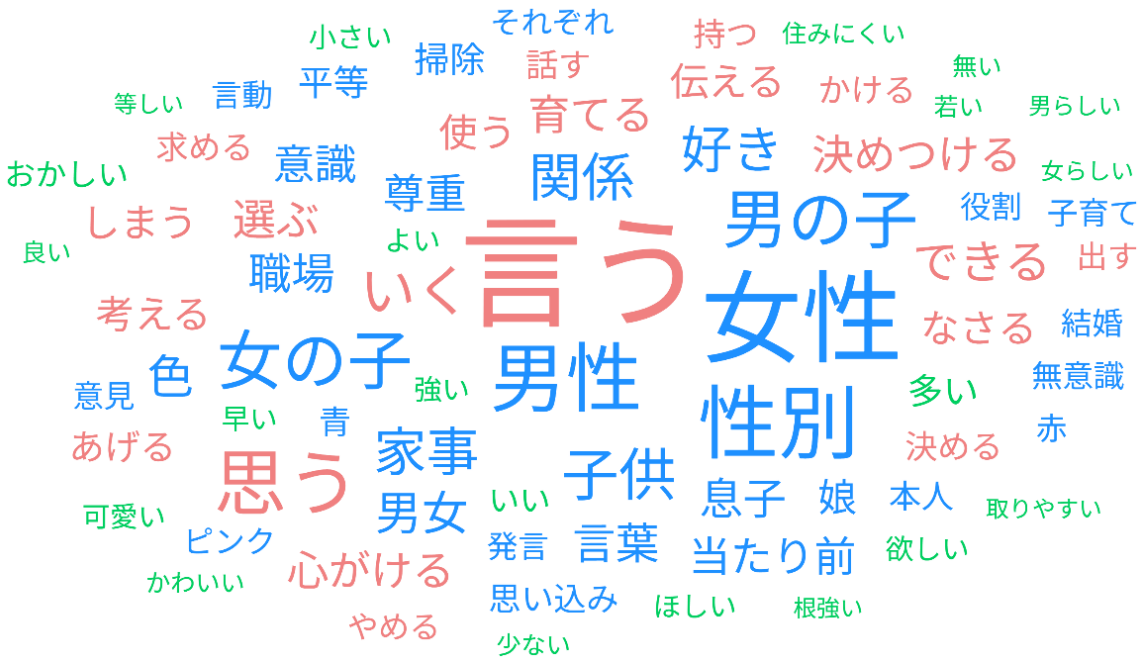
(2) 全体像・出現回数

集まったアクションについて、全体的な傾向を把握するため、ユーザーローカルテキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）のワードクラウド機能を用い、単語の出現頻度を文字の大きさにより可視化した。

「男の子」「女の子」「子供」「息子」「娘」など、家庭や日常生活の中での子どもへの関わりに関する語が多く見られた。

これらの語の出現頻度から、無意識の思い込みの解消に向けた取り組みの中では、次世代への関わり方を意識した行動が多く挙げられていることがうかがえる。また、自由記述の内容からは、幼少期から多様な価値観や選択肢に触れることを意識した取り組みが一定数見られた。

図（画像）2-5-2-(2)
アクションにおけるワードクラウド



出現頻度を文字の大きさにより可視化した図。
単語の色は品詞の種類で異なり、青が名詞、赤が動詞、緑が形容詞。

表 2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数
（名詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
女性	43	尊重	10	意見	5	注意	4
性別	32	当たり前	10	それぞれ	5	洗濯	4
男性	29	意識	10	発言	5	行動	4
男の子	23	娘	9	赤	5	料理	4
女の子	23	平等	7	結婚	5	姿	4
子供	19	掃除	7	周り	5	お互い	4
家事	16	思い込み	6	服	5	家族	4
関係	16	青	6	仕事	5	苦手	4
好き	15	本人	6	孫	4	勝手	4
男女	12	言動	5	手伝い	4	期待	4
色	12	役割	5	育児	4	必要	4
息子	11	無意識	5	個性	4	気持ち	4
職場	11	子育て	5	介護	4		
言葉	11	ピンク	5	否定	4		

表 2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数
（動詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
言う	45	使う	7	もらう	4	気づく	3
思う	22	しまう	7	作る	4	生きる	3
いく	14	あげる	6	聞く	4	教える	3
できる	10	求める	5	心掛ける	3	知る	3
選ぶ	9	決める	5	接する	3	頑張る	3
決めつける	8	話す	5	産む	3	わかる	3
心がける	8	かける	5	手伝う	3	すぎる	3
育てる	8	持つ	5	分ける	3	見る	3
伝える	7	やめる	4	立てる	3		
なさる	7	出す	4	困る	3		
考える	7	違う	4	続ける	3		

表 2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数
（形容詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
多い	6	よい	3	取りやすい	1	低い	1
おかしい	4	住みにくい	2	男らしい	1	厳しい	1
いい	4	若い	2	等しい	1	恥ずかしい	1
小さい	3	少ない	2	荒い	1	素晴らしい	1
強い	3	無い	2	重たい	1	優しい	1
ほしい	3	かわいい	2	かゆい	1	新しい	1
早い	3	良い	2	古い	1	難しい	1
欲しい	3	女らしい	1	汚い	1	悪い	1
可愛い	3	根強い	1	おもしろい	1	楽しい	1

（3）主な内容(抜粋)

30～34 歳	女性	娘である母には「掃除をさせないと」、息子である叔父には「掃除なんてさせられない、男のすることじゃない」という祖母に対し、「男の人だって、一人で暮らしてたら自分で掃除をするでしょう？家事は生きていく上で必要なことなんだから、男だろうが女だろうが性別は関係ないんだよ」と祖母に会うたびに話しています。
50～54 歳	男性	子供には父親が当たり前に家事をする姿を見せ、時には手伝ってもらっている。
30～34 歳	男性	息子の欲しい靴がピンク色の可愛いものであっても尊重するようにしている。
70 歳以上	女性	孫に、女だから家事をしなさい。男だから、頑張りなさいという事は言わないように気をつけています。
60～64 歳	女性	男の子は泣かない、強くなりなさいとつい言ってしまった。男の子２人なので「兄ちゃんは弟を助けてあげること」など長男へ言うことが多かったが、ひとりひとりの個性をみて、ひとりの人間として接することにしています。
30～34 歳	男性	性別による無意識の思い込みを解消するため、日々の業務や生活の中で具体的なアクションを実践しています。たとえば、会議やプロジェクトのリーダーを決める際は「男性だから」「女性だから」といった先入観で役割を割り振らず、本人の希望や適性、実績を重視して選ぶようにしています。また、メンバーの発言や意見が性別によって軽視されたり、逆に過度に期待されたりしていないか、会議中の雰囲気や表情の変化に注意を払っています。もし「男だからもっと強く」「女性らしい気配りが必要」といった発言が出た場合は、その場で「性別に関係なく、それぞれの強みを活かしましょう」と声をかけ、固定観念を和らげるよう心がけています。さらに、社内研修で男女逆転のロールプレイを取り入れ、チーム全体でバイアスへの気づきを深める機会も設けています。こうした積み重ねが、誰もが自分らしく働ける環境づくりにつながると考えています。

35～39 歳	女性	「女は綺麗好きでないと」「女は気がきかないと」と言って育てられた女性たちが身の回りに多く、家でも職場でも名もなき家事や雑用を「だって気がつかないし」「自分でやったほうが早いから」とやってストレスをためています。職場（同じ役職）でもコピー用紙の補充やポットのお湯など女性がやってしまうので、男性はしていませんでしたが、あえてしないでいたところ、男性は困ってコピー用紙は補充しました。お互いのためにも無意識の性別役割分担をしていないか意識改革が必要だと思いました。
40～44 歳	女性	仕事を一生懸命頑張っているのに、やりがいを見失いかけている人には、男女関係なく「本当はどうしたい？」「今１番大切にしたいことは何？」を尋ねるようにしています。周りの人から「管理職になったら」「仕事好きだよね」と勝手に決めつけられることほど乱暴なものはありません。特に、最近は女性管理職登用に力を入れている職場が多いので、女性で独身だと仕事好きというバイアスがかかっている気がします。
55～59 歳	女性	職場でこれまで主に男性に偏っていた業務に女性が経験を積めるようにアシストすることを心がけていることや男性が育児休業を取りやすいように声かけをしている。
30～34 歳	女性	同じ立場であるにもかかわらず、会議のお茶出しを男性が必ず女性に言ってくる（男性は絶対お茶出ししない）ので、「ペットボトルではだめなんですか？そのほうが持ち帰りもできるし、コロナ対策になります」と提案しています。（本当は男性もお茶出ししては？と言いたいけど・・・）女性は補助的な役割を求められがちです。提案は採用はされていませんが、言い続けたいと思います。こういう男性たちって、家で奥様にお茶を入れてあげたりしないのかなといつも疑問です。
55～59 歳	女性	職場で男性職員にもお茶当番に加わってもらっています。 自分も「女性だから」ということを言い訳に「できない」と言わないよう心掛けています。
30～34 歳	女性	新婚の女性に「お子さんは？」と尋ねないようにしています。特に女性は子どもを産んで当たり前という意識が鹿児島市は根強いです。妊娠出産だってリスクがあります。人にはそれぞれ事情もあります。その女性

		の人生はその人自身のもの。一人一人の女性の選択や人生を尊重する意識を持って接するよう心がけています。
60～64 歳	女性	「女子力」「女子だから」を多用する方とお会いした時には、同調も否定もせずに、どうしてそう思うのか？を知りたい気持ちを、まずは伝えるように心がけています。
25～29 歳	女性	性別以前にその人の性格、考え方をしっかり見極めてから言葉を出すようにしている。自分が同じことを言われたときを想像する。
40～44 歳	男性	男性と女性を入れ替えて発言しても社会的に問題ないと判断されるかを考える。
45～49 歳	男性	都度、〇〇な考え方もありますよねぇと遠回しに違う視点からの意見を伝えるようにしています。
30～34 歳	女性	職場での学生アルバイトや後輩とプライベートの話をする際に、「彼氏いるの？」「彼女いるの？」と聞くのではなく、「付き合ってる人いるの？」と聞くようにして、固定観念がないようにしています。
45～49 歳	女性	自分の考えが偏っているのではないかという視点を持ち、振り返る。自分と違う価値観に触れた時、その背景を考える。研修を受ける。

2-6 アンコンシャス・バイアスという言葉について

2-6-1「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知度

「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知度について、「意味を知っている」「聞いたことがあるが意味までは知らない」「知らない・わからない」と回答した割合を示し、全国の調査結果と比較した。

「意味を知っている」「聞いたことはあるが意味までは知らない」の合計は 26.3%であるのに対し、「知らない・わからない」は 73.7%で、4 人に 3 人近くがアンコンシャス・バイアスという言葉を知らない状況である。

全国と比較すると、「意味を知っている」（本市 12.4%、全国 8.1%）は、全国より 4.3 ポイント高くなっている。ただし、全国の調査実施は令和 4 年度であり、調査時点が異なることに注意が必要である。

表 2-6-1 アンコンシャス・バイアスの認知度

「アンコンシャス・バイアス」の認知度	鹿児島市（%）	全国（%）
意味を知っている	12.4	8.1
聞いたことはあるが意味までは知らない	13.9	13.2
知らない・わからない	73.7	78.5

回答者数：鹿児島市647　全国10906

2-6-2「アンコンシャス・バイアス」という言葉をどこで聞いたか

「アンコンシャス・バイアス」という言葉について、「意味を知っている」「聞いたことはあるが意味までは知らない」と答えた人に、どこで聞いたかをたずね、全国の調査結果と比較した。

本市では「テレビ・ラジオ」（37.6%）が最も高く、全国（30.3%）より 7.3 ポイント高くなっている。

また、「職場の研修」（27.6%）は、全国（9.7%）より 17.9 ポイント高く、本市では職場での啓発活動が活発であると考えられる。

表 2-6-2 アンコンシャス・バイアスの認知手段

「アンコンシャス・バイアス」の認知手段		鹿児島市（%）	全国（%）
1	テレビ・ラジオ	37.6	30.3
2	インターネット・SNS	34.7	31.3
3	職場の研修	27.6	9.7
4	新聞・雑誌・本	24.1	18.2
5	学校の授業	8.2	7.1
6	友人・知人	4.1	2.4
7	わからない	2.9	20.5
8	家族	1.2	2.7
9	その他	0.6	3.0

回答者数：鹿児島市170　全国2332

3 設問一覧

番号	設問	回答肢
Q1	あなたの戸籍上の性別はどちらですか。	・男性 ・女性 ・答えない
Q2	あなたの年齢（満年齢）を教えてください。	・18～19 歳 ・20～24 歳 ・25～29 歳 ・30～34 歳 ・35～39 歳 ・40～44 歳 ・45～49 歳 ・50～54 歳 ・55～59 歳 ・60～64 歳 ・65～69 歳 ・70 歳以上
Q3	あなたのお仕事はどれにあたりますか。（○は１つ）	・正社員・正職員 ・派遣・契約社員 ・パート・アルバイト ・自営業・自由業 ・会社役員・経営者 ・専業主婦（夫） ・学生 ・無職
Q4	あなたは結婚していらっしゃいますか。（○は１つ）	・結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む） ・離別 ・死別 ・結婚していない
Q5	Q4 で「結婚している（結婚していないがパートナーと暮らしている場合も含む）」と答えた方へおたずねします。ご夫婦の職業についてどれにあたりますか。	・どちらにも職業がある ・自分にのみ職業がある ・配偶者にのみ職業がある ・どちらも職業がない
Q6	あなたにお子さんはいらっしゃいますか。	・いる ・いない

Q7	次にあげる文章について、どのように思いますか。（○はそれぞれ１つずつ） 【家庭・コミュニティでの場面】 ・男性は結婚して家庭をもって一人前だ ・共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ ・親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ ・家を継ぐのは男性であるべきだ ・共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ ・結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ ・家事・育児は女性がするべきだ ・実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない
Q8	次にあげる文章について、どのように思いますか。（○はそれぞれ１つずつ） 【職場での場面 ※働いていない方は、働いていると仮定して回答してください】 ・組織のリーダーは男性の方が向いている ・受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ ・育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない ・仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い ・女性の上司には抵抗がある ・男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない
Q9	次にあげる文章について、どのように思いますか。（○はそれぞれ１つずつ） 【その他】 ・女性は感情的になりやすい ・男性は人前で泣くべきではない ・女性には女性らしい感性があるものだ	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない

Q10	次にあげる文章について、どのように思いますか。（○はそれぞれ１つずつ） 【ご自身について】 ・自分は性別による偏った思い込みはない ・自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある ・自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない
Q11	次のようなことを他人から直接言われたり、誰かの言動や態度からそのようなことを聞いたり感じたりしたことはありますか。（○はそれぞれいくつでも）【家庭・コミュニティでの場面】 ・男性は結婚して家庭をもって一人前だ ・共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ ・親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ ・家を継ぐのは男性であるべきだ ・共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ ・結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ ・家事・育児は女性がするべきだ ・実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	・直接（直接言われたり、聞いたりしたことがある） ・間接（直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある） ・メディアによる影響（テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある） ・どれにも該当しない
Q12	次のようなことを他人から直接言われたり、誰かの言動や態度からそのようなことを聞いたり感じたりしたことはありますか。（○はそれぞれいくつでも）【職場での場面】 ・組織のリーダーは男性の方が向いている ・受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ ・育児期間中の女性は重要な仕事を担	・直接（直接言われたり、聞いたりしたことがある） ・間接（直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある）

	当すべきでない ・仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い ・女性の上司には抵抗がある ・男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	・メディアによる影響（テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある） ・どれにも該当しない
Q13	次のようなことを他人から直接言われたり、誰かの言動や態度からそのようなことを聞いたり感じたりしたことはありますか。（○はそれぞれいくつでも）【その他】 ・女性は感情的になりやすい ・男性は人前で泣くべきではない ・女性には女性らしい感性があるものだ	・直接（直接言われたり、聞いたりしたことがある） ・間接（直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある） ・メディアによる影響（テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある） ・どれにも該当しない
Q14	性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード（本市で概ね５年以内に経験したもの）とその際のご自身の気持ちや感じたことについて教えてください。誰かから受けた言動でも、ご自身の言動に気付いた経験でもどちらでも構いません。	
Q15	Q14 のエピソードにタイトルを付けてください。	
Q16	性別による無意識の思い込みを解消していくために取り組んでいるアクションがあれば教えてください。	
Q17	「アンコンシャス･バイアス（無意識の思い込み）」という言葉を知っていますか。	・意味を知っている ・聞いたことはあるが意味までは知らない ・知らない・わからない
Q18	Q17 で「意味を知っている」「聞いたことはあるが意味までは知らない」と答えた方におたずねします。「アンコンシャス･バイアス（無意識の思い込み）」という言葉をどこで聞きましたか。（いくつでも）	・学校の授業 ・職場の研修 ・テレビ・ラジオ ・新聞・雑誌・本 ・インターネット・SNS ・家族 ・友人・知人

		・その他 ・わからない

第2部(学生)

1 調査の概要

1-1 実施方法等の概要

1-1-1 調査の目的

本市の職場や家庭、地域など、社会全体における固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス･バイアスについて、その解消に向けた行動につなげることを目的として、基礎的なデータを収集し、分析する。

1-1-2 調査の対象

本市内の大学および短期大学に通う学生

1-1-3 実施方法

大学及び短期大学の事務局等を通じた配布・インターネット上での回収

1-1-4 調査期間

令和 7 年 6 月 25 日～同年 7 月 31 日

1-1-5 有効回答数

有効回答数
887件

1-1-6 回収率を上げるための方策

回収率向上のため、回答しやすい調査票設計を行うとともに、回答者が途中で離脱しないよう心理的負担の軽減を図った。また、回答者全員に PayPay ポイント 150 円相当をインセンティブとして付与した。

1-1-7 本報告書を読む際の注意点

- 図表中の「N」(Number of cases の略）は、無回答を除いた設問に対する有効回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出する際の基数となる。
- 回答の比率（%）は、小数点第２位を四捨五入しているため、単一回答の設問でも各選択肢の回答に関する数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- 回答の比率（%）は、質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると、100.0%を超える場合がある。

- 回答の比率（%）の差分等は、小数点第２位以下を含む元データに基づいて計算し、その結果を小数点第２位で四捨五入して小数点第１位まで表示しており、図表上で示す比率を単純に減算した値と、計算値が一部異なる場合がある。
- 性別の質問で「答えない」を選択した回答者は、８人（全体の 0.9%）であり、全体の集計結果には、「答えない」の回答者を含む。図表等では、「答えない」の回答者の表示は省略している。
- 「アンコンシャス･バイアス」は、心理学の学術上は潜在的バイアスとも呼ばれる。これらは潜在的なものであることから、学術上、専門的な手法によって測定することは可能だが、意識的に回答を行うアンケート調査の手法で把握することは非常に困難であるとされている。したがって本調査は、心理学の学術上用いられるアンコンシャス･バイアスを調査するものではないことを申し添える。

1-2 設問設計の概要

1-2-1 設問の構成

本調査では、回答者自身の性別役割意識に関する 30 項目を 4 段階のリッカート尺度で測定した。その後、自己認識に関する 3 項目を除く 27 項目について、性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験の有無をたずねた。

また、性別による無意識の思い込みにまつわるエピソードと解消に向けたアクションを募集したほか、東京都・福岡市・本市における男女の地位の平等意識や、卒業後の本市への定住意向などについてたずねた。

表 1-2-1 設問の構成

項目	内容
性別役割意識	・測定項目は「家庭・コミュニティでの場面」「職場での場面」「その他」の性別役割に関する27項目、自己認識に関する3項目 ・尺度は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4段階
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験	・30の測定項目のうち、自己認識に関する3項目を除く27項目について、直接または間接的に性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験の有無 【直接】直接言われたり、聞いたりしたことがある 【間接】直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある 【メディアによる影響】テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある
性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード・解消に向けたアクション	・性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード（本市で概ね5年以内に経験したもの）とその際の自身の気持ちや感じたこと ・性別による無意識の思い込みを解消していくために取り組んでいるアクション
男女の地位の平等意識	・東京都、福岡市、本市における男女の地位の平等意識 ・尺度は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」の5段階
本市への定住意向	・卒業後の本市への定住意向 ・本市の性別による偏った思い込みが定住意向に影響を与えているか（選択肢:「非常に影響を与えている」「やや影響を与えている」「あまり影響を与えていない」「まったく影響を与えていない」の4段階）
属性設問	基本属性（性別、年代、学校など）

※性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験とは、性別を理由に特定の役割を求められた・期待された経験

1-2-2 測定項目

表 1-2-2 測定項目

家庭・コミュニティでの場面	
1	男性は結婚して家庭をもって一人前だ
2	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ
3	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
4	家を継ぐのは男性であるべきだ
5	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ
6	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ
7	家事・育児は女性がするべきだ
8	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
9	男性は仕事をして家計を支えるべきだ
10	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ
11	PTAには、女性が参加するべきだ
12	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
職場での場面	
1	組織のリーダーは男性の方が向いている
2	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ
3	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
4	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
5	女性の上司には抵抗がある
6	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
7	男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない
8	営業職は男性の仕事だ
9	転勤は男性がするものだ
10	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ
11	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない
12	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい
その他	
1	女性は感情的になりやすい
2	男性は人前で泣くべきではない
3	女性には女性らしい感性があるものだ
ご自身について（自己認識）	
1	自分は性別による偏った思い込みはない
2	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある
3	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた

2 調査結果の概要

2-1 回答者属性

2-1-1 性別

※左段：件数、右段：%

表 2-1-1 回答者の性別

N	887	100.0
男性	241	27.2
女性	638	71.9
答えない	8	0.9

2-1-2 年齢

表 2-1-2 回答者の年齢

N	882	100.0
10代	666	75.5
20代	212	24.0
30代以上	4	0.5

2-1-3 学校

表 2-1-3 回答者の学校

N	887	100.0
短期大学	288	32.5
大学・大学院	599	67.5

2-1-4 出身地

表 2-1-4 回答者の出身地

N	887	100.0
鹿児島市内	447	50.4
鹿児島県内（鹿児島市外）	362	40.8
鹿児島県外	78	8.8

2-1-5 専攻

表 2-1-5 回答者の専攻

N	887	100.0
文系	560	63.1
理系	63	7.1
医系	82	9.2
その他	182	20.5

2-2 性別役割意識

性別役割意識について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合を示した。

全体でみると、家庭・コミュニティでの場面では、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」など、「男性は～べきだ」という男性の性別役割に関する項目の割合が高くなっている。

職場での場面でみると、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」が４割超で最も高く、他の項目と比較して割合が高い。まだ社会に出ていない学生にも、すでに職場での性別役割意識が根付いている可能性が示唆される。

その他の場面でみると、「女性には女性らしい感性があるものだ」「女性は感情的になりやすい」は５割を超えている。一方で、「男性は人前で泣くべきではない」は 15.6%にとどまっている。

また、男女別でみると、自己認識に関する３項目を除いた 27 項目中、23 項目で男性の割合が女性よりも高くなっている。また、男性が女性を 10 ポイント以上上回った８項目中７項目は、「男性は～べきだ（～べきではない）」といった男性に関する項目であり、男性は自身の性別役割を強く意識している傾向がうかがえる。

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（男性 61.0%、女性 40.4%）、「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」（男性 39.4%、女性 16.9%）、「男性は人前で泣くべきではない」（男性 32.0%、女性 9.2%）の３項目は、男女差が 20 ポイント以上開いている。

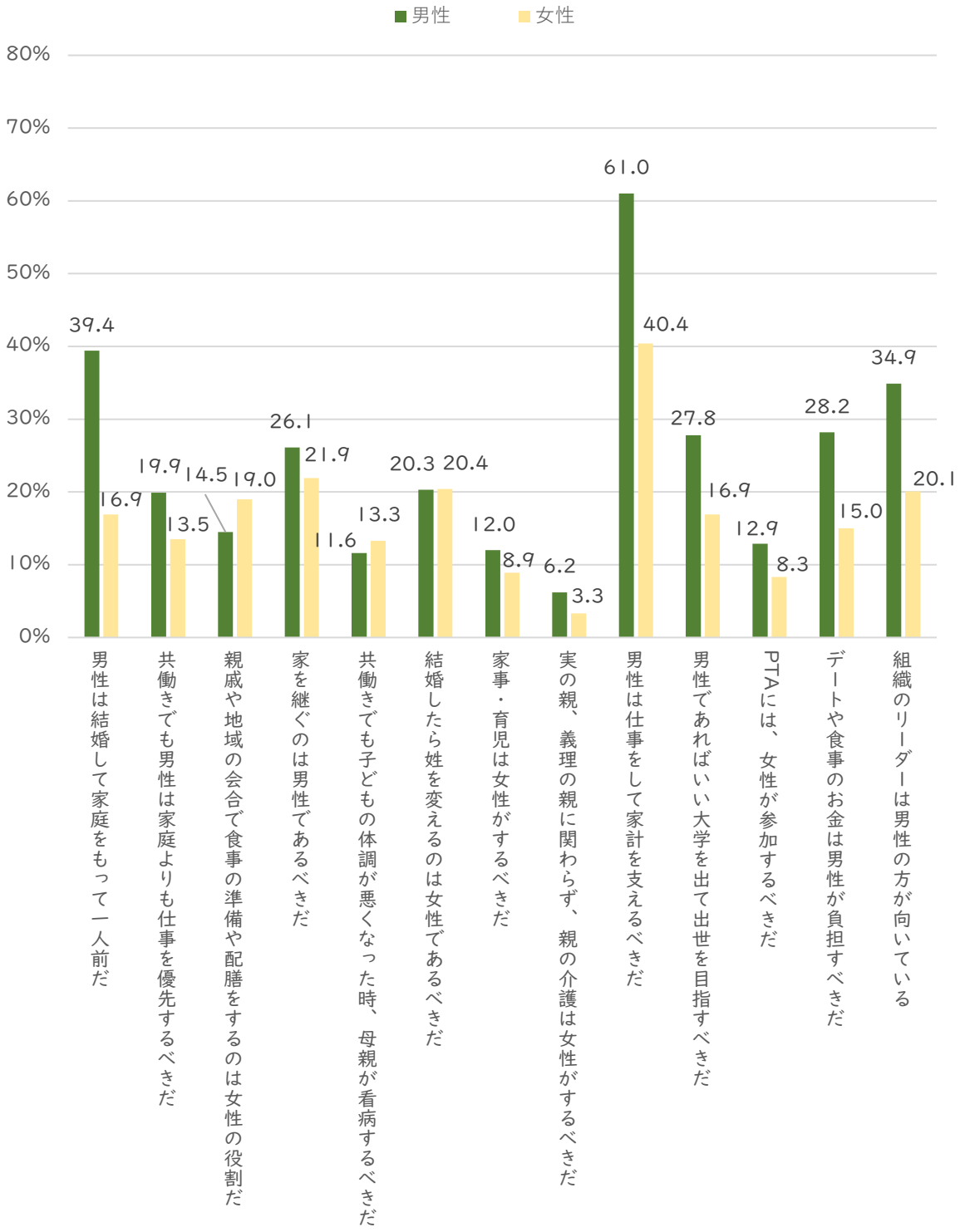
表 2-2 性別役割意識

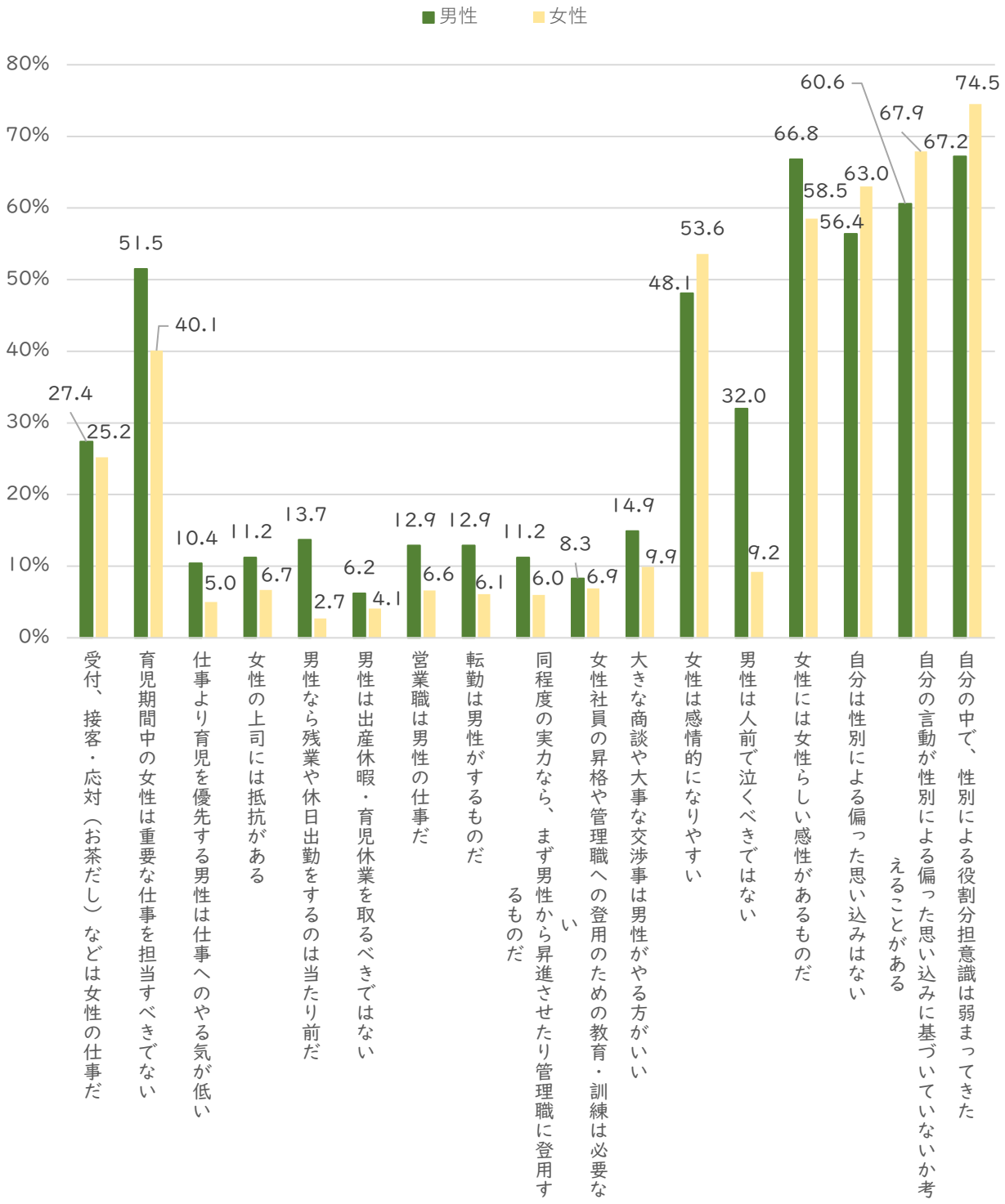
男性の方が10pt以上高い項目

	性別役割意識	N (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性-女性 (%)
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	23.0	39.4	16.9	22.5
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	15.3	19.9	13.5	6.4
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	17.9	14.5	19.0	-4.5
	家を継ぐのは男性であるべきだ	22.9	26.1	21.9	4.2
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	13.0	11.6	13.3	-1.7
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	20.3	20.3	20.4	-0.1
	家事・育児は女性がするべきだ	9.9	12.0	8.9	3.1
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	4.2	6.2	3.3	2.9
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	45.9	61.0	40.4	20.6
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	20.0	27.8	16.9	10.9
	PTAには、女性が参加するべきだ	9.5	12.9	8.3	4.6
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	18.7	28.2	15.0	13.2
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	24.1	34.9	20.1	14.8
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	25.8	27.4	25.2	2.2
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	43.3	51.5	40.1	11.4
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	6.5	10.4	5.0	5.4
	女性の上司には抵抗がある	8.1	11.2	6.7	4.5
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	5.7	13.7	2.7	11.0
	男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない	4.7	6.2	4.1	2.1
	営業職は男性の仕事だ	8.5	12.9	6.6	6.3
	転勤は男性がするものだ	8.1	12.9	6.1	6.8
	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	7.4	11.2	6.0	5.2
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	7.4	8.3	6.9	1.4
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	11.4	14.9	9.9	5.0
その他	女性は感情的になりやすい	52.1	48.1	53.6	-5.5
	男性は人前で泣くべきではない	15.6	32.0	9.2	22.8
	女性には女性らしい感性があるものだ	60.7	66.8	58.5	8.3
自己認識	自分は性別による偏った思い込みはない	60.9	56.4	63.0	-6.6
	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある	66.2	60.6	67.9	-7.3
	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた	72.7	67.2	74.5	-7.3

回答者数：N887　男性241　女性638

図 2-2 性別役割意識


男性
女性
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
39.4
16.9
19.9
13.5
14.5
19.0
26.1
21.9
11.6
13.3
20.3
20.4
12.0
8.9
6.2
3.3
61.0
40.4
27.8
16.9
12.9
8.3
28.2
15.0
34.9
20.1
男性は結婚して家庭をもって一人前だ
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ
親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
家を継ぐのは男性であるべきだ
共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ
結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ
家事・育児は女性がするべきだ
実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
男性は仕事をして家計を支えるべきだ
男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ
PTAには、女性が参加するべきだ
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
組織のリーダーは男性の方が向いている


男性
女性
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
27.4
25.2
51.5
40.1
10.4
5.0
11.2
6.7
13.7
2.7
6.2
4.1
12.9
6.6
12.9
6.1
11.2
6.0
8.3
6.9
14.9
9.9
48.1
53.6
32.0
9.2
66.8
58.5
56.4
63.0
60.6
67.9
67.2
74.5
受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
女性の上司には抵抗がある
男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
男性は出産休暇・育児休業を取るべきではない
営業職は男性の仕事だ
転勤は男性がするものだ
同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ
女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい
女性は感情的になりやすい
男性は人前で泣くべきではない
女性には女性らしい感性があるものだ
自分は性別による偏った思い込みはない
自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある
自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた

2-3 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある（直接経験）」、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある（間接経験）」、「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある（メディア経験）」の割合を示した。

2-3-1 全体

全 27 項目中 26 項目で、「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」が最も高くなっている。

「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」のみ、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」が最も高く、この割合は、他の 26 項目の「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」と比較しても最も高い。

なお、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」と「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」で比較すると、全 27 項目で、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の割合が高い結果となった。

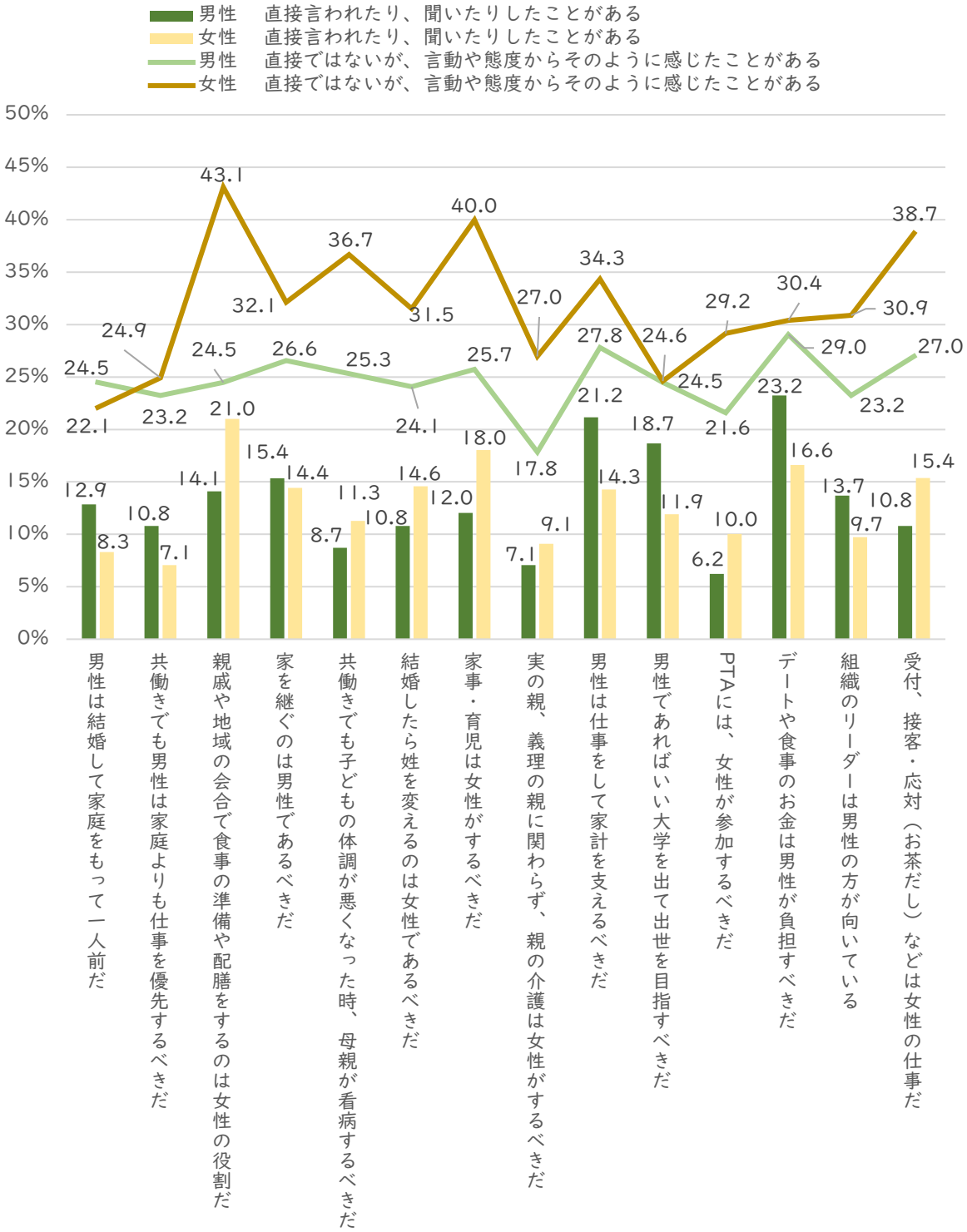
表 2-3-1 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（全体）

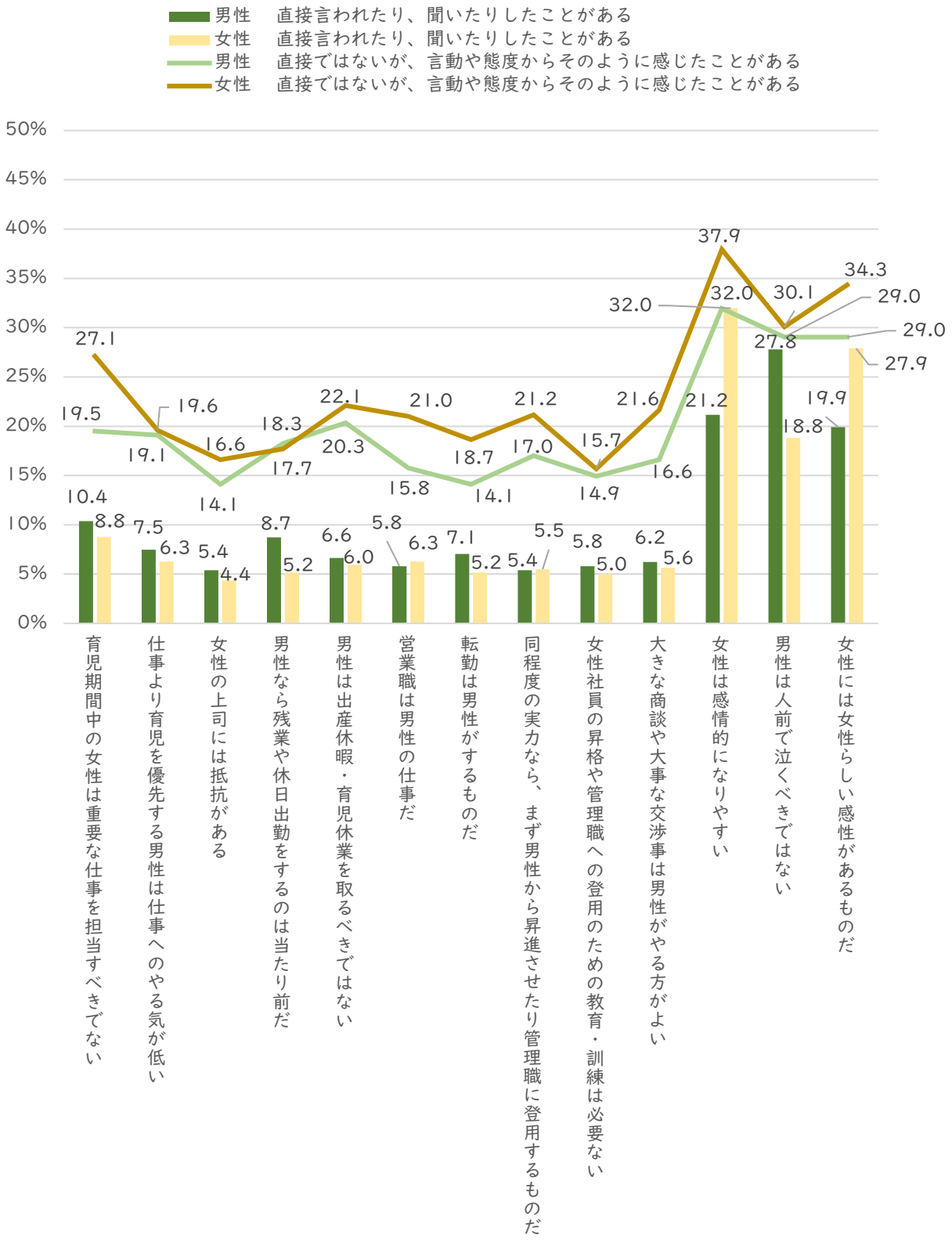
	性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験　回答数：887件	直接経験（%）	間接経験（%）	メディア経験（%）	直接-間接（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	9.8	22.7	41.0	-12.9
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	8.2	24.2	42.2	-16.0
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	19.2	37.9	32.2	-18.7
	家を継ぐのは男性であるべきだ	14.9	30.6	41.7	-15.7
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	10.7	33.6	35.2	-22.9
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	13.5	29.2	41.6	-15.7
	家事・育児は女性がするべきだ	16.5	36.2	41.6	-19.7
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	8.5	24.4	36.0	-15.9
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.3	32.7	43.4	-16.3
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	14.0	24.8	39.1	-10.8
	PTAには、女性が参加するべきだ	8.9	27.4	27.5	-18.5
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	18.8	30.0	51.9	-11.2
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	10.9	28.5	34.0	-17.6
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	14.0	35.6	40.4	-21.6
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	9.2	24.8	39.6	-15.6
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	6.7	19.4	29.7	-12.7
	女性の上司には抵抗がある	4.6	15.8	32.0	-11.2
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	6.1	17.8	32.6	-11.7
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	6.1	21.5	38.3	-15.4
	営業職は男性の仕事だ	6.2	19.4	32.4	-13.2
	転勤は男性がするものだ	5.7	17.2	28.0	-11.5
	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	5.4	19.8	36.6	-14.4
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	5.2	15.4	26.8	-10.3
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	5.9	20.2	32.0	-14.3
その他	女性は感情的になりやすい	29.0	36.4	38.4	-7.4
	男性は人前で泣くべきではない	21.2	29.7	39.0	-8.5
	女性には女性らしい感性があるものだ	25.5	32.6	35.1	-7.1

2-3-2 男女別

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の割合を男女別に示した。

図 2-3-2
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別）




男性　直接言われたり、聞いたりしたことがある
女性　直接言われたり、聞いたりしたことがある
男性　直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある
女性　直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある
50%
45%
40%
35%
30%
25%
20%
15%
10%
5%
0%
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
女性の上司には抵抗がある
男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
男性は出産休暇・育児休業を取るべきではない
営業職は男性の仕事だ
転勤は男性がするものだ
同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ
女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がよい
女性は感情的になりやすい
男性は人前で泣くべきではない
女性には女性らしい感性があるものだ

(1)直接言われたり、聞いたりした経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われたり、聞いたりしたことがある」と回答した割合を示した。

男女間で最も大きな差が出たのは、「女性は感情的になりやすい」（男性 21.2%、女性 32.0%）で、女性の方が 10.8 ポイント高い。次いで「男性は人前で泣くべきではない」（男性 27.8%、女性 18.8%）は、男性の方が 9 ポイント高くなっており、男女差は全体的に小さい傾向にある。

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」（男性 21.2%、女性 14.3%）、「男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ」（男性 18.7%、女性 11.9%）といった男性に関する項目は、男性の割合が高い傾向にある。

また、「女性には女性らしい感性があるものだ」（男性 19.9%、女性 27.9%）、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（男性 14.1%、女性 21.0%）など、女性に関する項目は女性の割合が高い傾向にあり、男女ともに各々の性別にまつわる役割や思い込みを直接決めつけられた経験が多いことがうかがえる。

表 2-3-2-(1)
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、直接言われたり、聞いたりした経験）

男性の方が5pt以上高い項目
女性の方が5pt以上高い項目

	直接言われたり、聞いたりした経験	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	9.8	12.9	8.3	4.6
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	8.2	10.8	7.1	3.7
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	19.2	14.1	21.0	-6.9
	家を継ぐのは男性であるべきだ	14.9	15.4	14.4	0.9
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	10.7	8.7	11.3	-2.6
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	13.5	10.8	14.6	-3.8
	家事・育児は女性がするべきだ	16.5	12.0	18.0	-6.0
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	8.5	7.1	9.1	-2.0
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	16.3	21.2	14.3	6.9
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	14.0	18.7	11.9	6.8
	PTAには、女性が参加するべきだ	8.9	6.2	10.0	-3.8
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	18.8	23.2	16.6	6.6
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	10.9	13.7	9.7	4.0
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	14.0	10.8	15.4	-4.6
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	9.2	10.4	8.8	1.6
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	6.7	7.5	6.3	1.2
	女性の上司には抵抗がある	4.6	5.4	4.4	1.0
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	6.1	8.7	5.2	3.5
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	6.1	6.6	6.0	0.7
	営業職は男性の仕事だ	6.2	5.8	6.3	-0.5
	転勤は男性がするものだ	5.7	7.1	5.2	1.9
	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	5.4	5.4	5.5	-0.1
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	5.2	5.8	5.0	0.8
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	5.9	6.2	5.6	0.6
その他	女性は感情的になりやすい	29.0	21.2	32.0	-10.8
	男性は人前で泣くべきではない	21.2	27.8	18.8	9.0
	女性には女性らしい感性があるものだ	25.5	19.9	27.9	-8.0

回答者数：N887　男性241　女性638

(2) 言動や態度から感じた経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」と回答した割合を示した。

男女間で最も大きな差が出たのは、「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」（男性 24.5%、女性 43.1%）で、女性の方が 18.6 ポイント高い。次いで、「家事・育児は女性がするべきだ」（男性 25.7%、女性 40.0%）で、女性の方が 14.2 ポイント高くなっている。

また、全 27 項目中、「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」（男性 24.5%、女性 22.1%）、「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」（男性 18.3%、女性 17.7%）を除く 25 項目で、女性の割合が男性よりも高く、女性の方が言動や態度から感じた経験が多い傾向がうかがえる。

表 2-3-2-(2)
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、言動や態度から感じた経験）

女性の方が10pt以上高い項目

	言動や態度から感じた経験	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	22.7	24.5	22.1	2.4
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	24.2	23.2	24.9	-1.7
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	37.9	24.5	43.1	-18.6
	家を継ぐのは男性であるべきだ	30.6	26.6	32.1	-5.6
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	33.6	25.3	36.7	-11.4
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	29.2	24.1	31.5	-7.4
	家事・育児は女性がするべきだ	36.2	25.7	40.0	-14.2
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	24.4	17.8	27.0	-9.1
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	32.7	27.8	34.3	-6.5
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	24.8	24.5	24.6	-0.1
	PTAには、女性が参加するべきだ	27.4	21.6	29.2	-7.6
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	30.0	29.0	30.4	-1.4
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	28.5	23.2	30.9	-7.6
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	35.6	27.0	38.7	-11.7
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	24.8	19.5	27.1	-7.6
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	19.4	19.1	19.6	-0.5
	女性の上司には抵抗がある	15.8	14.1	16.6	-2.5
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	17.8	18.3	17.7	0.5
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	21.5	20.3	22.1	-1.8
	営業職は男性の仕事だ	19.4	15.8	21.0	-5.2
	転勤は男性がするものだ	17.2	14.1	18.7	-4.5
	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	19.8	17.0	21.2	-4.1
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	15.4	14.9	15.7	-0.7
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	20.2	16.6	21.6	-5.0
その他	女性は感情的になりやすい	36.4	32.0	37.9	-6.0
	男性は人前で泣くべきではない	29.7	29.0	30.1	-1.0
	女性には女性らしい感性があるものだ	32.6	29.0	34.3	-5.3

回答者数：N887　男性241　女性638

(3) メディアで見た経験

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある」と回答した割合を示した。

男女間で最も大きな差が出たのは、「デートや食事のお金は男性が出すべきだ」（男性 58.1%、女性 49.8%）で、男性の方が 8.2 ポイント高くなっている。次いで、「営業職は男性の仕事だ」（男性 27.0%、女性 34.5%）で、女性の方が 7.5 ポイント高くなっており、男女差は全体的に小さい傾向にある。

表 2-3-2-(3)
性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験
（男女別、メディアで見た経験）

男性の方が5pt以上高い項目
女性の方が5pt以上高い項目

	メディアで見た経験	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
家庭・コミュニティでの場面	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	41.0	39.4	42.2	-2.7
	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	42.2	39.0	43.7	-4.7
	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	32.2	36.5	30.9	5.6
	家を継ぐのは男性であるべきだ	41.7	40.7	42.5	-1.8
	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	35.2	31.5	36.8	-5.3
	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	41.6	39.8	42.6	-2.8
	家事・育児は女性がするべきだ	41.6	43.2	41.4	1.8
	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	36.0	34.4	37.0	-2.6
	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	43.4	42.3	44.2	-1.9
	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	39.1	41.9	38.4	3.5
	PTAには、女性が参加するべきだ	27.5	29.0	27.1	1.9
	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	51.9	58.1	49.8	8.2
職場での場面	組織のリーダーは男性の方が向いている	34.0	33.2	34.8	-1.6
	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	40.4	36.1	42.0	-5.9
	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	39.6	35.3	41.4	-6.1
	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	29.7	27.4	30.7	-3.3
	女性の上司には抵抗がある	32.0	28.6	33.4	-4.8
	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	32.6	33.6	32.3	1.3
	男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	38.3	40.7	37.5	3.2
	営業職は男性の仕事だ	32.4	27.0	34.5	-7.5
	転勤は男性がするものだ	28.0	27.8	28.1	-0.3
	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	36.6	36.1	37.0	-0.9
	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	26.8	28.6	26.3	2.3
	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	32.0	29.9	33.1	-3.2
その他	女性は感情的になりやすい	38.4	39.0	38.2	0.8
	男性は人前で泣くべきではない	39.0	39.4	39.0	0.4
	女性には女性らしい感性があるものだ	35.1	33.2	35.6	-2.4

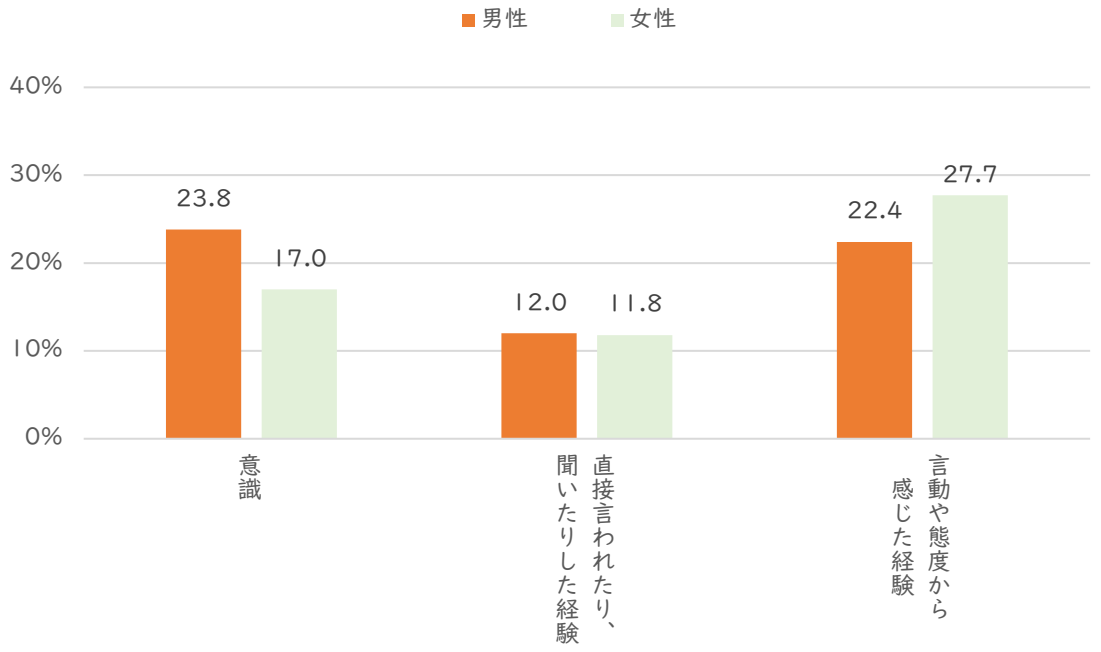
回答者数：N887　男性241　女性638

2-4 性別役割意識と経験の男女差比較

性別役割意識と、性別に基づく役割や思い込みを「直接言われたり、聞いたりした経験」、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」の回答率について、平均値を男女別に算出し比較した。

性別役割「意識」は男性が女性を 6.8 ポイント上回った一方、「直接ではないが、言動や態度からそのように感じた経験」は女性が男性よりも 5.3 ポイント高くなっている。市全体では差がみられた「直接言われたり、聞いたりした経験」は、学生ではほぼ差がみられなかった。

図 2-4
性別役割と経験の男女差比較



※意識
性別役割に関する 27 項目について、各項目「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率の平均（%）を男女別に算出した。

※直接言われたり、聞いたりした経験
性別に基づく役割や思い込みについて「直接言われたり、聞いたりしたことがある」の回答率の 27 項目平均（%）を男女別に算出した。

※言動や態度から感じた経験
性別に基づく役割や思い込みについて「直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある」の回答率の 27 項目平均（%）を男女別に算出した。

2-5 性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード・アクション

2-5-1 エピソード

「性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード（本市で概ね５年以内に経験したもの）（エピソード）」を募集した。

(1)回収結果

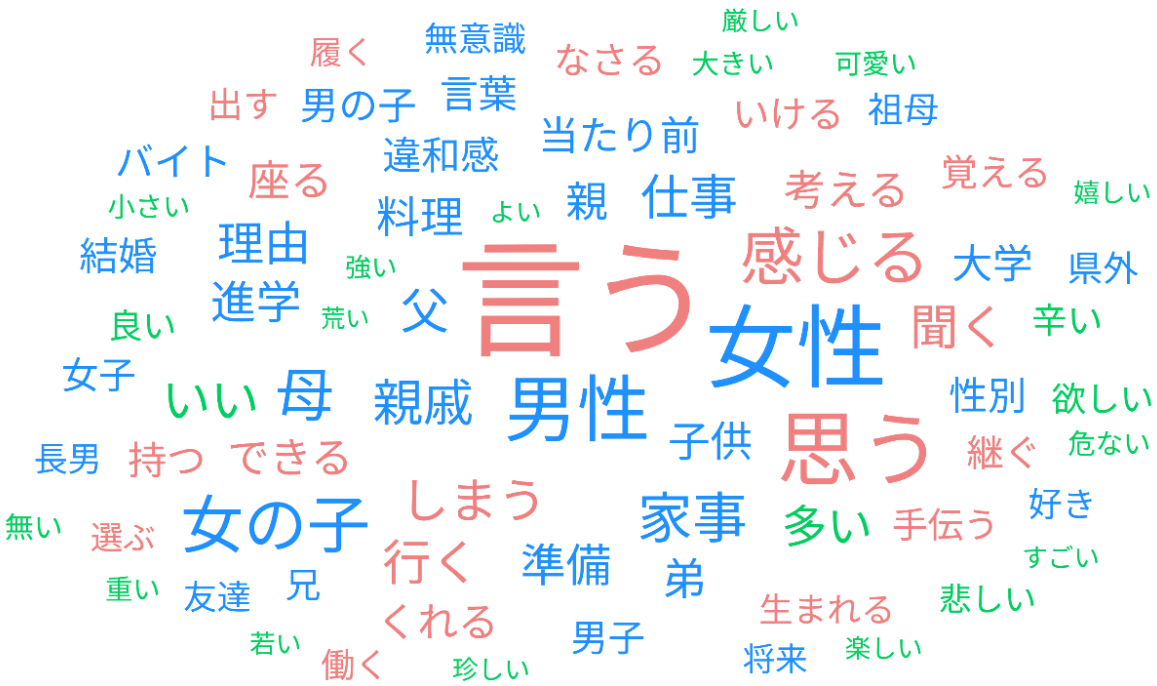
N	210 件
男性	47 件
女性	162 件
答えない	1 件

(2) 全体像・出現回数

集まったエピソードについて、全体的な傾向を把握するため、ユーザーローカルテキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）のワードクラウド機能を用い、単語の出現頻度を文字の大きさにより可視化した。

「女性」「男性」「女の子」「男の子」といった性別を示す語に加え、「母」「家事」「父」「仕事」「進学」「結婚」など、家庭や進路選択、将来のあり方に関わる語が多く確認された。このことから、家庭内での役割分担や進路選択に関する場面がエピソードとして多く挙げられている傾向がうかがえる。

図（画像）2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数（全体）



出現頻度を文字の大きさにより可視化した図。
単語の色は品詞の種類で異なり、青が名詞、赤が動詞、緑が形容詞。

表 2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数
（名詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
女性	80	進学	18	結婚	14	兄	11
男性	54	準備	18	性別	13	長男	10
女の子	42	料理	17	男の子	13	無意識	10
母	34	弟	17	言葉	13	友達	10
家事	29	親	16	バイト	13	好き	10
親戚	23	子供	16	男子	12	将来	9
父	21	当たり前	15	女子	12	集まり	8
仕事	21	大学	15	県外	11	スカート	8
理由	19	違和感	14	祖母	11	服	8

表 2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数
（動詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
言う	106	考える	13	いける	10	もらう	7
思う	55	できる	13	手伝う	9	作る	7
感じる	33	くれる	12	出す	9	いく	7
しまう	17	持つ	11	生まれる	8	買う	7
聞く	16	継ぐ	10	働く	8	集まる	6
行く	16	なさる	10	履く	7	立つ	6
座る	13	覚える	10	選ぶ	7		

表 2-5-1-(2)
エピソードにおける出現回数
（形容詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
いい	16	重い	4	嬉しい	3	悔しい	2
多い	15	小さい	4	楽しい	3	かっこいい	2
辛い	9	大きい	4	すごい	3	高い	2
欲しい	8	可愛い	4	よい	3	悪い	2
良い	8	珍しい	3	荒い	2	かわいい	2
悲しい	7	厳しい	3	重たい	2		
無い	5	若い	3	しやすい	2		
危ない	4	強い	3	古い	2		

(3) 主な内容(抜粋)

19 歳	女性	私だって、貴方のこども
私は長女で、下に弟がいるのですが家名や家、畑や田んぼを継ぐのは、弟の長男の役目だとばかり考えて生きてきました。父や周りの人からも男が継ぐのが当たり前だという雰囲気があります。でも、私は田んぼを手伝うことが大好きです。畑もお野菜を育てることも、本当は大好きです。最近、長男が継ぐ気が無いらしいことを知りました。父は、残念がっています。私だって、父の後を継ぎたい。最初から眼中にもないことが悔しい。		
18 歳	女性	育児をする男性は「偉い」?
私の父は家事や育児を楽しんでやっている人です。生まれた時からそれをみていた私はそこに違和感を覚えることはありませんでしたが、母方の実家で親戚の集まりがあると、毎回のように、父が祖父やお婿さん方から、「偉いね」と言われています。幼い頃はその言葉の意味がわからなかったけど、男性は家事ではなく仕事をする人、という無意識の思い込みがあるということが、今ならわかります。		
18 歳	女性	昔の価値観
父が考え方が古い人で、両親共働きなのに自分は仕事を長時間しているから家庭のことは全て母がするべきだと思っていて、母も言いなりになっています。さらには、PTA 会長等の学校の仕事を母が務めると、家のことがあやふやになるならするな、それで家のことはできるのか、という発言を父はします。 私と妹は、毎度その態度と言葉に腹が立ち、とても悲しくなります。		
20 歳	女性	看病は何故母親なのか
私が小学生や中学生の頃に体調を崩して学校を休んだ時、看病してくれるのは必ず母でした。両親ともに働いていますが、休むのは必ず母でした。それは私の弟や妹の時も同じです。母だけが申し訳なさそうに会社に電話して休みの連絡をしているのを聞きました。 看病するのは母だという思い込みがあり、今までは疑問に思っていませんでしたが、疑問に思った今は何故母なのだろうと思います。父でも母と同じように病院に連れていったり、定期的に病人を確認することはできるのに、と思いました。		
20 歳	女性	さす九
親戚の集まりで女性が動くのが当たり前でした。流石九州男児という意味の「さす九」というワードを知ってから時代遅れなことだったと気づきました。		
20 歳	男性	夫婦間の苗字について
私の周りで結婚されている方は、皆が夫の姓を名乗っている。私は小さい頃からそのことに違和感があり、法律で決められているのかと考えたこともある。しかし、法律は関係がなく、なぜか皆夫の姓を名乗っているので不思議に思っている。		

18 歳	男性	家族と労働
私は、休日にダラダラしてたら男なんだから将来は家族を養わないとと言われたことがあります。男はやはりたくさん働いていくべきなのだと思ってしまいました。		
19 歳	女性	「性別よりも、私の力を見て」
職場で新しい機器の操作を任された際、「こういうのは男性の方が得意でしょ」と同僚に言われたことがあります。悪気はなかったようですが、自分の努力や能力が性別で判断されたように感じ、悔しさと違和感を覚えました。この経験を通じて、無意識の思い込みが人の可能性を狭めてしまうことに気付き、言葉の重みを再認識しました。		
19 歳	男性	男女の職場適性
飲食店でバイトをする際、君は男だからまず洗浄から覚えようと言われ同じタイミングで入ってきた女性はデザートの担当にまわされていたこと。		
19 歳	女性	性別よりもその人自身を見てほしい
ある保育現場で、力仕事や大きな声が必要な場面になると、「男の先生にお願いしよう」と言われることがありました。 もちろん体力的に得意な人が担当するのは自然なことですが、「男だから」「女だから」という理由だけで役割を決められてしまうと、個々の得意不得意や意欲が見過ごされてしまうと感じました。性別に関係なく、自分の強みを活かして保育に関われる環境が理想だと強く思いました。		
18 歳	女性	性別の固定観念
私がアルバイトで届いた荷物を運んでいると、2 箱持てなかったことに男性上司が「まー女の子だもんね」と言われたこと。 自分が非力なのを性別で理由付けされたことが、少し違和感があった。		
20 歳	男性	会社説明会
会社説明会の時に男性が女性に比べて育児休暇が取れないとおっしゃっていた。		
19 歳	男性	親戚の状況
共働きの親戚に子供が産まれていたのですが、男性が育児休暇を取るのに苦労しているのを見てまだ格差があるんだなぁと感じた。		
18 歳	女性	性別の偏見
バイト中、男の人と女の人が来店して、生ビールとウーロン茶を頼まれて提供した際、勝手に男の人に生ビールを、女の人にウーロン茶を渡してしまったことがある。本当は女の人が生ビールで、男の人がウーロン茶であったため、性別で判断してしまったと反省した。		

19 歳	女性	母の女性のイメージ
女の子は理系より文系で充分だと言われ、文系選択をして、理系選択をすれば良かったと思っている。 女の子は結婚して子供が生まれると仕事を辞めるから子供が大きくなって再就職しやすい職種を選んだ方がいいといった文言を母に言われた。私は子供が欲しい訳でもないし、どちらかと言うと仕事をしておきたい。		
19 歳	女性	恋人に対する解釈の違い
彼氏に奢ってもらうことは相手のプライドを尊重して相手を立てることだと友達が話していました。対等な関係でいたいから自分でもお金を出したいのになと感じました。		
19 歳	女性	優しさの裏にある思い込み
地元の地域活動にボランティアとして参加した際のことです。あるイベントの準備で、テントの設営や機材運びなどの力仕事が必要になったとき、スタッフの方から「女性だから無理しなくていいよ」「座って見てて」と言われました。私は普段から体力にも自信があり、自分も同じチームの一員として動きたかったので、その言葉に少し戸惑った。		
20 歳	男性	男も日傘をさす
女性は日傘をさすのが別に普通であるが、男性が日傘をさすと少し変な目で見られる。最近では、紫外線や日焼けによるトラブルをケアするために普通になってきてはいるが、まだ偏見があると思う。		
18 歳	男性	親の固定観念と進学
自分は男だと言う理由で高校卒業後進学することをすんなり認めてもらえたが、姉は進学をすることを認めてもらうのが大変そうだったこと。		

2-5-2 アクション

「性別による無意識の思い込みを解消していくために取り組んでいるアクション（アクション）」を募集した。

(1) 回収結果

N	161 件
男性	30 件
女性	129 件
答えない	2 件

(2) 全体像・出現回数

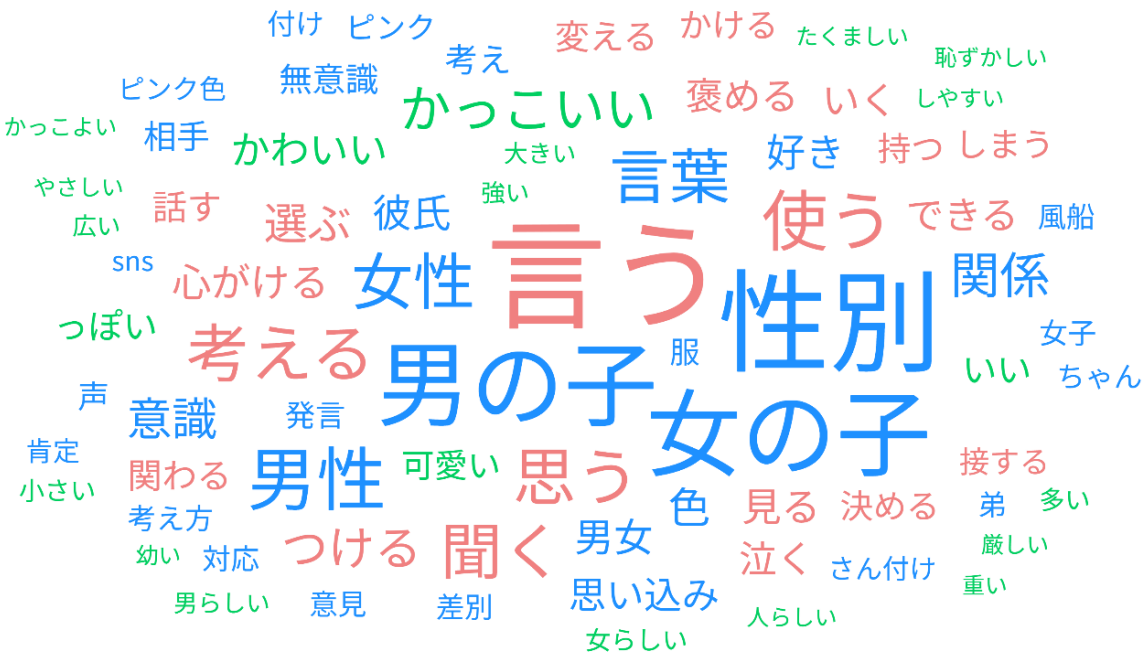
集まったアクションについて、全体的な傾向を把握するため、ユーザーローカルテキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/）のワードクラウド機能を用い、単語の出現頻度を文字の大きさにより可視化した。

市全体の傾向と同様に、「言う」「言葉」「聞く」「発言」など、日常的な言動や会話に関する語が多く見られた。

これらの語の出現から、学生による無意識の思い込み解消に向けた取り組みは、特別な行為というよりも、言葉遣いや相手との関わり方を見直すといった、日常生活の中での行為として挙げられることがうかがえる。

また、「色」「服」「ピンク」「かわいい」「かっこいい」などの語も確認され、外見や表現に関する場面において、性別で限定しない関わり方を意識した記述が一定数見られた。

図（画像）2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数



出現頻度を文字の大きさにより可視化した図。
単語の色は品詞の種類で異なり、青が名詞、赤が動詞、緑が形容詞。

表 2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数
（名詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
性別	48	無意識	8	女子	5	青	4
女の子	40	考え	8	対応	5	注意	4
男の子	39	相手	8	ちゃん	5	他人	4
男性	27	声	7	SNS	4	プリキュア	4
女性	23	ピンク	6	さん付け	4	男子	4
言葉	22	発言	6	ピンク色	4	行動	4
関係	17	服	6	肯定	4	妹	4
意識	14	風船	5	保育園	4	会話	4
色	13	差別	5	概念	4	機会	4
男女	11	考え方	5	○○	4	本	4
彼氏	11	付け	5	場面	4	友達	4
好き	11	意見	5	恋人	4		
思い込み	10	弟	5	認識	4		

表 2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数
（動詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
言う	42	見る	9	決める	6	付き合う	5
使う	20	褒める	8	かける	6	呼ぶ	5
考える	19	泣く	8	持つ	6	履く	4
思う	19	いく	8	しまう	6	気づく	4
聞く	18	できる	8	接する	5	作る	4
つける	12	関わる	7	無くす	5	知る	4
選ぶ	11	変える	7	分ける	5		
心がける	9	話す	7	渡す	5		

表 2-5-2-(2)
アクションにおける出現回数
（形容詞）

単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数	単語	出現回数
かっこいい	14	男らしい	2	しやすい	1	高い	1
かわいい	9	広い	2	厳しい	1	すごい	1
っぽい	7	大きい	2	重い	1	欲しい	1
いい	7	強い	2	恥ずかしい	1	よい	1
可愛い	6	人らしい	1	かっこよい	1	良い	1
女らしい	3	たくましい	1	上手い	1		
小さい	3	幼い	1	優しい	1		
多い	3	やさしい	1	難しい	1		

（3）主な内容（抜粋）

19 歳	男性	男なのに料理が得意、などで褒めるのではなく、その人自身が料理が得意なことを褒めるなど、「なのに」という認識を意識的に無くすことをしている。
18 歳	女性	幼い妹弟が保育園の帰りに「車の服は男の子が着る物だよ。」、「ピンクは女の子の色だから恥ずかしい。」と言っていました。その出来事以降、保育園に迎えにいくときは、車や恐竜など男の子が好きなものとして認識されているものがプリントされている服を着ていくようにしていました。また、男性の友人も協力してくれてピンクの服を着て保育園の迎えについてきてくれました。
19 歳	女性	保育の中で子どもたちに声をかけるときは、「男の子だからたくましいね」「女の子だからやさしいね」などの性別に結びつけた言い方を避けるように意識しています。 代わりに、「よく考えてたね」「友だちの気持ちに気づけたね」「ていねいに作ってたね」など、その子自身の行動や気持ちに注目して声をかけるようにしています。 どの子も、自分らしさを大切にできるような関わりを意識していきたいと思っています。
19 歳	答えない	男の子と女の子で言うことを変えない。 例えば、泣いている時に、「男の子だから泣かないの」という場面を見たことがあり、女の子では「もう泣かなくていいよ」などと言っている場面を見た事があるので男の子にも「もう泣かなくていいよ」などと言葉をかけたい。
20 歳	女性	幼稚園や保育園の実習を経験してきました。園生活では男の子と女の子で分かれる場面が多く、スモックの色や並び順などどうしていくべきなのかを考えるようになりました。ですが、女の子だから可愛い、男の子だからかっこいいではなく、きちんと話を聞けたらかっこいい、作品ができたら素敵だねなど伝え方の工夫をしました。
18 歳	女性	家族が男なのに女なのに、というようなことを言っていると似合っていてすごいよね、好きに表現出来ていていいよね、というように優しく価値観を変えられたらいいと思いながら回答している。

20 歳	女性	男性に対しても女性に対しても「かっこいい」、「かわいい」などをフラットに使い、他にも「素敵だね」などの性別によるイメージのないワードも使うようにしている。
18 歳	女性	友人への誕生日プレゼントを選ぶ時、性別イメージの物ではなく本人の趣味や好みを考慮して選ぶようにしている。
19 歳	男性	そもそもどのような思い込みなどがあるのかを知るため、性別やジェンダーの問題に関するニュース、記事、SNS 等を頻繁にみている。なるべく客観的に見ることができるように複数の情報を見るようにしている。
19 歳	女性	男の子の友達でメイクや髪を伸ばすこと、かわいい服に興味のある子がおり、そのような子に対して否定的な感情は私自身全く持たないため、メイク上手いね！や、服かわいいーなど、女子同士の会話のように自然に会話をしていた。
19 歳	女性	多様な意見を尊重する場づくり　職場や地域の会議などで、誰もが発言しやすい雰囲気をつくるよう心がけ、役割分担も性別に関係なく公平になるよう配慮しています。

2-6 男女平等意識

本市と東京都、福岡市における男女の地位のイメージについて、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」の５段階の尺度でたずねた。

2-6-1 全体

『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）の割合は、本市 52.6%、福岡市 28.8%、東京都 31.2%で、本市が他の地域を少なくとも 21.4 ポイント上回っている。

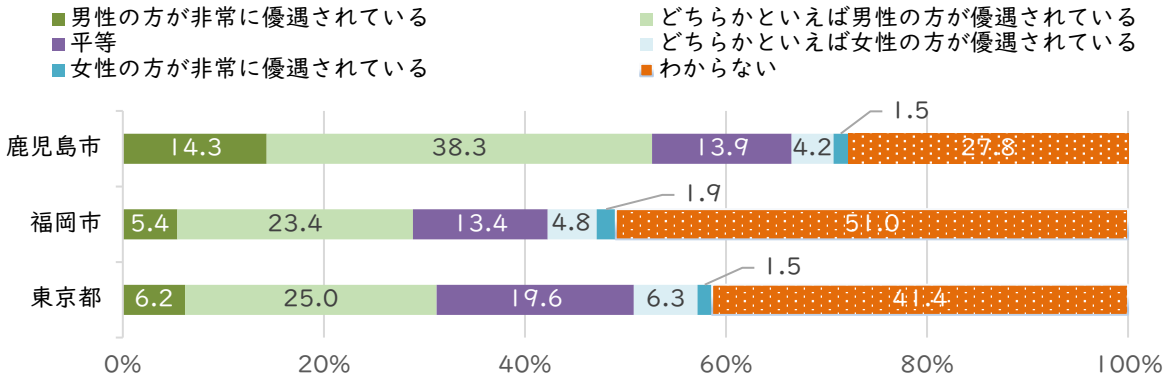
また、本市における『男性優遇』と『女性優遇』(「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）の割合を比較すると、『男性優遇』が『女性優遇』よりも 46.9 ポイント高い。

『女性優遇』の割合は、本市 5.7%、福岡市 6.7%、東京都 7.8%で、全地域１割に満たなかった。

さらに、「平等」と答えた人は、本市 13.9%、福岡市 13.4%、東京都が 19.6%で、東京都が最も「平等」と感じている人が多くなっている。

図.表 2-6-1 男女平等意識

（全体）



（N＝887）

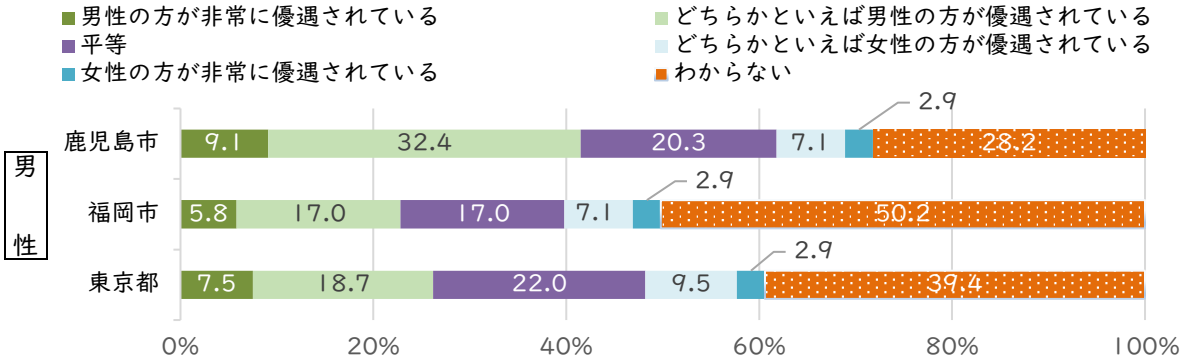
	鹿児島市	福岡市	東京都
男性の方が非常に優遇されている	14.3	5.4	6.2
どちらかといえば男性の方が優遇されている	38.3	23.4	25.0
平等	13.9	13.4	19.6
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.2	4.8	6.3
女性の方が非常に優遇されている	1.5	1.9	1.5
わからない	27.8	51.0	41.4

2-6-2 男女別

本市の『男性優遇』（男性 41.5%、女性 56.8%）は、女性が男性より 15.3 ポイント高く、女性の方が「男性の方が優遇されている」との意識を持っていることが示唆される。一方、『女性優遇』（男性 10.0%、女性 4.0%）は、男性が女性を 6 ポイント上回り、男女とも自分と異なる性別が優遇されていると感じやすい傾向がみられた。

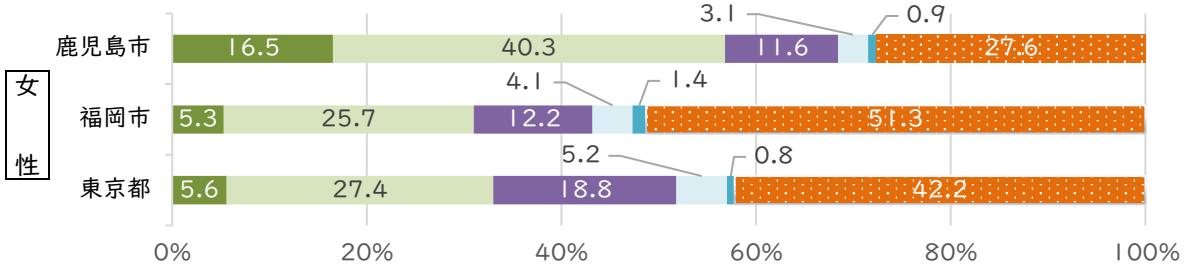
図.表 2-6-2 男女平等意識

（男女別）



（N＝241）

	鹿児島市	福岡市	東京都
男性の方が非常に優遇されている	9.1	5.8	7.5
どちらかといえば男性の方が優遇されている	32.4	17.0	18.7
平等	20.3	17.0	22.0
どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.1	7.1	9.5
女性の方が非常に優遇されている	2.9	2.9	2.9
わからない	28.2	50.2	39.4



（N＝638）

	鹿児島市	福岡市	東京都
男性の方が非常に優遇されている	16.5	5.3	5.6
どちらかといえば男性の方が優遇されている	40.3	25.7	27.4
平等	11.6	12.2	18.8
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.1	4.1	5.2
女性の方が非常に優遇されている	0.9	1.4	0.8
わからない	27.6	51.3	42.2

2-7 本市への定住意向

卒業後、本市へ定住したいかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の４段階の尺度でたずねた。

2-7-1 全体･男女別

全体でみると、「そう思う」（31.8%）が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」（31.6%）、「どちらかといえばそう思わない」（19.6%）、「そう思わない」（17.0%）となっている。

男女別でみると、『思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は、男性65.5%、女性 62.6%で、男性の方が 2.9 ポイント高くなっている。

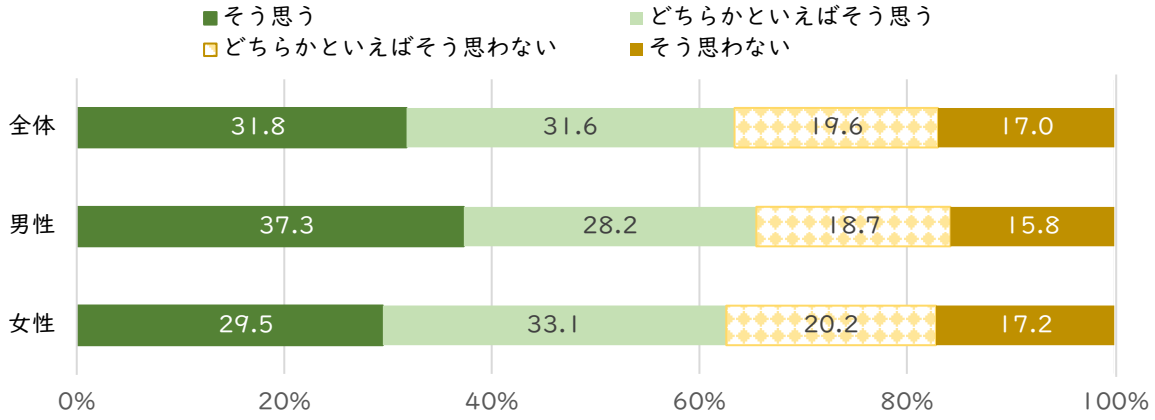
対して、『そう思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」）は、男性 34.5%、女性 37.4%で、女性が男性を 2.9 ポイント上回り、女性の方が本市への定住意向を持つ割合がやや低い。

表 2-7-1 本市への定住意向
（全体・男女別）

卒業後、本市に定住したいですか	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
そう思う	31.8	37.3	29.5	7.8
どちらかといえばそう思う	31.6	28.2	33.1	-4.9
どちらかといえばそう思わない	19.6	18.7	20.2	-1.5
そう思わない	17.0	15.8	17.2	-1.4

回答者数：N887　男性241　女性638

図 2-7-1 本市への定住意向
（全体・男女別）

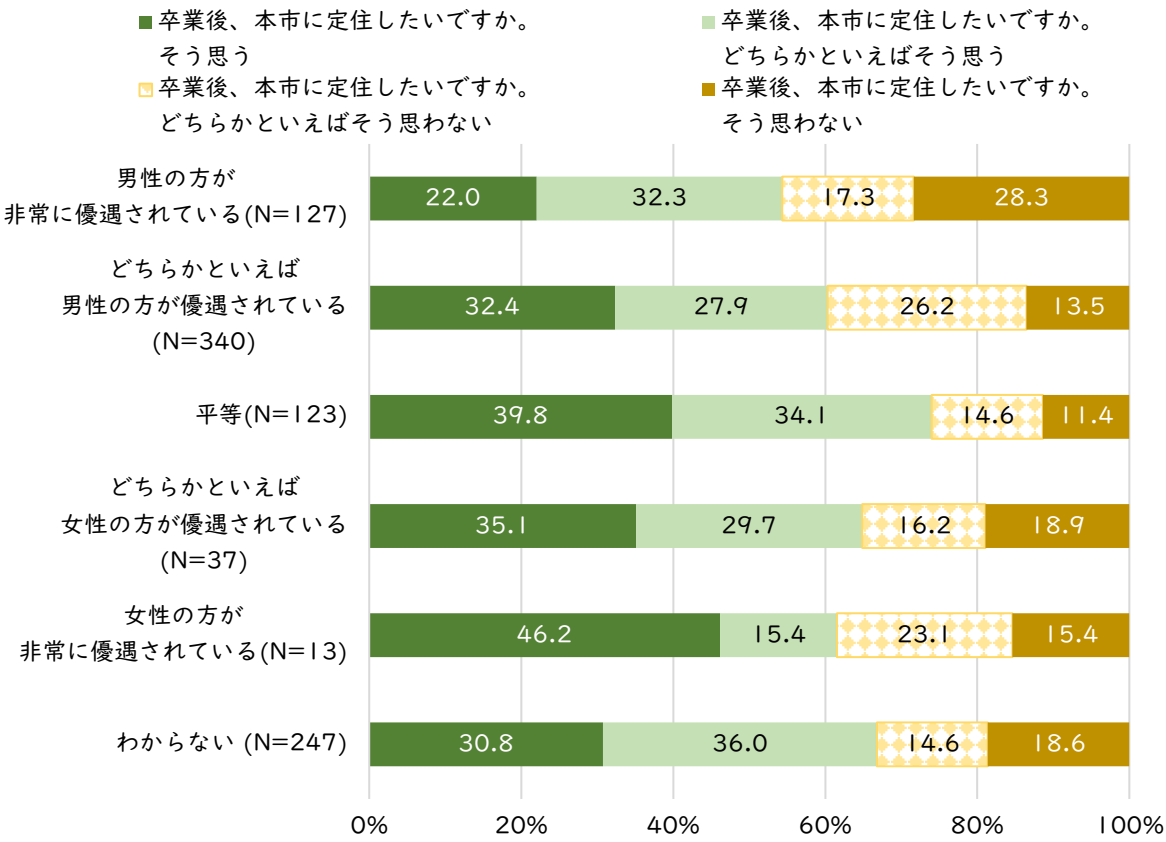


2-7-2 本市の男女平等意識別

本市の男女平等意識の違いによって、本市への定住意向にどのような傾向がみられるか把握するため、本市の男女平等意識別に本市への定住意向を分析した。

本市における男女の地位を「平等」と答えた人について、本市への定住意向を比較すると「卒業後、本市に定住したいと思う」(39.8%)が最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(34.1%)、「どちらかといえばそう思わない」(14.6%)、「そう思わない」(11.4%)となり、本市の男女の地位が平等だと感じている人は、定住を希望する傾向がうかがえる。

図.表 2-7-2
本市への定住意向(本市の男女平等意識別)



	男性の方が非常に優遇されている(N=127)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(N=340)	平等(N=123)	どちらかといえば女性の方が優遇されている(N=37)	女性の方が非常に優遇されている(N=13)	わからない(N=247)
■卒業後、本市に定住したいですか。そう思う	22.0	32.4	39.8	35.1	46.2	30.8
■卒業後、本市に定住したいですか。どちらかといえばそう思う	32.3	27.9	34.1	29.7	15.4	36.0
■卒業後、本市に定住したいですか。どちらかといえばそう思わない	17.3	26.2	14.6	16.2	23.1	14.6
■卒業後、本市に定住したいですか。そう思わない	28.3	13.5	11.4	18.9	15.4	18.6

2-7-3 本市における性別による偏った思い込みによる影響

本市における性別による偏った思い込みが、本市への定住意向にどのように影響を与えているか把握するため、卒業後、本市に「どちらかといえば定住したくない」「定住したくない」と回答した人に対して、定住意向と本市における性別による偏った思い込みの関連性をたずねた。

全体でみると、「まったく影響を与えていない」（44.0%）が最も高く、次いで「あまり影響を与えていない」（28.0%）、「やや影響を与えている」（23.1%）、「非常に影響を与えている」（4.9%）となっている。

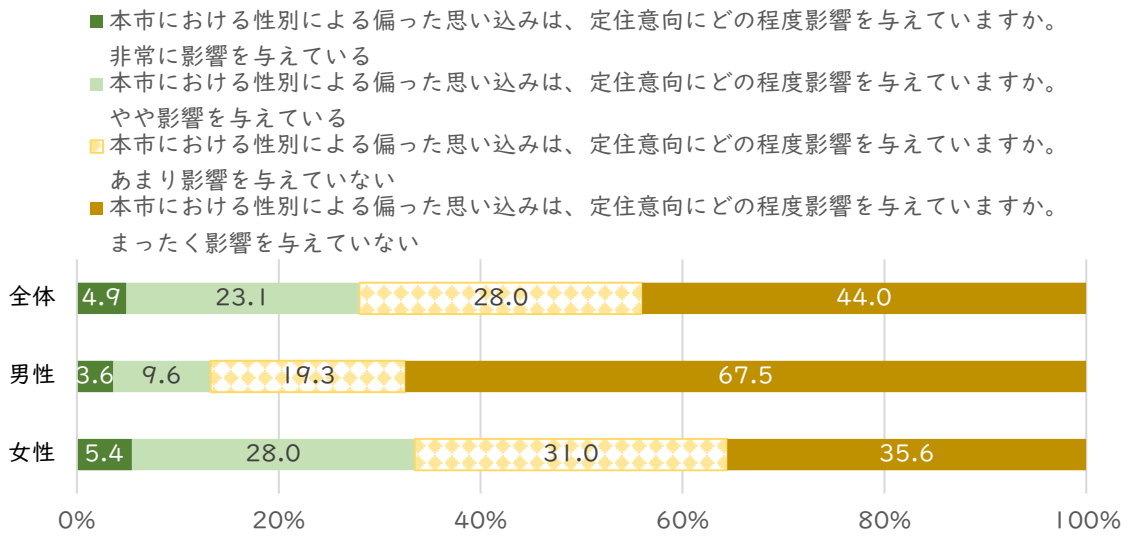
男女別でみると、「まったく影響を与えていない」（男性 67.5%、女性 35.6%）は、男性が 31.9 ポイント上回り、『影響を与えている』（「非常に影響を与えている」＋「やや影響を与えている」）（男性 13.2%、女性 33.4%）は、女性の方が 20.2 ポイント高く、本市における性別による偏った思い込みは、男性よりも女性の定住意向に影響を及ぼしている傾向がみられた。

表 2-7-3
本市における性別による偏った思い込みが定住意向に与える影響
（本市への定住意向『そう思わない』）

本市における性別による偏った思い込みは、定住意向にどの程度影響を与えていますか	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
非常に影響を与えている	4.9	3.6	5.4	-1.8
やや影響を与えている	23.1	9.6	28.0	-18.4
あまり影響を与えていない	28.0	19.3	31.0	-11.7
まったく影響を与えていない	44.0	67.5	35.6	31.9

回答者数：N325　男性83　女性239

図 2-7-3
本市における性別による偏った思い込みが定住意向に与える影響
（本市への定住意向『そう思わない』）



2-8 本市に定住すると仮定した場合の不安･懸念点

本市に定住すると仮定した場合に、どのような不安や懸念点があるかをたずねた。

2-8-1 全体･男女別

全体でみると、「公共交通機関が不便なこと」（41.9%）が最も高く、次いで「レジャー・娯楽施設が少ないこと」（39.6%）、「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」（32.9%）となっている。

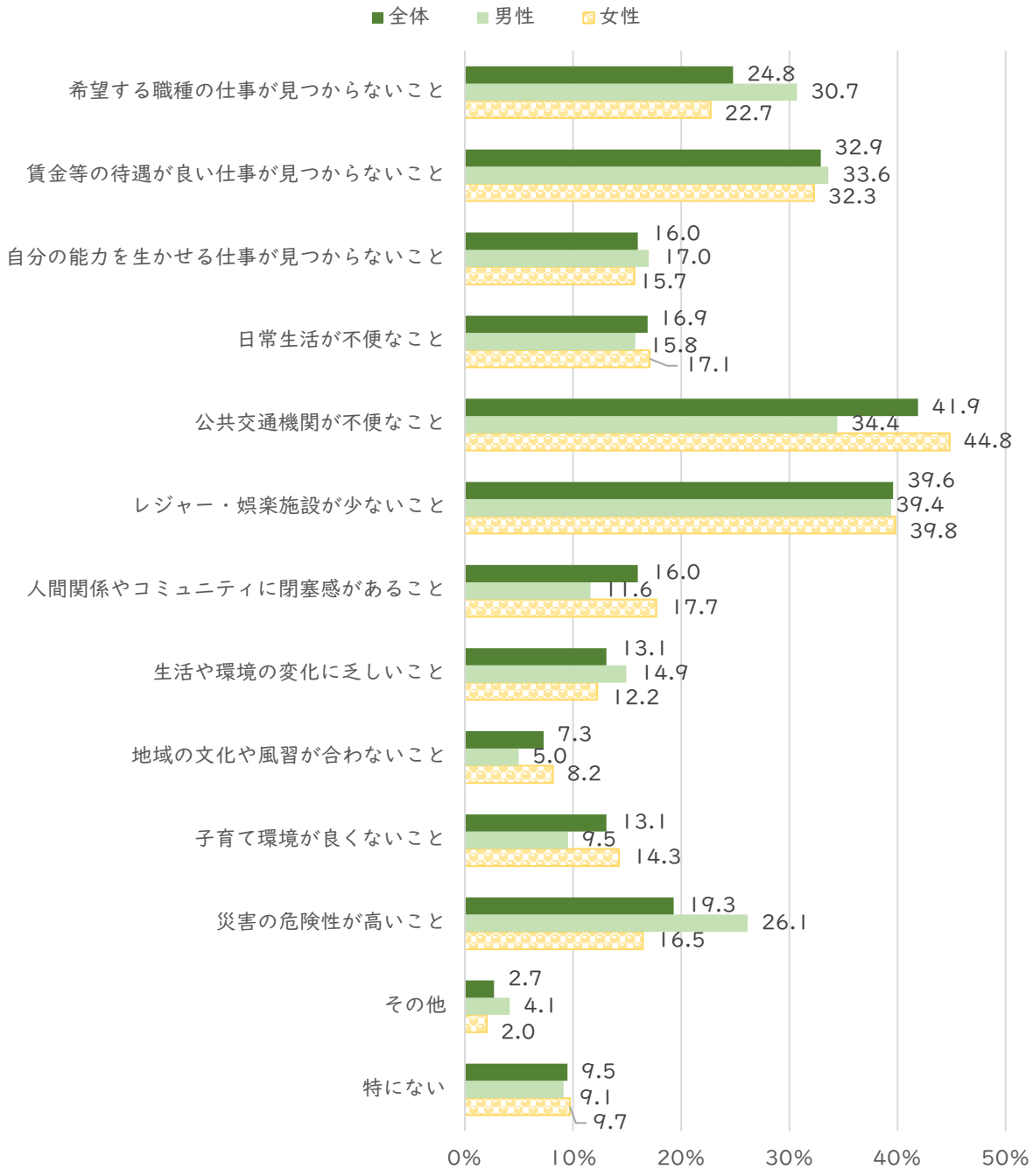
男女別でみると、上位３位は男女とも全体と同じ項目となっている。男女間で最も大きな差が出たのは、「公共交通機関が不便なこと」（男性 34.4%、女性 44.8%）で、女性の方が 10.4 ポイント高い。次いで「災害の危険性が高いこと」（男性 26.1%、女性 16.5%）は、男性の方が 9.7 ポイント高くなっている。

表 2-8-1 本市に定住すると仮定した場合の不安・懸念点
（全体・男女別）

本市に定住すると仮定した場合の不安や懸念点	N（%）	男性（%）	女性（%）	男性-女性（%）
希望する職種の仕事が見つからないこと	24.8	30.7	22.7	8.0
賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと	32.9	33.6	32.3	1.3
自分の能力を生かせる仕事が見つからないこと	16.0	17.0	15.7	1.3
日常生活が不便なこと	16.9	15.8	17.1	-1.3
公共交通機関が不便なこと	41.9	34.4	44.8	-10.4
レジャー・娯楽施設が少ないこと	39.6	39.4	39.8	-0.4
人間関係やコミュニティに閉塞感があること	16.0	11.6	17.7	-6.1
生活や環境の変化に乏しいこと	13.1	14.9	12.2	2.7
地域の文化や風習が合わないこと	7.3	5.0	8.2	-3.2
子育て環境が良くないこと	13.1	9.5	14.3	-4.7
災害の危険性が高いこと	19.3	26.1	16.5	9.7
その他	2.7	4.1	2.0	2.1
特にない	9.5	9.1	9.7	-0.6

回答者数：N887　男性241　女性638

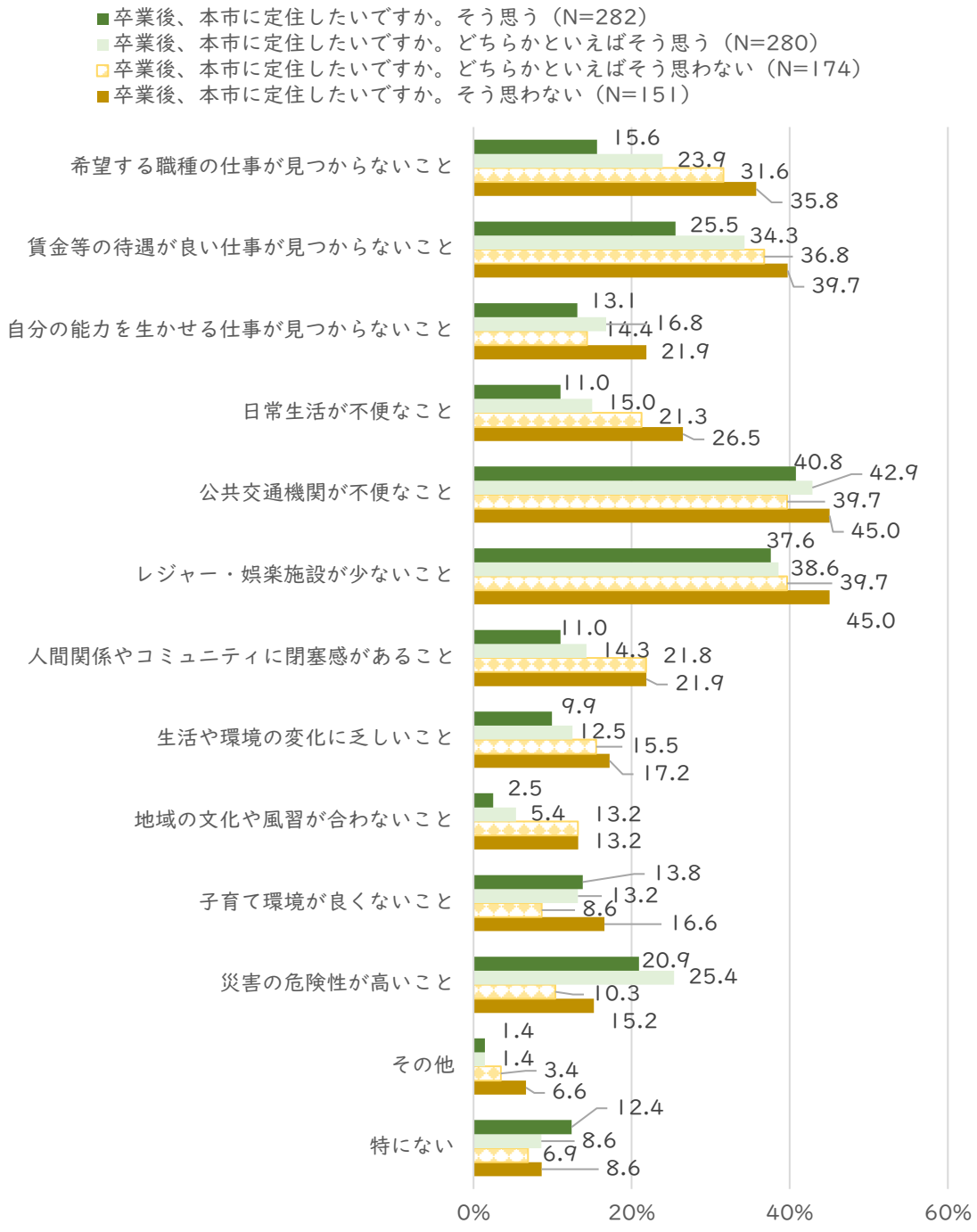
図 2-8-1 本市に定住すると仮定した場合の不安・懸念点
（全体・男女別）



2-8-2 本市への定住意向別

本市への定住意向別にみると、「希望する職種の仕事が見つからないこと」「賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと」「日常生活が不便なこと」「レジャー・娯楽施設が少ないこと」「人間関係やコミュニティに閉塞感があること」「生活や環境の変化に乏しいこと」「地域の文化や風習が合わないこと」は、本市への定住意向が低い人ほど懸念する傾向がみられた。

図 2-8-2 本市に定住すると仮定した場合の不安・懸念点
（本市への定住意向別）



2-9 本市の男女共同参画に関する自由意見(抜粋)

本市の学ぶ場や働く環境、地域社会における男女共同参画について、日頃感じることを自由記述で募集した。

18 歳	女性	鹿児島は男性優遇だなと感じることがよくある。管理職に男性が多いなど、そもそも男性優遇という思想の人が多い。
19 歳	女性	地域の行事や子育ての場面では、女性が中心になっていることが多く、「男性は仕事、女性は家庭」という考えがまだ残っていると感じます。誰もが性別に関係なく、地域に関わりやすい雰囲気が広がるといいなと思います。
20 歳	男性	いまだに、女性の管理職は少ないように感じる。
19 歳	女性	女性だからといって子育てと仕事の両立を求められるのは苦しいと感じる人は多いと思う。 また、シングルマザー・シングルファザー世帯への学業支援をもっと充実させて欲しい。学費が理由で夢を諦める事はあってはいけないが、まだまだ多いのが現状である。
18 歳	女性	鹿児島は亭主関白な男性が多いことをよく感じる。
18 歳	女性	学校で、男女共同参画についてたくさん学ぶ機会があるが、若い世代の人よりも、年齢を重ねている方のほうが、男女共同参画について理解がないと思う。
20 歳	女性	鹿児島県はとても閉鎖的な人間関係であるかつ、昔からの固定概念にとらわれている年配層が多いように感じる。
20 歳	女性	企業説明会に行ってみて、ほとんどの企業が女性が学生にプリントを配ったり、設営をしたり積極的に動いていた。動くのは男性でも女性でもどちらでも良いのに女性が動こうとして、それに甘えている。
18 歳	男性	男女共同参画といって、女性だけが待遇されていて、女性尊重＝男女共同参画と考えられている。男女で判断せず、何を求めている集団なのかで、判断して政策をしてほしい。
19 歳	女性	そもそも鹿児島は男尊女卑の考えを持つ男性が多すぎる。男性の亭主関白が多すぎる。男性の男らしさのようなものは良いが、それを見せびらかすのは優しさとは言わない。そういったような考えが浅く、自分に酔っている男性が多い印象を受ける。(バイトで感じたこと)
20 歳	女性	企業内部での女性への扱いは改善されてきたように思うが、顧客から見た時に男性の方がよいと言われる場面を何度も見てきたので、いつ平等に扱われるのかと思う。

19 歳	女性	鹿児島市では、まだ、男性の方が女性より偉い、という印象が残っている気がします。
20 歳	男性	重要な役割のものに無理に女性枠を設けるのではなく男女関係なく実力で決めるべきだと常々思う。女性枠を設けること自体が差別になり得ることも考えるべきだと思う。
19 歳	女性	「さす九」という言葉が生まれるほど男尊女卑の考えが根強い鹿児島では、自分が偉いと思っている男性が多く、就職した女友達の職場では、働く女性が気に入らないのか、「親がそんなだから子供もあぁなるんだ」と本人にしか聞こえない声で女性にだけ小言を言う人がいる。
19 歳	女性	鹿児島市では男女共同参画の意識が少しずつ広がっていると感じますが、地域行事や PTA などでは、依然として「女性がやるべき」とされる役割分担が残っている場面もあります。働く環境でも、育児や介護への理解が職場によって差があり、男性の育休取得などはまだハードルが高いと感じます。性別に関係なく誰もが学び、働き、地域に関われるよう、意識と制度の両面からの変化が求められていると感じます。
19 歳	女性	鹿児島市では、女性の社会進出が進みつつある一方で、まだまだ課題があると感じています。例えば、女性が家庭や育児と両立しながら働くことが難しい職場も少なくなく、出産や子育てを機にキャリアを中断する人も多い印象です。
19 歳	女性	鹿児島市では、女性の社会進出や多様な働き方の推進が進んでいると感じる一方で、地域や職場の中には今なお「男性は仕事、女性は家庭」といった意識が根強く残っている場面もあります。子育てや介護との両立支援がより一層進めば、性別に関係なく誰もが活躍しやすい環境になると感じています。
18 歳	男性	次第に女性議員も増えつつあるが、いまだに男性議員の方が多い傾向にある。

3 設問一覧

番号	設問	回答肢
Q1	あなたの戸籍上の性別はどちらですか。	・男性 ・女性 ・答えない
Q2	あなたの年齢（満年齢）を教えてください。	
Q3	あなたの通っている学校はどちらですか。	・短期大学 ・大学・大学院
Q4	あなたの出身はどちらですか。	・鹿児島市内 ・鹿児島県内（鹿児島市外） ・鹿児島県外
Q5	あなたの専攻は何ですか。	・文系 ・理系 ・医系 ・その他
Q6	次にあげる文章について、どのように思いますか。 【家庭・コミュニティでの場面】 ・男性は結婚して家庭をもって一人前だ ・共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ ・親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ ・家を継ぐのは男性であるべきだ ・共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ ・結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ ・家事・育児は女性がするべきだ ・実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ ・男性は仕事をして家計を支えるべきだ ・男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ ・PTA には、女性が参加するべきだ ・デートや食事のお金は男性が負担す	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない

	べきだ	
Q7	次にあげる文章について、どのように思いますか。 【職場での場面　※働いていない方は、働いていると仮定して回答してください】 ・組織のリーダーは男性の方が向いている ・受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ ・育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない ・仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い ・女性の上司には抵抗がある ・男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ ・男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない ・営業職は男性の仕事だ ・転勤は男性がするものだ ・同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ ・女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない ・大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない
Q8	次にあげる文章について、どのように思いますか。【その他】 ・女性は感情的になりやすい ・男性は人前で泣くべきではない ・女性には女性らしい感性があるものだ	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない
Q9	次にあげる文章について、どのように思いますか。【ご自身について】 ・自分は性別による偏った思い込みはない ・自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない

	・自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた	
Q10	次のようなことを他人から直接言われたり、誰かの言動や態度からそのようなことを聞いたり感じたりしたことはありますか。（それぞれいくつでも） 【家庭・コミュニティでの場面】 ・男性は結婚して家庭をもって一人前だ ・共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ ・親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ ・家を継ぐのは男性であるべきだ ・共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ ・結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ ・家事・育児は女性がするべきだ ・実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ ・男性は仕事をして家計を支えるべきだ ・男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ ・PTA には、女性が参加するべきだ ・デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	・直接（直接言われたり、聞いたりしたことがある） ・間接（直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある） ・メディアによる影響（テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある） ・どれにも該当しない
Q11	次のようなことを他人から直接言われたり、誰かの言動や態度からそのようなことを聞いたり感じたりしたことはありますか。（それぞれいくつでも） 【職場での場面】 ・組織のリーダーは男性の方が向いている ・受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ ・育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない ・仕事より育児を優先する男性は仕事	・直接（直接言われたり、聞いたりしたことがある） ・間接（直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある）

	へのやる気が低い ・女性の上司には抵抗がある ・男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ ・男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない ・営業職は男性の仕事だ ・転勤は男性がするものだ ・同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ ・女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない ・大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	・メディアによる影響（テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある） ・どれにも該当しない
Q12	次のようなことを他人から直接言われたり、誰かの言動や態度からそのようなことを聞いたり感じたりしたことはありますか。（それぞれいくつでも） 【その他】 ・女性は感情的になりやすい ・男性は人前で泣くべきではない ・女性には女性らしい感性があるものだ	・直接（直接言われたり、聞いたりしたことがある） ・間接（直接ではないが、言動や態度からそのように感じたことがある） ・メディアによる影響（テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで見たことがある） ・どれにも該当しない
Q13	性別による無意識の思い込みにまつわるエピソード（本市で概ね５年以内に経験したもの）とその際のご自身の気持ちや感じたことについて教えてください。誰かから受けた言動でも、ご自身の言動に気付いた経験でもどちらでも構いません。	
Q14	Q13 のエピソードにタイトルを付けてください。	
Q15	性別による無意識の思い込みを解消していくために取り組んでいるアクションがあれば教えてください。	
Q16	あなたは、次の地域について、男女の地位は平等になっていると思いますか。（回答はそれぞれ１つ）	・男性の方が非常に優遇されている ・どちらかといえば男性の方が

	1.東京都 2.福岡市 3.鹿児島市	優遇されている ・平等 ・どちらかといえば女性の方が優遇されている ・女性の方が非常に優遇されている ・わからない
Q17	卒業後、鹿児島市に定住したいですか。	・そう思う ・どちらかといえばそう思う ・どちらかといえばそう思わない ・そう思わない
Q18	Q17で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と回答した方におたずねします。鹿児島市における性別による偏った思い込みは、あなたの定住意向（Q17の回答）にどの程度影響を与えていますか。	・非常に影響を与えている ・やや影響を与えている ・あまり影響を与えていない ・まったく影響を与えていない
Q19	あなたが鹿児島市に定住すると仮定した場合、不安や懸念点は何ですか。 （回答はいくつでも）	・希望する職種の仕事が見つからないこと ・賃金等の待遇が良い仕事が見つからないこと ・自分の能力を生かせる仕事が見つからないこと ・日常生活が不便なこと ・公共交通機関が不便なこと ・レジャー・娯楽施設が少ないこと ・人間関係やコミュニティに閉塞感があること ・生活や環境の変化に乏しいこと ・地域の文化や風習が合わないこと ・子育て環境がよくないこと ・災害の危険性が高いこと ・その他 ・特にない
Q20	鹿児島市の学ぶ場や働く環境、地域社会における男女共同参画について、日頃感じることがあれば教えてください。	

4 参考資料
有識者による学術的分析-探索的因子分析・非階層クラスター分析-

本調査で収集した結果について、その背景や構造をより多角的に捉えるため、国立大学法人鹿児島大学法文学部法経社会学科（経済コース）の安藤良祐助教に依頼し、探索的因子分析と非階層クラスター分析を実施した。

次頁以降に示す内容は、調査結果の理解を深めるための一つの視点を提示するものであり、安藤助教の執筆による。

大学生対象のアンコンシャス・バイアスに関するアンケート調査の分析

鹿児島大学
安藤　良祐

✓　はじめに

本分析は株式会社南日本新聞社から依頼を受けた「大学生対象のアンコンシャス・バイアスに関するアンケート調査」の一部質問について、探索的因子分析・非階層クラスター分析にて回答者の傾向分析を行うものである。

✓　実施スケジュール

本調査の実施スケジュールは以下のとおり実施した。

- 調査データの共有　：8/18(月)
- 調査データの分析　：9/1(月)-9/5(金)
- 報告資料の作成　：9/8(月)-9/12(金)
- 南日本新聞社へ納品　：9/16(火)

✓　アンコンシャス・バイアスに関するアンケート調査と分析方法

本調査は、大学生・大学院生を対象に回答者自身のアンコンシャス・バイアスに関する経験や知識を聞くことに加えて、鹿児島市への定住意欲とそれに関するアンコンシャス・バイアスの影響を図るものである。質問事項は多岐に渡るが、本報告書では特に Q6～Q9 にある職場や家庭・コミュニティの場などでのアンコンシャス・バイアスへの意識を問う質問（例えば、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」など）を対象に探索的因子分析を行い、アンコンシャス・バイアスに対する意識要因を検討したうえで、非階層クラスター分析を行う。

これにより回答者をグルーピングし、各クラスターが Q16「あなたは、次の地域について、男女の地位は平等になっていると思いますか（東京都・福岡市・鹿児島市）」、Q17「卒業後、鹿児島市に定住したいですか」、Q18「Q17 で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と回答した方におたずねします。鹿児島市における性別による偏った思い込みは、あなたの定住意向（Ｑ１７の回答）にどの程度影響を与えていますか」でどのような回答傾向があるのか検討し、有効な施策を議論するものである。

✓　探索的因子分析の結果

はじめに本アンケートへの回答者は、887 名であった。男女別では男性 241 名、女性 638 名、その他 8 名、通学先では短大生 288 名、大学・大学院生 599 名、出身地では鹿児島市内 447 名、鹿児島県内（鹿児島市除く）362 名、鹿児島県外 78 名であった。なお、回答者の平均年齢は 19.1 歳（数字入力ミスと思われる 3 件を除く）である。

探索的因子分析では、大学生・大学院生のアンコンシャス・バイアスに対する意識要因にどのようなものがあるのかを分析する。前述したとおり、Q6～Q9 の 30 項目で構成される質問群で因子分析を行った。

なお、これら質問群は 4 点リッカート尺度（1．そう思う、2．どちらかといえばそう思う、3．どちらかといえばそう思わない、4．そう思わない）で回答されている。ただし、分析に際しては質問に対する回答尺度を統一するため、一部逆尺度に変更している。

因子分析に際しては、30 項目に対して最尤法を用いたが、固有値の変化と因子の解釈可能性を考慮して 4 因子構造が適当と考えられた。それゆえ、4 因子を仮定して、再度最尤法・プロマックス回転による因子分析を行った。その中で、十分な因子負荷量や信頼性分析に問題のあった 4 項目(Q6S1、Q8S1、Q8S2、Q8S3)を分析から除外し、残りの 26 項目にて最終的な分析を行っている。結果を表 1 に示した。なお、因子得点の計算では、回答値の標準化（平均 0、標準偏差 1）を行っている。

表 1 探索的因子分析の結果

No.	項目	因子	因子1	因子2	因子3	因子4	共通性
		α係数	0.921	0.842	0.876	0.651	
1	同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ		0.856				0.697
2	男性は出産休暇/育児休業を取るべきではない		0.826				0.615
3	転勤は男性がするものだ		0.784				0.621
4	男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ		0.775				0.644
5	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい		0.704				0.623
6	仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い		0.687				0.526
7	女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない		0.672				0.473
8	営業職は男性の仕事だ		0.666				0.613
9	女性の上司には抵抗がある		0.591				0.445
10	男性は仕事をして家計を支えるべきだ			0.800			0.578
11	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない			0.591			0.307
12	男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ			0.581			0.506
13	組織のリーダーは男性の方が向いている			0.547			0.522
14	受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ			0.525			0.508
15	家を継ぐのは男性であるべきだ			0.444			0.521
16	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ			0.435			0.293
17	家事・育児は女性がするべきだ				0.767		0.632
18	実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ				0.735		0.659
19	共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ				0.666		0.589
20	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ				0.617		0.520
21	PTAには、女性が参加するべきだ				0.519		0.565
22	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ				0.465		0.391
23	結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ				0.449		0.445
24	自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた					0.802	0.641
25	自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある					0.587	0.350
26	自分は性別による偏った思い込みはない					0.493	0.244
回転後の負荷量平方和			8.548	7.349	7.892	1.275	

因子間相関		因子1	因子2	因子3
	因子2	0.604		
	因子3	0.659	0.691	
	因子4	0.008	0.050	-0.079

※ 最尤法で因子数、プロマックス回転（6回反復）で因子負荷量を計算した
※ 分析は因子負荷量が0.4未満の質問項目を対象から除外しながら繰り返した

まず第 1 因子は 9 項目で構成され、「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」「男性は出産休暇／育児休暇を取るべきではない」「女性の上司には抵抗がある」など、職場における男性優位の意識が見られた。そこで、第 1 因子を「**職場の男性優位意識**」と名付ける。続いて、第 2 因子は 7 項目で構成され、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」「受付、接客・応対（お茶出し）などは女性の仕事だ」など、伝統的なステレオタイプ様のジェンダー感が見られる。そこで、第 2 因子は「**伝統的ジェンダー規範**」と名付ける。第 3 因子も

7 項目で構成され、「家事・育児は女性がするべきだ」「実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ」「PTA には女性が参加するべきだ」といった家庭・コミュニティでの性別役割分担意識が見られる。それゆえ、第 3 因子を「**家庭・コミュニティでの性別分業意識**」と名付ける。最後に、第 4 因子は 3 項目で構成され、自分自身の内面におけるジェンダー意識に関する質問が多い。それゆえ、第 4 因子を「**ジェンダー意識の自己認識**」と名付ける。

因子間の相関を見ると、第 4 因子「ジェンダー意識の自己認識」は他因子と独立していたが、第 1～第 3 因子間では正の相関が見られた。つまり、職場の男性優位意識（第 1 因子）、伝統的ジェンダー規範（第 2 因子）、家庭・コミュニティにおける性別分業意識（第 3 因子）のいずれかが高まると、他の因子も高まる傾向が確認された。この結果は、性別役割に関するアンコンシャス・バイアスの要因が互いに影響を及ぼし合い、特定の偏見が強まると、アンコンシャス・バイアス全体の意識が強化される構造を示している。

✓ **非階層クラスター分析の結果**

続いて、因子分析で得た因子をもとに回答が似ている者同士のグルーピングを行い、グループごとの特性分析を行った。ここではグループの塊であるクラスターを分類するにあたって、複数のクラスター分析を行ったうえで、非階層クラスター分析の手法を用いて、最も適切で理解しやすい 4 クラスターに分類した。結果を表 2 に示す。

表 2 非階層クラスター分析の結果（数字は因子得点平均値）

クラスター（人数）	職場の男性優位意識（第 1 因子）	伝統的ジェンダー規範（第 2 因子）	家庭・コミュニティでの性別分業意識（第 3 因子）	ジェンダー意識の自己認識（第 4 因子）
1（475 名）	0.525	0.715	0.652	-0.039
2（236 名）	0.133	-0.570	-0.293	-0.032
3（23 名）	-3.525	-2.037	-2.745	-0.501
4（153 名）	-1.305	-1.035	-1.160	0.246

まず、クラスター1 である。このクラスターは回答者全体の半数以上を占める。第 4 因子であるジェンダー意識の自己認識を除き、すべての因子得点が高く、職場や家庭における性別役割規範を強く支持している傾向が見え日本の伝統的なジェンダー感を持ったグループであり、自分自身のアンコンシャス・バイアスに対する認識や内省はほとんど見られない。第 4 因子がほぼゼロであることからも、自分自身の偏見に対する意識は乏しく、強いアンコンシャス・バイアスを持つ層と言えるだろう。

続いてクラスター2 である。このグループは回答者全体の 25%程度を占める。職場の男性優位意識はやや見られるものの、伝統的ジェンダー規範や家庭・コミュニティでの性別分業意識には比較的否定的な

回答傾向がある。ただし、第 4 因子であるジェンダー意識の自己認識に関しては中庸的であり、あまり内省的な態度が強いとは言えない。クラスター 1 のような極端な性別役割意識を持つわけではないものの、職場でのアンコンシャス・バイアスに対して一定の関心を持つ層と言える。

次にクラスター3 である。このクラスターは 23 名に留まり、数値的な影響力は限定的だが、性別役割規範を全面的に否定する、進歩的でジェンダーバイアスを拒絶する姿勢が非常に強い層である。ジェンダーバイアスを拒絶する意識が非常に強く、第 4 因子であるジェンダー意識の自己認識についても高い得点を示している。さらに、アンコンシャス・バイアスに対する意識も高さが見られ、日頃からこのようなバイアスを高く意識している層である。非常に少数であるが、特異な性質を持っているグループとして注目される。

最後にクラスター4 である。このクラスターは回答者全体の約 20%を占める。クラスター3 ほど進歩的ではないが、伝統的な性差役割規範を否定する傾向が見られる点で特徴的である。このグループでは、第 4 因子であるジェンダー意識の自己認識が他クラスターよりも高く、自身のジェンダー意識に対する内省や自己認識が深いことが読み取れる。また、ジェンダー意識に関心を持ちながら、現実の社会とのギャップに葛藤している様子が読み取れる。進歩型と言えるが、現状と理想の間に揺れ動いている層と位置付けられる。

✓ **クラスターごとの回答分析**

— 回答平均値の傾向

クラスターごとの傾向を詳細に確認するため、それぞれの回答平均値を確認したい（表 3）。まず注目すべきは、クラスター1 のアンコンシャス・バイアスの高さである。因子分析に利用した 26 項目の回答平均値は、3.65 であり、ほぼ「4.そう思う」の回答に近い。このクラスターは 475 名で回答者全体の半数を超える。加えて、クラスター2 でもその回答平均値は 3.16 であり、「3.どちらかといえばそう思う」以上であり、アンコンシャス・バイアスの水準が高い。さらに、因子別の回答平均値を見ると、第 1 因子 3.75、第 2 因子 2.69、第 3 因子 3.29 であり、職場の男性優位意識（第 1 因子）と家庭・コミュニティでの性別分業意識（第 3 因子）の得点が突出している。クラスター1 と比べると全体的な値は低く見えるが、部分的なバイアス意識の高さが確認できる。クラスター1、クラスター2 を含めると回答者全体の 80%となり、この層全体にアンコンシャス・バイアスの強い意識が顕在化していることが示唆される。

クラスター3、クラスター4 の回答平均値はそれぞれ 1.76、2.70 であった。クラスター3 は先の分析のとおり、アンコンシャス・バイアスを強く否定している様子が見える。その一方で進歩型と評したクラスター4 であるが、概ねの回答平均は「3. どちらかといえばそう思う」に近く、決してアンコンシャス・バイアスが低いとは言えないことには留意が必要であろう。

表 3 クラスターごとの回答平均値

クラスター	Q6S2 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	Q6S3 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ	Q6S4 家を継ぐのは男性であるべきだ	Q6S5 共働きでも子どもの体調が悪くなった時、母親が看病するべきだ	Q6S6 結婚したら姓を変えるのは女性であるべきだ	Q6S7 家事・育児は女性がするべきだ	Q6S8 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ	Q6S9 男性は仕事をして家計を支えるべきだ	Q6S10 男性であればいい大学を出て出世を目指すべきだ	Q6S11 PTAには、女性が参加するべきだ	Q6S12 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	Q7S1 組織のリーダーは男性の方が向いている	Q7S2 受付、接客・応対（お茶だし）などは女性の仕事だ	Q7S3 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	Q7S4 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	Q7S5 女性の上司には抵抗がある	Q7S6 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	Q7S7 男性は出産休暇／育児休業を取るべきではない	Q7S8 営業職は男性の仕事だ	Q7S9 転勤は男性がするものだ	Q7S10 同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	Q7S11 女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない	Q7S12 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	Q9S1 自分は性別による偏った思い込みはない	Q9S2 自分の言動が性別による偏った思い込みに基づいていないか考えることがある	Q9S3 自分の中で、性別による役割分担意識は弱まってきた
1	3.75	3.87	3.81	3.93	3.82	3.95	4.00	3.43	3.82	3.96	3.73	3.75	3.81	3.22	3.96	3.93	3.97	3.97	3.97	3.97	3.97	3.92	3.93	2.27	2.23	1.98
2	3.08	3.07	2.79	3.31	3.02	3.42	3.78	2.03	2.96	3.39	3.13	2.86	2.80	2.28	3.71	3.69	3.77	3.89	3.66	3.79	3.83	3.74	3.64	2.25	2.21	1.99
3	1.87	1.96	1.70	1.87	1.52	1.96	1.96	1.57	1.57	1.96	2.22	1.43	1.65	1.65	2.09	1.96	1.70	2.04	1.65	1.78	1.48	1.74	1.43	1.83	1.65	1.57
4	2.77	2.71	2.51	2.71	2.67	2.87	3.15	2.01	2.50	2.76	2.73	2.38	2.39	2.31	3.04	3.01	3.01	3.21	2.83	2.86	2.97	3.03	2.65	2.43	2.37	2.31

― 鹿児島市と他都市に対するアンコンシャス・バイアスへの意識

今回のアンケート対象である鹿児島市内の大学・大学院生は、都市ごとのアンコンシャス・バイアスの程度をどのように認識しているのか。Q16 の回答結果をもとに、クラスターごとの回答差異を含めた分析を行いたい。

質問に設定された比較対象の都市は、東京都・福岡市・鹿児島市である。結果を表 4 に示すが、まず注目すべきは、「平等」と回答した割合の都市間差である。「わからない」と回答した者を除いて比較すると、東京都：33.5%、福岡市：27.4%、鹿児島市：19.2%となっており、鹿児島市が最も低い結果となった。ただし、今回のアンケートはあくまで鹿児島市内の大学生・大学院生を対象としており、回答者が実際に東京都や福岡市に居住した経験を持たない可能性が高い点には留意する必要がある。

加えて、男性優位社会と認識する回答者の割合にも都市間で顕著な差が見られた。男性が優位と回答した割合は東京都：53%程度、福岡市：60%程度、鹿児島市：70%程度と、東京都と鹿児島市の間には 20%近くの差がある結果となった。このことから、鹿児島市は他都市よりも男性優位社会と認識されていることが表れている。その一方、女性が優位と回答した割合では、鹿児島市が東京都・福岡市よりも 5%程度低い結果となった。東京都・福岡市ではほぼ同じ程度の割合であることを考慮すると、鹿児島市では相対的に男性優位社会との認識が強いことが明確に示されている。

なお、クラスター別の分析では、都市間認識に対する回答割合に大きな差異は見られなかった。このことから、アンコンシャス・バイアスに基づく都市間の認識のずれは、回答者のクラスター特性というよりも、地域的な文化や価値観の違いに基づいている可能性が高いと考えられる。

表 4 東京都・福岡市・鹿児島市の男女の地位の平等性

■東京都

クラスター	男性優位	やや男性優位	平等	やや女性優位	女性優位	わからない
全体	55 (6.2%) (10.6%)	222 (25.5%) (42.7%)	174 (19.6%) (33.5%)	56 (6.3%) (10.8%)	13 (1.5%) (2.5%)	367 (41.4%) (-)
1	18 (3.8%) (6.9%)	123 (25.9%) (47.1%)	89 (18.7%) (34.1%)	26 (5.5%) (10.0%)	5 (1.1%) (1.9%)	214 (45.1%) (-)
2	16 (6.8%) (12.4%)	54 (22.9%) (41.9%)	48 (20.3%) (37.2%)	10 (4.2%) (7.8%)	1 (0.4%) (0.8%)	107 (45.3%) (-)
3	7 (30.4%) (35.0%)	3 (13.0%) (15.0%)	7 (30.4%) (35.0%)	2 (8.7%) (10.0%)	1 (4.3%) (5.0%)	3 (13.0%) (-)
4	14 (9.2%) (12.7%)	42 (27.5%) (38.2%)	30 (19.6%) (27.3%)	18 (11.8%) (16.4%)	6 (3.9%) (5.5%)	43 (28.1%) (-)

（1 段目：回答数、2 段目：割合、3 段目：「わからない」を除いた割合）

■福岡市

クラスター	男性優位	やや男性優位	平等	やや女性優位	女性優位	わからない
全体	48 (5.4%) (11.0%)	208 (23.4%) (47.8%)	119 (13.4%) (27.4%)	43 (4.8%) (9.9%)	17 (1.9%) (3.9%)	452 (51.0%) (-)
1	23 (4.8%) (10.7%)	115 (24.2%) (53.5%)	54 (11.4%) (25.1%)	14 (2.9%) (6.5%)	9 (1.9%) (6.5%)	260 (54.7%) (-)
2	12 (5.1%) (11.5%)	49 (20.8%) (47.1%)	32 (13.6%) (30.8%)	11 (4.7%) (10.6%)	0 (-) (-)	132 (55.9%) (-)
3	4 (17.4%) (22.2%)	6 (26.1%) (33.3%)	5 (21.7%) (27.8%)	1 (4.3%) (5.6%)	2 (8.7%) (5.6%)	5 (21.7%) (-)
4	9 (5.9%) (9.2%)	38 (24.8%) (38.8%)	28 (18.3%) (28.6%)	17 (11.1%) (17.3%)	6 (3.9%) (6.1%)	55 (35.9%) (-)

（1 段目：回答数、2 段目：割合、3 段目：「わからない」を除いた割合）

■鹿児島市

クラスター	男性優位	やや男性優位	平等	やや女性優位	女性優位	わからない
全体	127 (14.3%) (19.8%)	340 (38.3%) (53.1%)	123 (13.9%) (19.2%)	37 (4.2%) (5.8%)	13 (1.5%) (2.0%)	247 (27.8%) (-)
1	77 (16.2%) (23.2%)	183 (38.5%) (55.1%)	52 (10.9%) (15.7%)	14 (2.9%) (4.2%)	6 (1.3%) (1.8%)	143 (30.1%) (-)
2	29 (12.3%) (17.0%)	95 (40.3%) (55.6%)	34 (14.4%) (19.9%)	12 (5.1%) (7.0%)	1 (0.4%) (0.6%)	65 (27.5%) (-)
3	4 (17.4%) (20.0%)	7 (30.4%) (35.0%)	5 (21.7%) (25.0%)	2 (8.7%) (10.0%)	2 (8.7%) (10.0%)	3 (13.0%) (-)
4	17 (11.1%) (14.5%)	55 (35.9%) (47.0%)	32 (20.9%) (27.4%)	9 (5.9%) (7.7%)	4 (2.6%) (3.4%)	36 (23.5%) (-)

（1 段目：回答数、2 段目：割合、3 段目：「わからない」を除いた割合）

― 鹿児島市への定住意欲とアンコンシャス・バイアスの影響

続いて、Q17「卒業後、鹿児島市に定住したいですか」、Q18「Q１７で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と回答した方におたずねします。鹿児島市における性別による偏った思い込みは、あなたの定住意向（Q１７の回答）にどの程度影響を与えていますか。」の結果を分析したい。

表 5 に Q17 の回答結果を示した。全体では、鹿児島に定住したいと考える回答割合は 60%を超えており、どのクラスターでも高い回答割合を示している。このことから鹿児島市内の大学・大学院生は総じて鹿児島市への定住意欲を強く持つと言える。ただし、クラスター3 では、定住に特に肯定的な様子が見えるが、そもそもクラスター人数が少ないため、結果の解釈には留意が必要である。

表 5 鹿児島市への定住意欲

クラスター	そう思う	どちらかと いえばそう思う	どちらかと いえばそう思わない	そう思わない
全体	282 (31.8%)	280 (31.6%)	174 (19.6%)	151 (17.0%)
1	132 (27.8%)	155 (32.6%)	103 (21.7%)	85 (17.9%)
2	87 (36.9%)	74 (31.4%)	45 (19.1%)	30 (12.7%)
3	12 (52.2%)	3 (13.0%)	4 (17.4%)	4 (17.4%)
4	51 (33.3%)	48 (31.4%)	22 (14.4%)	32 (20.9%)

それでは、定住意欲のない人のうち、アンコンシャス・バイアスが影響しているのはどの程度なのだろうか。表 6 に鹿児島市への定住意欲に対するアンコンシャス・バイアスの影響（Q18）の回答割合を示した。なお、この質問は Q17 の定住意欲に対する回答のうち、定住意欲の低い「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した人に対して、問うている。

全体的な結果としては、定住意欲に対してアンコンシャス・バイアスの影響はないとする回答割合が 70%超であった一方、影響あるとしたのは 30%弱に留まった。なお、回答者全体（887 名）における割合では 10%程度である。この数字の評価はさらなる分析が必要だと考えるが、もし鹿児島市の大学生・大学院生のうち 1 割がアンコンシャス・バイアスによって鹿児島市への定住をためらっている現状があるならば、市政にとっては重要な課題を示していると考えられる。

次にクラスター別では、回答者が 8 名しかないクラスター3 を除くと、アンコンシャス・バイアスに対して比較的先進的な態度のあるクラスター4 において、「アンコンシャス・バイアスが定住意欲に影響している」とする回答割合が 30%を超えており、ジェンダーバイアス意識の高い層がこうした回答傾向を示していると考えられる。その一方、問題と考えられるのは、アンコンシャス・バイアスを持つクラスター1、クラスター2 では、アンコンシャス・バイアスの有無が定住意欲にあまり影響していない点である。つまり、鹿児島市ではアンコンシャス・バイアスへの意識が低い層がそのまま集住する可能性を示唆している。この層に対してアンコンシャス・バイアスへの意識を啓発しなければ、鹿児島市が男性優位社会であるというイメージを改善することは難しいだろう。

表 6 鹿児島市への定住意欲に対するアンコンシャス・バイアスの影響

クラスター	非常に影響	やや影響	あまり影響ない	まったく影響ない
全体	16 (4.9%)	75 (23.1%)	91 (28.0%)	143 (44.0%)
1	10 (5.3%)	43 (22.9%)	52 (27.7%)	83 (44.1%)
2	2 (2.7%)	16 (21.3%)	19 (25.3%)	38 (50.7%)
3	0 (-)	3 (37.5%)	0 (-)	5 (62.5%)
4	4 (7.4%)	13 (24.1%)	20 (37.0%)	17 (31.5%)

✓ **総括**

本調査は、鹿児島市の大学生・大学院生を対象にアンコンシャス・バイアスへの意識を問うアンケートを実施し、定住意欲やその影響を分析したものである。探索的因子分析と非階層クラスター分析により、回答者の性別役割規範やジェンダーに関する内省的意識を評価するとともに、都市ごとのジェンダー観や定住意欲への影響を検討した。

今回の調査結果では、回答者の大半が強いアンコンシャス・バイアスを持っていることが明らかになった。特に伝統的なジェンダー役割規範を強く支持するクラスター1 が全体の約 55%を占めており、職場や家庭における性別役割に対する固定観念が根強く存在していることが示唆される。その一方で、最も進歩的な価値観を持つとされるクラスター3 の割合はわずか 2.6%であり、回答者全体として進歩的なジェンダー観の意識は非常に限られていることが分かった。ただし、クラスター4 のように、伝統的な価値観と進歩的な意識の間を揺れ動き、部分的にジェンダーバイアスを内省する層も一定数存在していることには留意しなければならない。

また、都市ごとのジェンダー観に対する回答では、鹿児島市は東京都や福岡市と比較して「平等」との回答割合が最も低く、特に男性優位社会として認識される傾向が顕著であった。さらに、定住意欲に関する分析では、回答者全体として鹿児島市への定住意向は高いものの、一部でアンコンシャス・バイアスが定住をためらう理由となっていることが分かった。これらの結果から、鹿児島市においてジェンダーバイアスの啓発が不十分であるとの現状が伺える。

本調査の総括として以下の２つのポイントを強調したい：

1. **教育機関におけるアンコンシャス・バイアスの啓発が必要不可欠である：**

   調査結果より、回答者の大半において、職場や家庭、コミュニティにおける強い性別役割規範が見られた。この意識は、ジェンダー平等社会の実現を阻む要因となり得るため、大学生・大学院生対象の啓発活動や教育プログラムの重要性が明らかである。特にクラスター1 と 2 にのような強固なアンコンシャス・バイアスを持つ層対する意識改革が必要だと考えられる。また大学に留まらず、保育施設・幼稚園から高等学校までにおけるアンコンシャス・バイアスへの継続的な啓発活動が必要であろう。

2. **行政・一般企業を含めたアンコンシャス・バイアスの啓発も必要不可欠である：**

今回の調査では、性別役割規範が強い層において、定住意欲が高い傾向が見られた。一方で、男性優位社会として認識される鹿児島市のジェンダーバイアスが、進歩的な層の定住を妨げる要因となっている可能性も浮き彫りになっている。これらの層を惹きつける施策を講じるためにも、行政・一般企業を含めた一般社会へのジェンダーバイアスへの継続的な是正措置に加え、積極的な啓発が必要であろう。協調点①②を両輪で進めることによって、鹿児島市における男性優位社会のイメージ払しょくにもつながり、地域イメージの改善効果が見込まれる。

本報告書の調査結果と分析をもとに、鹿児島市内におけるアンコンシャス・バイアスの実態を明らかにし、今後、ジェンダー平等社会の構築に向けた優先的な課題と施策についてさらに検討を進める必要がある。特に、世代間や地域文化に根付く固定観念を緩和し、若者層を中心としたジェンダーバイアスへの意識啓発と教育プログラムが鍵となるだろう。ただし、アンコンシャス・バイアスへの対応は鹿児島市に限った課題ではない。最近でも SNS 上で九州の男尊女卑を揶揄する“さす九”と呼ばれるネットスラングが話題となったばかりである[1]。そもそも我が国自体も 2025 年のジェンダー・ギャップ指数では 148 か国中 118 位と低位に甘んじている状況にあり、国際的な評価は厳しい[2]。

これらの現状を踏まえれば、鹿児島市を含む国内地域でのアンコンシャス・バイアスの緩和は、ローカルな取り組みにとどまるものではなく、国全体としても取り組むべき喫緊の課題であるとも言える。しかし、その一方で地方自治体だからこその柔軟な取り組みも可能であると考えられる。一朝一夕に解決する課題ではないが、小さくとも草の根からの取り組みが求められている。

以上

---

[1] 西日本新聞，「男尊女卑やゆ「さす九」SNS で拡散　性別による無意識の思い込み調査、九州の傾向は」, 2025/3/9（2025/9/1 確認）

[2] 内閣府男女共同参画局，男女共同参画に関する国際的な指数，https://www.gender.go.jp/international/int_syogaikoku/int_shihyo/index.html（2025/9/1 確認）

性別による無意識の思い込み
（アンコンシャス・バイアス）
に関する市民意識調査
報告書

鹿児島市市民局人権政策部　男女共同参画推進課
〒890-0054
鹿児島市荒田１丁目４番１号
電話 099-813-0852　FAX099-813-0937